

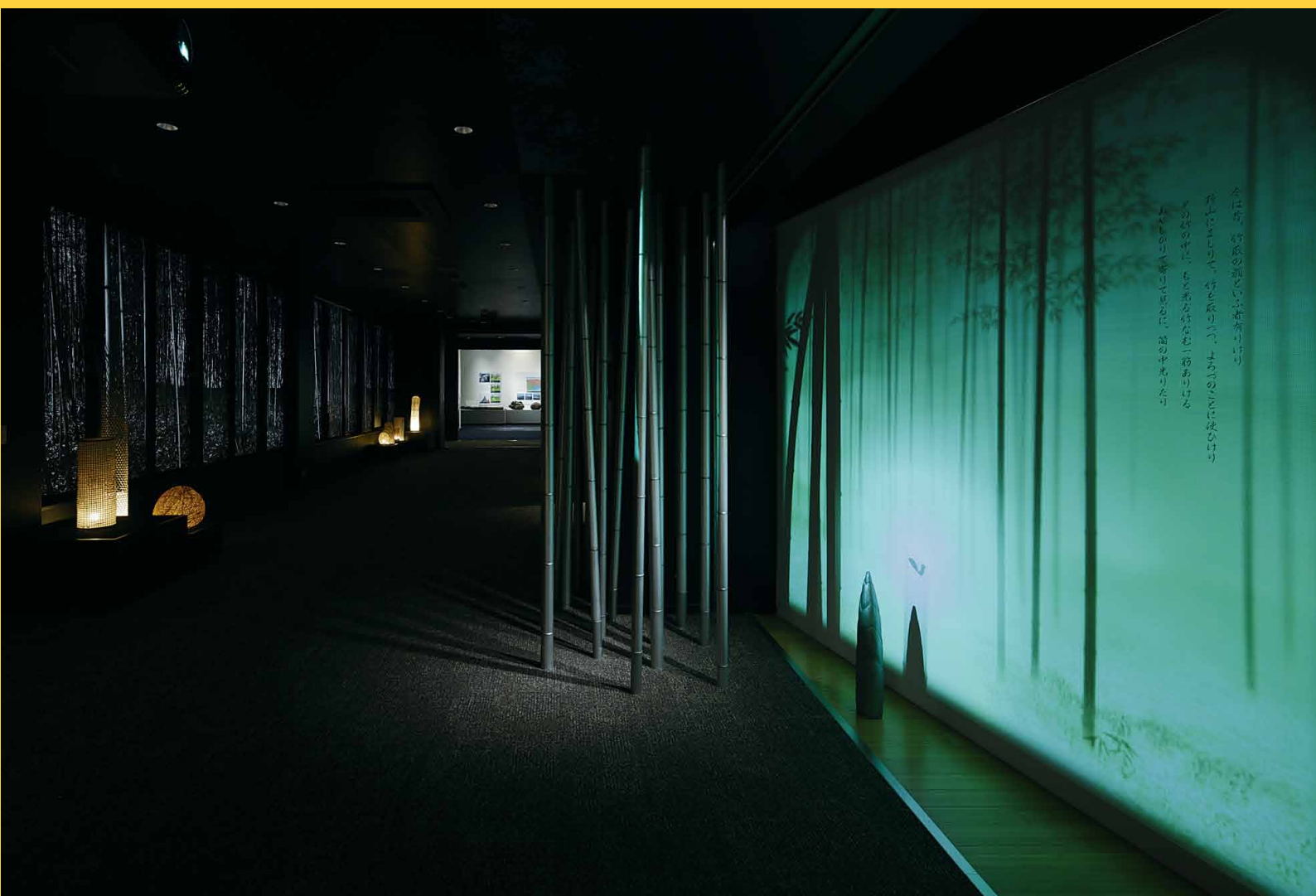
館報

第31号
平成27年度

2016年9月

富士山かぐや姫ミュージアム

Mt.Fuji and Princess Kaguya Museum



富士市立博物館から

富士山かぐや姫ミュージアムへ

2015年5月から2016年4月までの間、富士市立博物館本館において耐震補強工事と展示工事を実施した。右は展示工事が終わった2016年4月の本館外観。一般による公募・投票の結果、リニューアルオープン後の愛称は「富士山かぐや姫ミュージアム」に決定した。



富士山に帰ったかぐや姫の物語を展示する

世界でただひとつのミュージアム

富士山周辺の地域には、かぐや姫が富士山に帰り、最後に富士山の祭神になるという独特な竹取物語が伝わっている。新しい展示室では、近年の調査で発見されたその物語を裏付ける歴史資料を中心に、富士山とかぐや姫とのつながりや富士山に対する信仰の実態へと迫る展示が展開される。



巻頭図版 2



南張富士講で用いられた富士山の掛け軸

雪舟に端を発する富士山図の基本形で、駿河湾越しの遠景に三峰の富士、左下には清見寺、右下には三保松原が描かれた掛け軸。画面左上には「友閑斎有信七十五歳筆」とある。三重県志摩市浜島町南張地区の富士講における行事（日待）の際に会場に掛けられたもの。平成21年に富士講の人々により表具が新しくされている。

【4-（3）井上報告参照】



掛け軸裏面の記載

平成21年に表具を新しくした際に、裏面の記載部分も保存され、新たな表具の裏面に貼り付けられている。そこには、この掛け軸はもともと南張の徳林寺で大切に受け継がれてきたものであり、弘化2年（1845）に徳林寺の住職より南張の富士講へと譲られたということが記されている。また、当時の講のメンバー35名の名が記されている。

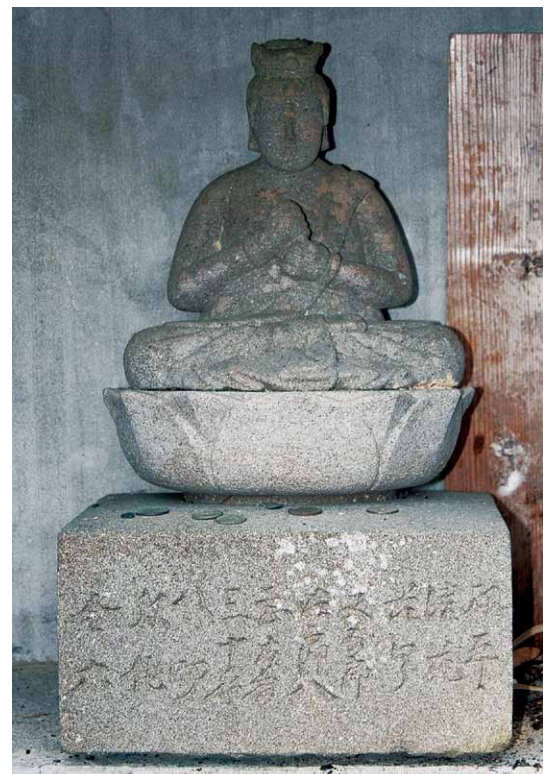
【4-（3）井上報告参照】



南張の浅間さん

三重県の伊勢・志摩地方では、富士山の本地仏である大日如来を祀る「浅間さん」が、富士山の村山修験の檀越活動を受けて組織された富士講の人びとにより数多く設けられ、行事の舞台となった。本像は、南張の富士講の人びとに祀られた大日如来（金剛界）で、台座には享保12年（1727）に奉納されたことが刻まれている。なお、現在ではコンクリートの祠に納められているが、すぐ脇には石を組んで作った祠が残されており、かつてはそちらに納められていた。

【4-（3）井上報告参照】



南張富士講書類

南張の富士講に関する史料は 132 点に及ぶ。これらは、「南張富士講書類」と記された木箱などに納められており、講の行事の当番である宿本の家で、大切に保管された。講の行事が終わると次の宿本へと引き継ぎがおこなわれた。

【4-（3）井上報告参照】

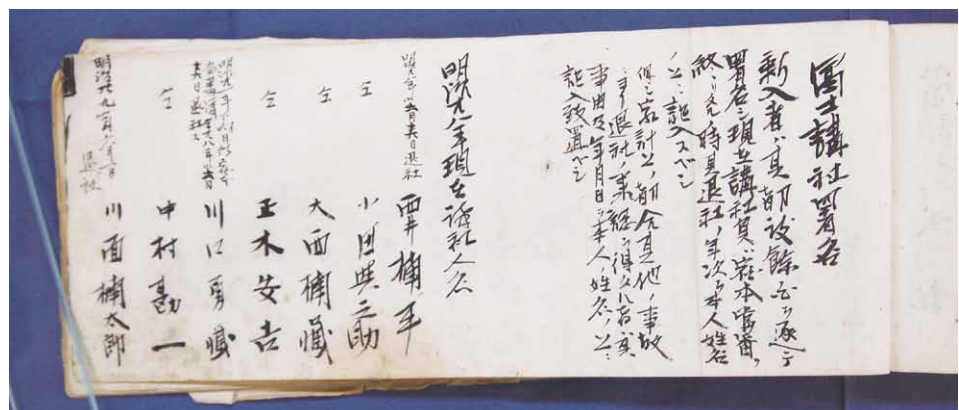
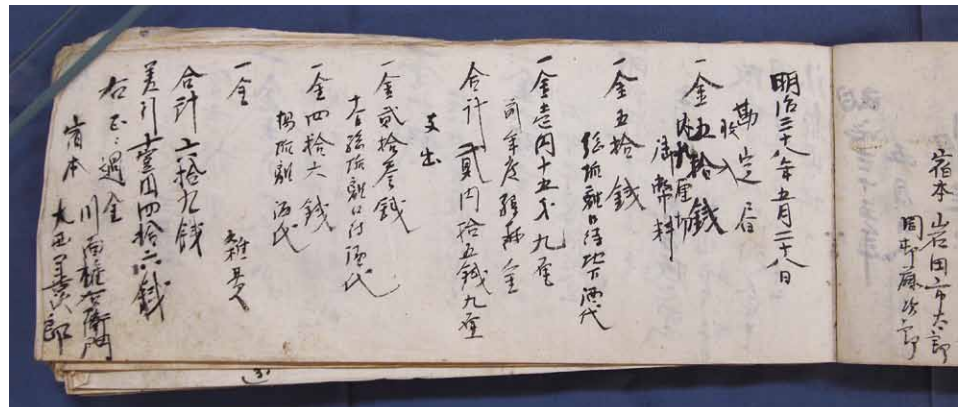
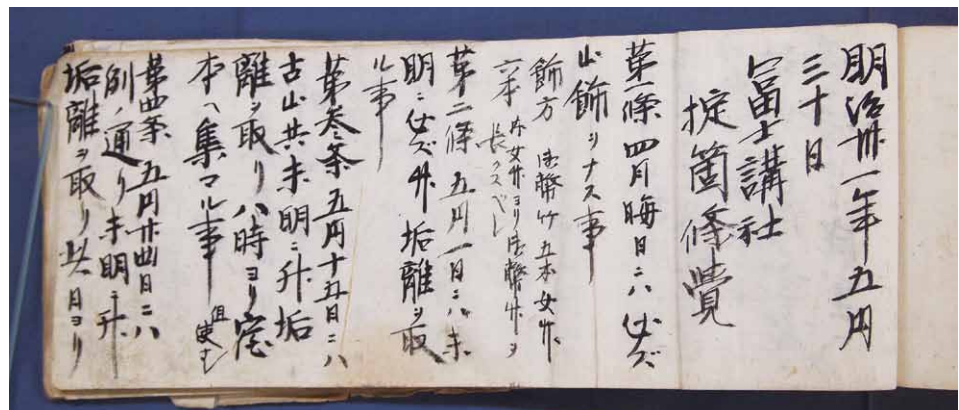


南張富士講帳簿

（右上：規約、右中央：定式祭礼の収支、右下：議員連名簿、下：表紙）

南張の富士講に関わる様々な事項を書き留めた帳簿。その期間は、明治 28 年（1895）から平成 20 年（2008）までの 113 年間におよんでおり、講の変容の姿を知ることができる。

【4-（3）井上報告参照】



巻頭図版 4



常滑産三筋壺（図 2-1）



凝灰岩製五輪塔（図 2-2、※市指定その 2）



「文保二年十二月八日」銘



デイサイト製五輪塔（図 2-3、※市指定その 1）

水輪に刻まれた四方を示す梵字には、金箔が象嵌される。

今井中世五輪塔群

富士市今井一丁目に所在する当該遺跡の出土資料の中には、富士市指定有形文化財（建造物）に登録される 2 基の五輪塔のほか、12 世紀後半の常滑産の蔵骨器や 14 世紀代の五輪塔が存在することが判明した。吉原湊に近接した要衝地に、中世初頭から勢力を誇る有力寺院があった可能性が指摘される。

【4-（1）藤村報告参照】

ごあいさつ

富士市立博物館は「富士山かぐや姫ミュージアム」の愛称を冠し、本年4月29日にリニューアルオープンいたしました。当館は「富士に生きる一紙のまちの歴史と文化」をメインテーマに掲げ、岳南地域の歴史と文化、並びに基幹産業である製紙に関する調査研究・資料収集・保管・展示・教育普及を目的に、昭和56年4月25日に開館し、これまでに3回程部分的な展示リニューアルを行い常設展示を見直してまいりました。また、平成6年には分館である歴史民俗資料館が開館し、民俗分野の展示を強化してきたところでございます。併せて、隣接する広見公園内のふるさと村歴史ゾーンは、樋代官長屋門や旧稲垣家住宅をはじめとした文化財建物8棟のほか、竪穴住居跡などの復元建物など、屋外展示11棟の建物群で構成された県内屈指の民家園となっており、市民の皆様に親しまれてきました。

しかしながら、本館は耐震強度不足や、老朽化、さらに展示公開エリアの狭隘感等も指摘され、先行して作成された耐震計画に併せ、平成23年度に博物館リニューアル検討委員会を設置し、将来構想を盛り込んだ、総合的且つ抜本的なリニューアル基本計画を策定いたしました。さらに、平成25年6月の富士山世界文化遺産登録に併せ、リニューアルコンセプトの一部見直しもおこなっております。平成27年3月には本館の工事に先行し、広見公園歴史ゾーンと本館2階を連結する園路並びに、外部収蔵庫が完成いたしました。

そして、平成27年5月から耐震リニューアル工事に着手し、約1年間の本館休館期間を経て、平成28年4月29日、盛大に落成式を開催しオープンの日を迎えました。

なお、新設の富士山世界文化遺産関連コーナーにつきましては、県世界遺産センター整備課の御助力を得て展示しております。その他につきましても、関係機関や協力者から多大な御支援・御鞭撻をいただきました。改めて深く感謝申し上げます。

未来を担う子供たちが、生まれ変わった富士山かぐや姫ミュージアムの展示に触れることにより、ふるさとの歴史と文化に愛着と誇りを持っていただければ幸いです。また、博物館が充実することにより、市外、県外に向けての情報発信力が高まり、ひいてはシティプロモーションにもつながるものと考えております。このような観点に立ち、一人でも多くの方々に御利用いただければと、リニューアルに併せ常設展観覧料を無料化しました。

富士山に帰るかぐや姫物語を展示する世界でただひとつのミュージアム・富士山かぐや姫ミュージアムへのお越しを職員一同お待ちしております。

平成28年9月

富士山かぐや姫ミュージアム
館長 木ノ内 義昭

目次

巻頭図版

ごあいさつ

平成27年度 年報と概要

1 平成27年度 事業報告

(1) 展示会	4
(2) 教室・講座・イベント・調査.....	5
(3) 学校等への参加協力事業	15
(4) 富士市立博物館展示リニューアル実施状況.....	17
(5) 富士市立博物館ボランティアの活動	22

2 平成27年度 施策・利用状況

(1) 教育行政の基本方針と施策.....	23
(2) 予算・決算の概要	23
(3) 博物館協議会	24
(4) 利用状況	25

3 富士市立博物館の概要

(1) 施設の概要.....	27
(2) 事業の概要	28
(3) 資料及び図書収集状況.....	29
(4) 富士市立博物館条例・規則.....	31

紀要

4 調査研究報告

(1) 富士市域の中世墓 ～今井中世五輪塔群・沢上遺跡出土資料の紹介～ 藤村 翔（当館学芸員）.....	35
(2) 快印以前の東泉院住持の変遷 ―武田氏の駿河支配の影響― 山本 倫弘（当館調査員）.....	48(27)
(3) 南張富士講帳簿の翻刻と解説 井上 卓哉（当館学芸員）.....	72(3)

5 利用案内.....	73(2)
-------------	-------

平成 27 年度
年報と概要

Annual Report
2015

1 平成 27 年度 事業報告

(1) 展示会



モバイルミュージアム（富士川楽座）



愛称募集選挙（アビタ富士吉原店）



日常の中の富士山（中央図書館）



モバイルミュージアム・フライヤー

自主展観事業				
種別	テーマ展		出張展示	
事業名称	富士市立博物館 30年の歩みとこれから		富士かぐやモバイルミュージアム	
会期	2/14(土)～5/17(日)【80日間】		7/18(土)～3/31(水)【126日間】	
内容	昭和56年の開館後、平成28年4月には33周年を迎える富士市立博物館は、耐震補強工事、展示リニューアルのため、本展示会終了後、一時休館する。本展示会では、考古、歴史、美術、民俗、紙の各分野からなる多様な収蔵品と、リニューアル後の博物館について紹介した。 I 富士山関係資料 II 考古分野資料 III 歴史分野資料 IV 美術工芸分野資料 V 紙分野資料 VI 民俗分野資料 このほか、過去に行われた展示会のポスターの掲示、博物館年表の掲示を行った。		平成27年度は、次年度に控える展示室リニューアルオープンに向け、5月下旬以降に本館が休館となり、収蔵資料の公開や見学なども不十分となるため、その間に博物館の意義や価値が市民から忘れられないよう出張展示を企画した。本事業は、休館中も市内各所にて観覧無料の出張展示を実施することにより、博物館の活動を通年どおり市内外の皆様にPRする場を設けることを目的としたもの。また、同時にリニューアル後の博物館の姿も宣伝することで、市民の皆様に博物館リニューアルオープンへの期待感を持っていただくことを目指した。 I 竹取物語へのいざない、II かぐや姫と富士山～富士の竹取物語～、III 富士山登山案内絵図にみる南麓の信仰空間、IV 南麓に受け継がれる富士山信仰～鳥居講～（②と⑦では会場の都合で省略）、V 生まれ変わる博物館 ①7月18日(土)～9月6日(日) 51日間 10,572人 ②9月25日(金)～10月4日(日) 10日間 約1,000人 ③10月8日(木)～10月12日(月祝) 5日間 人数不明 ④10月11日(日) 1日間 350人 ⑤10月27日(火)～11月15日(日) 18日間 28,094人 ⑥平成28年1月22日(金)～1月31日(日) 10日間 人数不明 ⑦2月20日(土)～2月28日(日) 9日間 約1,000人 ⑧3月1日(火)～3月31日(木) 22日間 人数不明	
会場	1階・2階ロビー 特別展示室		①富士川楽座、②・⑦ステーションプラザ FUJI、③アビタ富士吉原店、④吉原商店街、⑤富士市立中央図書館、⑥ロゼシアター、⑧富士市教育プラザ	
対象	一般		一般	
来場者数	大人	2513人	大人	人
	小人	2006人	小人	人
	合計	4519人	合計	41016人
関連イベント	1日平均 56.49人 ギャラリートーク 22回実施 参加人数は下段のとおり		1日平均 325.52人 I 学芸員によるモバイルミュージアムトーク 10回実施 参加人数は下段のとおり II 博物館愛称アンケート＆選挙 会場①・②で愛称募集アンケートを実施。 このアンケート結果をもとに会場③・④で選挙を行い、12月、愛称「富士山かぐや姫ミュージアム」に決定。	
	合計	75人	合計	861人

(2) 教室・講座・イベント・調査

各種講座教育普及事業					
種別	展示関連企画		陶芸・土器作り		
事業名称	日常の中の富士山 ～市民と一緒に展示づくり～	富士山とかぐや姫 シンポジウム 富士山と、かぐや姫 ～そのつながりを探る～	チャレンジ!! 陶芸	陶芸歳時器	陶芸室自由開放日
日時	11/3 (火祝) 13:30～16:00	11/14 (土) 13:00～17:00	偶数月第2・4土曜 9:30～11:30 各回2回計12回	奇数月第2土曜 9:30～11:30 計6回	毎月第2日曜 ※6・12月を除く 9:30～16:00 計10回
内容	日常の中の富士山と題した写真を広く市民から集め、写真にまつわる思い出を撮影者から聴き取り、解説文をつくるまでを行うワークショップ。成果物はオープン後の博物館に実際に展示されている。 ①作品、参加者募集 9/16～10/20 ②展示体験ワークショップ 11/3 ③作品の展示公開 ・リニューアル後の展示室「富士山とかぐや姫」にて展示 協力 (株)乃村工芸社、(株)富士通研究所	リニューアルの目玉である富士山とかぐや姫に関する最新の研究成果を報告。 講師と演題 西岡芳文氏「富士山縁起の成立とかぐや姫」 菊池邦彦氏「富士山縁起の歴史的展開」 大高康正氏「富士山東泉院とかぐや姫」 中村羊一郎氏「静岡県内のかぐや姫と天女伝説」 協力 富士市産業経済部観光課 富士山・シティプロモーション推進室	陶芸を始めてみたい初心者を対象に開催。気軽に陶芸に触れることができる講座。 2回で1講座。 参加者は、講師から基本的な成形を習い、1回目は粘土1kgを使って好きな形の作品を作る。 乾燥後、素焼きを行い、2回目には、素焼きの作品に呉須で絵付けを行う。 その後、希望の釉薬をかけて焼き上げる。 完成は1ヶ月後。	初心者でも作りやすいテーマを季節ごとに設定し、粘土で作品を製作する楽しさを気軽に体験してもらおう。 ①5月-風鈴作り ②7月-ランプシェード ③9月-香炉(アロマボット) ④11月-干支置物(申) ⑤1月-ひな人形 ⑥3月-鯉のぼり	陶芸中級者レベルの方のための講座。粘土でお皿やカップなど自由に製作する。
会場	富士市立中央図書館 視聴覚室	富士市消防防災庁舎 7階 大会議室	工芸棟陶芸室	工芸棟陶芸室	工芸棟陶芸室
対象	一般	一般	小学生以上一般 小学生は保護者同伴	小学生以上一般 小学生は保護者同伴	小学生以上一般
定員	先着20人	先着100人	先着30人	先着30人	先着30人
募集開始	9/16(水)～	7月18日(土)～	偶数月第1土曜9:00～	奇数月第1土曜9:00～	当日9:00～
受講料	無料	200円	1,000円	1,000円	粘土1kg1,000円
講師	乃村工芸社スタッフ・ 館職員	上記	館職員 陶芸ボランティア	館職員 陶芸ボランティア	なし
参加人数	11/3 17人	11/14 88人	①4/11、4/25 12人 ②6/6、6/20 8人 ③8/8、8/22 29人 ④10/10、10/24 14人 ⑤12/5、12/19 12人 ⑥2/13、2/27 20人 合計 95人	①5/9 7人 ②7/11 13人 ③9/12 10人 ④11/14 15人 ⑤1/9 9人 ⑥3/12 10人 合計 64人	①4/12 17人 ②5/10 16人 ③7/12 11人 ④8/9 13人 ⑤9/13 16人 ⑥10/11 12人 ⑦11/8 10人 ⑧1/10 14人 ⑨2/14 7人 ⑩3/13 8人 合計 124人

各種講座教育普及事業							
種別	陶芸・土器作り			型染・染色		手漉き和紙	
事業名称	古代人の暮らし～古代の知恵に学ぶ～			富士の型染体験		手作り和紙工芸	
	ミニミニ埴輪づくり	古代料理レストラン	親子どきやき体験	テーブルセンター	ノートカバー・カードケース	漉き込みうちわ	三島暦を摺る
日時	7/20(月祝) 9:00～12:00	11/29(日) 9:00～13:00頃	① 11/23(月祝) ② 2/11(木祝) 時間はいずれも 9:30～12:00	8/1(土) 9:30～12:30	8/8(土) 9:30～12:30	7/12(日) ① 9:00～ ② 10:00～ ③ 11:00～	11/28(土) 9:00～12:00
内容	様々な体験を通して先人の知恵や工夫を学ぶ。 大昔の埴輪をモチーフにしてミニミニ埴輪を作り、簡単な窯で焼く。 弓ギリ式火おこし道具を使っての、古代の火おこし体験。	様々な体験を通して先人の知恵や工夫を学ぶ。 古代のカマド作りを行った後、台付甕やカマドを使った調理法にて古代料理を再現することで、古代人の食生活を体験。	様々な体験を通して先人の知恵や工夫を学ぶ。 古代の土器や装飾品をモチーフにしたペンダントを、粘土で成形・焼成。 弓ギリ式火おこし道具を使っての、古代の火おこし体験。	郷土で育まれた型染文化の普及・継承を目的とし、染色の工程を中心に、1日で作品を仕上げる。 ①テーブルセンター	郷土で育まれた型染文化の普及・継承を目的とし、染色の工程を中心に、1日で作品を仕上げる。 ②ノートカバー・カードケース	富士市の地場産業である紙について学び、和紙を使った工芸作品の制作体験を通して、その製法や、和紙の美しさなどについての知識を深める。 うちわの骨を和紙に漉き込み、オリジナルのうちわを作る。	和紙を漉き、そこに三島暦を刷る体験。三島暦とは、三島大社でつくられた日本最古の暦（カレンダー）で、江戸時代の版木から復元した樹脂の版木をもとに刷る。
会場	工芸棟陶芸室他	工芸棟陶芸室他	工芸棟陶芸室他	工芸棟染色室	工芸棟染色室	工芸棟染色室	工芸棟染色室
対象	年少園児から小学生とその保護者（4年生以下は保護者同伴）	小学生以上一般（小学生は保護者同伴）	年少園児から小学生とその保護者（4年生以下は保護者同伴）	小学生以上一般（4年生以下は保護者同伴）	小学生以上一般（小学生は保護者同伴）	小学生以上一般（4年生以下は保護者同伴）	小学生以上一般（4年生以下は保護者同伴）
定員	先着 親子15組(30人)	先着 15 人	先着 親子15組程度(35人)	先着 20 人	先着 20 人	①②③各回 先着 5 人	先着 10 人
募集開始	7/11(土) 9:00～	11/21(土) 9:00～	① 11/14(土) ② 2/6(土) いずれも 9:00～	7/20(月祝) 9:00～	7/20(月祝) 9:00～	6/23(火) 9:00～	11/5(木) 9:00～
受講料	150 円 / 人	700 円 / 人	50 円 / 人	1,000 円 材料費込み	1,000 円 材料費込み	600 円	500 円
講師	館職員	館職員	館職員	富士の型染グループ 萌黄	富士の型染グループ 山吹	富士手漉和紙同好会	三島暦の会
参加人数	7/18 31 人	11/29 17 人	① 11/23 35 人 ② 2/11 32 人 合計 67 人	12 人	26 人	①②③ 15 人	8 人
2講座合計				38 人		2講座合計 23 人	



陶芸歳時器



古代料理レストラン



型染体験

各種講座教育普及事業					
種別	各種体験学習				
事業 名称	一閑張入門	布ぞうり作り体験	夏休み実験室		
			自然の素材 de 染めてみよう	チラシでハガキ作り	ホットプレートで紅茶作り
日時	7/10(金)・7/17(金)・ 7/24(金) 3 回連続講座 午前コース 9:30 ～ 11:30 午後コース 13:30 ～ 15:30	7/25(土) 9:00 ～ 11:30 計 1 回	7/29(水) 9:00 ～ 12:00	7/30(木) 9:00 ～ 12:00	7/31(金) 9:00 ～ 12:00
内容	現代社会において使用されなくなった一閑張を紙のまち富士市で多くの人に知ってもらうための体験講座。竹箆に和紙を張り重ね、柿渋で仕上げる。 ①講義・制作 ②制作・デザイン ③仕上・塗装	近年室内履きとして人気の高い布ぞうりの制作を行なう。古着を利用し、わらじと同じ編み方を手軽に学ぶことができる。ぞうりを知らない世代にも日本の文化に触れる機会となることを目的とする。	身近な植物を使用した染色体験を通して、身近にある資源の利活用、環境への配慮等、エコやリサイクル活動について考える。エコバックの油、汚れを落とす。大豆をミキサーにかけ、呉汁を作り、下地づけを行う。博物館と隣接する広見公園内に自生する竹を煮出し、染色液をつくり、エコバックを染め液に浸す。ミョウバン、酢酸銅液にて媒染した後、乾燥させる。	紙のリサイクルの脱墨（インキを取り除き白い紙を再生する）という工程を体験することにより、紙リサイクルの意味について考える。 新聞広告のチラシ 10 枚を細かくちぎってミキサーでほぐし（離解）、バケツにあけて水と洗剤少量を足しエアープンプで泡をすくい取る（脱インキ）。 離解と脱インキを繰り返して再生（脱墨）パルプを作り、紙漉き、脱水、乾燥を経てハガキを完成させる。	生葉から紅茶を作るという工程を体験することにより、発酵という化学変化を身近に感じてもらい、富士市の地場産業である茶業への関心を高めよう。 前日に摘み取って広げておいた茶葉をよく揉む。 揉んで色が変色した茶葉を、ビニール袋に入れ、屋外に 1 時間ほどおいて発酵を進める。 発酵が進んだ茶葉をこがさめようにホットプレートの上で乾燥させると、紅茶が完成する。
会場	工芸棟染色室	旧稲垣家住宅	工芸棟陶芸室	工芸棟陶芸室	工芸棟陶芸室
対象	18 歳以上 (高校生不可) ※ 3 回連続出席できる方	小学生以上一般 (小学生は 保護者同伴)	小学生とその保護者	小学生とその保護者	小学生とその保護者
定員	午前・午後各回 先着 16 人	先着 20 人	25 人	25 人	25 人
募集 開始	7/3 (金) 9:00 ～	7/18 (土) 9:00 ～	往復はがき 7/21 (火) 消印有効 7/23 (木) 抽選	往復はがき 7/21 (火) 消印有効 7/23 (木) 抽選	往復はがき 7/21 (火) 消印有効 7/23 (木) 抽選
受講料	1,500 円	400 円	300 円	300 円	300 円
講師	館職員	ハートボックス	館職員	館職員	館職員
参加 人数	午前 16 人 午後 16 人 合計 32 人	19 人	12 人	16 人	15 人
	3 講座合計			43 人	



漉き込みうちわ



布ぞうり作り体験



自然の素材 de 染めてみよう

各種講座教育普及事業					
種別	各種体験学習				
事業名称	農家の食と年中行事				
①落花生・里芋植付、 柏餅作り	②七夕飾り作り・ そうめん	③そばの種まき・ ゆで落花生作り	④里芋収穫・ 月見団子作り	⑤そばの収穫・ かまど飯	
日時	5/10（日） 9:00～13:00	7/4（土） 9:00～13:00	8/23（日） 9:00～13:00	9/13（日） 9:00～13:00	10/25（日） 9:00～13:00
内容	これまで単発で行ってきたチャレンジ!! そばっ子、昔の年越し、みんなの家のお雑煮などの年中行事講座をまとめ、年間を通じて農家の暮らしや年中行事を体感できる講座として再編成したもの。 10回連続参加枠と、単発参加枠を設け、さまざまな受講者が受講しやすいようにした（⑤・⑥・⑦は連続受講が条件）。				
会場	旧稲垣家住宅体験畑他				
対象	小学生とその保護者 ⑤⑥⑦は連続受講できる方				
定員	連続受講枠 計10名 各回受講枠 計10名				
募集開始	4/26（日） 9:00～ 連続受講枠募集開始日 4/25（土） 9:00～	6/20（土） 9:00～	8/9（日） 9:00～	8/30（日） 9:00～	⑤・⑥・⑦はまとめて 10/11（日） 9:00～
受講料	連続受講枠 計3,000円/人 各回受講枠 300円/人				
講師	館職員				
参加人数	16人	14人	10人	13人	12人
連続受講生2人、全10回合計 122人					



チラシでハガキ作り



柏餅作り



ゆで落花生作り（落花生の収穫）



ホットプレートで紅茶作り



七夕飾り作り・そうめん



ゆで落花生作り（落花生あらい）

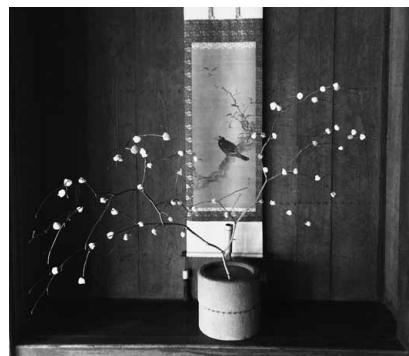
各種講座教育普及事業					
種別	各種体験学習				
事業	農家の食と年中行事				
名称	⑥そばの脱穀・製粉、干芋作り	⑦そばうち	⑧もちつき、注連縄作り	⑨繭玉作り、小豆粥	⑩牡丹餅作り
日時	11/21（土） 9:00～13:00	11/22（日） 9:00～13:00	12/23（水祝） 9:00～13:00	1/11（月祝） 9:00～13:00	3/21（月祝） 9:00～13:00
内容	これまで単発で行ってきたチャレンジ!! そばっ子、昔の年越し、みんなの家のお雑煮などの年中行事講座をまとめ、年間を通じて農家の暮らしや年中行事を体感できる講座として再編成したもの。 10回連続参加枠と、単発参加枠を設け、さまざまな受講者が受講しやすいようにした（⑤・⑥・⑦は連続受講が条件）。				
会場	旧稲垣家住宅体験畑				
対象	小学生とその保護者 ⑤⑥⑦は連続受講できる方				
定員	連続受講枠 計10名 各回受講枠 計10名				
募集開始	⑤・⑥・⑦はまとめて 10/11（日） 9:00～		12/12（土） 9:00～	12/26（土） 9:00～	3/6（日） 9:00～
受講料	連続受講枠 計3,000円/人 各回受講枠 300円/人				
講師	館職員				
参加人数	9人	11人	12人	11人	12人
連続受講生2人、全10回合計 122人					



そばの収穫



そば打ち



繭玉作り、小豆粥（小正月の飾りつけ）



干し芋作り



もちつき



牡丹餅作り

各種講座教育普及事業				
種別	旧稲垣家住宅体験事業			
事業名称	かまど飯を食べよう !!	戦時中の料理	かやぶき農家の癒しのおんがく会	
日時	① 6/7（日） ② 9/6（日） 各回 11:00 ～ 13:00	8/6(水) 10:00 ～ 13:00	毎月第 3 日曜日（8 月は休演） 13:30 ～ 15:30 5 月は 10:30 ～ ・ 13:30 ～ の 2 回、9 月は 18:30 ～	
内容	一般を対象に昔の道具を使用した生活体験講座を旧稲垣家住宅で行なう。 電気のない時代にどのような道具を使いどんな生活をしていたか学ぶ体験講座。 かまどで御飯炊きと味噌汁をつくり、食事体験をする。	小学生を対象に戦時中の食生活を通してどのような生活をしていたか学んでもらう体験講座。 戦争体験者から戦時中の話を聞き、お昼に向け、かまどでさつまいも入り麦ご飯と水団を作り食事体験をする。	旧稲垣家住宅（県指定有形文化財）を活用し、文化財と音楽を融合させた「知的レクリエーション」体験の場として市民に提供する。 平成 27 年度 3 月で 44 回を数え、毎回多くの観客が来場する人気イベントである。 5/17（日）は博物館まつりと同日開催	
会場	旧稲垣家住宅	旧稲垣家住宅	旧稲垣家住宅	
対象	一般	3 年生以上の小学生	一般	
定員	①②各回 先着 15 人	先着 10 人	特になし	
募集	①②各回とも	7/26（日） 9:00 ～	なし	
開始	5/31（日） 9:00 ～			
受講料	100 円	300 円	無料	
講師	館職員	館職員 富士の語りべの会・ 橋口傑氏	市内近隣在住の演奏者	
参加人数	① 6/7（日） 17 人 ② 9/6（日） 13 人 ①②合計 30 人	10 人	出演日・出演団体	内容 人数
			① 4/19 富士ミューズフルートアンサンブル	フルートオーケストラ 96 人
			② 5/17 フジヤマアンサンブル	リコーダーアンサンブルほか 310 人
			5/17 プレイ・サククス	サククスアンサンブルほか 123 人
			③ 6/21 富士ゾリステン	声楽とフルートコンサート 88 人
			④ 7/19 五十雀&チルコロ・ピアチュエーレ	フォークソング&マンドリンコンサート 118 人
			⑤ 9/20 Kage-Boshi	影絵 142 人
			⑥ 10/18 アンサンブルグルーヴ	クラリネットアンサンブル 88 人
			⑦ 11/15 MAUハンドベルリンガーズ	ハンドベルコンサート 121 人
			⑧ 12/20 富士ゾリステン	クリスマスコンサート 163 人
			⑨ 1/17 コカリナサークルハーモニー	コカリナコンサート 84 人
			⑩ 2/21 錦心流琵琶全国一水会・松尾慧	琵琶・横笛・篠笛 129 人
			⑪ 3/20 富士フィルハーモニー管弦楽団	管弦楽アンサンブル 146 人
			合計 1,608 人	



声楽とフルートコンサート



影絵



コカリナコンサート

各種講座教育普及事業																
種別	各種体験学習															
事業名称	博物館の日															
内容	毎月第1日曜日を「博物館の日」と位置づけ、事前申し込み無しにさまざまな体験メニューを提供する1日とし、博物館に親しんでいただく契機とする。															
実 施 状 況	体験内容	定員(人)	受講料(円)	4/5	5/3	6/7	7/5	8/2	9/6	10/4	11/1	12/13	2/7	3/6	合計	会場
	博物館クイズ（6月以降は歴史民俗資料館クイズのみ実施）	なし	無料	42	95	2	1	0	17	0	0	0	3	4	164	本館
	手漉きはがき作り	なし	50	21	26	16	6	33	20	9	7	8	6	10	162	染色室前
	型染しおり作り	なし	50	10	22	7	6	19	22	8	9	18	2	10	133	染色室
	火おこし体験	なし	無料	0	29	13	0	20	6	8	7	0	6	4	93	陶芸室
	子どもの成長記録（手形漉）	AM10 PM10	200	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9	陶芸室
	キューブキャンドル作り	AM10 PM10	300	23	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	23	陶芸室
	草木染ハンカチ作り	AM10 PM10	300	19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	19	陶芸室
	七宝ペンダント作り	20	500	—	24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	24	陶芸室
	勾玉作り	20	300	—	22	—	—	21	—	—	—	—	—	—	43	陶芸室
	楮の繊維で作るラップシェード・かご（2回連続）※1	15	1500	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	陶芸室
	菊花線香作り	AM10 PM10	100	—	—	22	—	—	—	—	—	—	—	—	22	実習室
	レジニアクセサリー	AM10 PM10	500	—	—	27	—	—	—	—	—	—	—	25	52	陶芸室
	ガラスのペンダント	AM10 PM10	500	—	—	—	6	—	—	—	—	—	—	—	6	陶芸室
	折染め団扇	AM10 PM10	200	—	—	—	11	—	—	—	—	—	—	—	11	実習室
	富士山キャンドル作り	AM10 PM10	300	—	—	—	—	25	—	—	—	—	—	—	25	陶芸室
	和紙のランプシェード作り	AM10 PM10	500	—	—	—	—	—	30	—	—	—	—	—	30	実習室
	本藍染ハンカチ作り	AM10 PM10	400	—	—	—	—	—	32	—	—	—	—	—	32	陶芸室
	七宝キーホルダー作り	AM10 PM10	500	—	—	—	—	—	—	19	—	—	—	—	19	陶芸室
	鋳造ペンダント作り	AM10 PM10	400	—	—	—	—	—	—	23	—	—	—	—	23	陶芸室
	ろうけつ染めハンカチ	AM10 PM10	500	—	—	—	—	—	—	—	5	—	—	—	5	陶芸室
	ピカピカ泥だんご	AM10 PM10	100	—	—	—	—	—	—	—	13	—	—	—	13	陶芸室
	ディッピングキャンドル	AM10 PM10	300	—	—	—	—	—	—	—	—	23	—	—	23	陶芸室
	木版刷り体験	AM10 PM10	100	—	—	—	—	—	—	—	—	11	—	—	11	陶芸室
	張り子ダルマ	AM10 PM10	300	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15	—	15	陶芸室
	万華鏡	AM10 PM10	300	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20	—	20	陶芸室
	竹のおもちゃ	AM10 PM10	無料	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	28	28	陶芸室
	合計			124	222	87	30	118	127	67	41	60	52	81	1,009	
対象	広く一般															
受付方法	当日受付 ※1:5/3と5/10の2回講座で4/19（日）～4/25（土）に事前申し込みが必要															

各種講座教育普及事業		
種別	共同事業	
事業名称	富士山ネットワーク推進委員会活動	富士・沼津・三島三市博物館連絡協議会企画事業
日時	通年（コンテスト等は、夏休み期間） P R イベント① 7/5（日）、② 8/8（土）、③ 10/11（日）	① 11/11（木）8:00～16:45 ② 2/14（日）13:30～16:00
内容	富士山ネットワーク推進委員会は、平成5年に富士山周辺の5つの博物館・園によって組織され、現在下記の7館園によって運営されている。現在までに富士山をテーマとした企画展の各館同時開催や、コンテストなどを通して富士山に関する情報発信を行い、相互に連携をとってきた。ネットワーク発足21年目となった平成27年度は、下記の通り各事業を行った。 【内容】 ・富士山ぐるりんコンテスト ・スタンプラリー ・PRイベントでの体験講座3回（富士山おりがみカブト作成体験） 【加盟館（当館を除く）】 裾野市立富士山資料館、奇石博物館、富士サファリパーク、富士山御胎内清宏園（富士山樹空の森）、富士山こどもの国	富士・沼津・三島三市博物館連絡協議会は平成8年に発足して以来、3市の博物館が連携して広域的調査研究活動等を行い、これまでに共同企画展や講演会の開催を行ってきた。平成27年度は、下記の通り史跡めぐりとそれに関連した文化財講座を開催した。 【内容】 ①駿東・北伊豆の戦国時代～バスで行こう！城跡めぐり 講師：沼津市文化財センター文化財管理係主査 鶴田晴徳氏（興国寺城跡） 沼津市文化財センター文化財管理係主幹兼係長 高尾好之氏（長浜城跡） 三島市教育委員会文化振興課学芸員 寺田光一郎氏（山中城跡） ②文化財講座「駿東・北伊豆の戦国時代」 講師：清水国際高校教頭 前田利久氏 【加盟館（当館を除く）】 三島市郷土資料館、沼津市明治史料館、沼津市歴史民俗資料館、沼津市戸田造船郷土資料博物館
会場	P R イベント ①富士山樹空の森、富士山こどもの国、③国立中央青少年交流の家	①興国寺城跡、長浜城跡、山中城跡 ②富士市消防防災庁舎 7階大会議室
対象	広く一般	広く一般
受講料	無料	無料
参加人数	① 7/5 30人 ② 8/8 104人 ③ 10/11 100人 合計 234人	① 11/11 33人 ② 2/14 131人 合計 164人



博物館の日（レジンアクセサリ）



博物館の日（和紙のランプシェード作り）



富士山ネットワークPRイベント（富士山こどもの国）



博物館の日（折染め団扇）



博物館の日（張り子ダルマ）



駿東・北伊豆の戦国時代～バスで行こう！城跡めぐり

各種講座教育普及事業				
種別	利用者団体との共同事業		参加事業	
事業名称	博物館まつり		吉原宿宿場まつり	富士山紙フェア
日時	5/17（日） 10:00～14:30 ※この日を最後に本館は耐震工事及び展示リニューアル工事のため約1年間の休館。		10/11（日） 10:30～16:00 頃	10/24（土）、25（日） 10:00～16:00
内容	広見公園のバラの開花時期に併せ、博物館、テーマ展や屋外展示等の案内・説明、各団体による実演、体験、バザー等 【自主イベント（下記網掛け）】 展示解説（常設展示）、探検ラリー、癒しのおんがく会、富士山おりがみカブト作成体験、紙トンボ作り ※癒しのおんがく会 同日開催		主催：吉原宿・宿場まつり実行委員会 【内容】 ・モバイルミュージアムのパネル展示 ・博物館愛称選挙 ・富士山おりがみカブト作成体験 等	主催：富士山紙フェア実行委員会 【内容】 「紙のチャレンジ工房」コーナーに参加 ・パネル展示 ・富士山おりがみカブト作成体験 等
会場	本館・工芸棟・歴民・広見公園		吉原商店街店舗内	富士市産業交流展示場 ふじさんめっせ
対象	広く一般		広く一般	
受講料	体験ブースによって異なる		無料	無料
参加人数	本館入館者 597 人 本館2階エントランス 625 人 探検ラリー 217 人 ギャラリートーク（3回） 15 人 葉彩画（しおり作り） 51 人 富士手漉和紙同好会 212 人 富士山スズタケ工芸同好会 328 人 富士の型染グループ 534 人 禮文窯 833 人 陶遊会 629 人 駿河郷土史研究会 344 人 おんがく会（フジヤマアンサンブルと仲間たち） 310 人 おんがく会（プレイ・サックス） 123 人 フジレールクラブ 419 人 埋蔵文化財調査室 327 人 ピュアグリーン 475 人 アートスペース富士和紙 179 人 アマチュア無線クラブ 108 人 こどもの国（工作体験） 195 人 富士山資料館（勾玉づくり） 44 人 富士サファリパーク（動物ふれあいコーナー） 991 人 博物館ボランティア（富士山おりがみカブト） 208 人 合計 7,764 人		入場者数 350 人 富士山おりがみカブト体験者数 181 人 延べ人数 531 人	10/24（富士山おりがみカブト） 150 人 10/25（富士山おりがみカブト） 170 人 延べ人数 320 人



博物館まつり



吉原宿宿場まつり



富士山紙フェア

調査研究					
種別	六所家整理調査				
事業名称	六所家総合調査事業				
沿革	六所家は富士市今泉八丁目に位置する旧家で、明治政府による神仏分離政策によって還俗するまでは富士山東泉院という寺院を営んでいた。平成18年6月、六所家当主の六所五郎・利子夫妻により、東泉院関係資料を含む約4万点以上の六所家の資料が富士市に寄贈された。富士市では、郷土の歴史・文化を解明する貴重な資料群である六所家の資料を活用するため、市立博物館にて平成19年度、六所家旧蔵資料基礎整理委員会を組織し、平成20年度に整理事業を行ってきたが、資料整理に留まらず、学術的な面からも明らかにしていくため、新たに総合調査委員会を組織し、漸次その成果を情報発信している。				
概要	六所家旧蔵資料は、大きく江戸時代以前（中世・近世）の富士山東泉院に関する資料群（以下、東泉院関係資料とする）と、明治時代以降（近代）の六所家に関わる資料群（以下、六所家関係資料とする）に分けられ、東泉院関係資料は、さらに中世・近世の文書類、聖教類、書画の三種類に大別できる。本資料群は、地域の歴史や文化を解明する多くの材料を秘めた資料群で、こうした資料がまとまって発見されたことは学術的にも大きな価値をもち、以下の点で有意義な資料といえる。 ①現在まで詳細な研究がされていない富士山東泉院という密教寺院の寺院史の解明。 ②東泉院が支配していた朱印領に含まれる市域の村々の支配の実態、およびその歴史。 ③寺院社会史研究における中央の寺院と、東泉院のような地方の寺院との関係性を検討する事例。 ④近代以降の六所家の生活の記録。 六所家旧蔵資料の整理を開始して、当初の予想を超える多彩な内容をもった資料群であることがわかってきた。専門的な分野の知識をもとにした各種調査の必要性が増している。				
委員会	委員会	日時	内容	委員	会場
	第1回六所家総合調査委員会	8月28日	調査進捗状況報告、古文書②③内容案、今後の刊行予定	委員6名	染色室
	第2回六所家総合調査委員会	3月25日	調査成果報告、28年度調査計画、新展示室視察	委員5名	講座室
特別調査等	調査分野	日時	内容	委員	会場
	古文書特別調査①	8月27日～30日	目録について打合せほか	菊池邦彦委員	歴史民俗資料館
	古文書特別調査②	1月22日	目録について打合せほか	菊池邦彦委員	歴史民俗資料館
	古文書特別調査③	2月5日～6日	目録について打合せほか	菊池邦彦委員	歴史民俗資料館
	古文書特別調査④	2月27日～28日	目録について打合せほか	菊池邦彦委員	歴史民俗資料館
	古文書特別調査⑤	3月12日～13日	目録について指導	菊池邦彦委員	歴史民俗資料館
	古文書特別調査⑥	3月19日～21日	目録について指導	菊池邦彦委員	歴史民俗資料館
調査体制	【六所家総合調査事業調査体制】	【調査員等 古文書・聖教】			
	調査委員会（調査委員6名）、埋蔵文化財、建造物・庭園、歴史、書画、民俗、各担当委員（一人の委員が兼務する担当もあり。）	古文書1人×243日（調査員）、古文書1人×50日（調査員）、古文書1人×14日/月×12ヶ月（調査補助員）、聖教2人×42日（資料整理員）			
刊行物	タイトル	内容			発行日
	六所家総合調査だより第14号	東泉院並びに六所家書画について、東泉院聖教目録作成とアーカイブス化ほか			8月21日
	六所家総合調査報告書埋蔵文化財②	平成25年度実施本発掘調査の報告			3月31日
	六所家総合調査報告書古文書②	東泉院古文書のうち、近世～明治19年までの目録、及び概要、各論			3月31日

(3) 学校等への参加協力事業

小中学校への学習支援

- ◇日 時 小中学校からの依頼により随時実施
- ◇会 場 市内の小・中学校、富士市立博物館本館、付属実習棟など
- ◇講 師 博物館職員
- ◇内 容 展示見学や紙すき体験や縄文土器作りなどの体験学習、実物資料等を用い講話する出前授業、資料の貸出により、小中学校の総合的な学習や社会科、生活科の学習を支援する。
- ◇実施状況 以下のとおり

①見学

(小学校)

	学校名	学 年	人 数	教 科	単 元	日 付
1	大淵第一小学校（吉原林間）	6年	7 名	社会	大昔のくらしをのぞこう	4月17日
2	吉原小学校	4年	82 名	総合	遠足	4月28日
3	岩松北小学校	6年	118 名	社会	大昔の人々の暮らし	4月28日
4	富士宮市立貴船小学校	6年	98 名	総合	春の遠足	4月28日
5	富士第一小学校	6年	142 名	社会	大昔のくらし	4月28日
6	富士見台小学校	6年	60 名	社会	大昔の人々の暮らし	4月28日
7	伝法小学校	2年	112 名	総合	春の遠足	4月30日
8	伝法小学校	3年	118 名	遠足	—	4月30日
9	鷹岡小学校	5年	140 名	社会	歴史のはじまり	4月30日
10	原田小学校	6年	60 名	社会	大昔の人々の暮らし	4月30日
11	大淵第一小学校	6年	129 名	社会	大昔のくらし	4月30日
12	丘小学校	6年	156 名	社会	校外学習	4月30日
13	中央小学校	6年	61 名	遠足	—	4月30日
14	富士宮市立大宮小学校	6年	90 名	社会	大昔のくらし	5月14日
15	須津小学校	3年	117 名	社会	わたしたちの市富士市	6月18日
16	天間小学校	3年	56 名	社会	—	6月24日
17	富士川第一小学校	4年	77 名	社会	昔から今へと続くまちづくり	6月25日
18	今泉小学校	3年	101 名	社会	わたしたちの市の様子	7月2日
19	青葉台小学校	4年	78 名	社会	昔から今へと続くまちづくり	7月7日
20	岩松北小学校	3年	115 名	社会	昔の道具とくらし	7月8日
21	富士川第一小学校	2年	23 名	生活	まち探検（小休本陣、富士川民俗資料館）	7月10日
22	青葉台小学校	3年	71 名	社会	変わるわたしたちのくらし —昔の道具とくらし	7月15日
23	伝法小学校	4年	104 名	社会	昔から今へと続くまちづくり	9月3日
24	元吉原小学校	3年	51 名	社会	わたしたちの市の様子	9月4日
25	富士河口湖町立勝山小学校	5年	33 名	総合	遠足	10月20日
26	南アルプス市立豊小学校	4年	54 名	社会・総合	わたしたちにできること	10月23日
27	神戸小学校	4年	30 名	社会	昔から今へと続くまちづくり	11月5日
28	富士中央小学校	3年	80 名	社会	さぐってみよう 昔のくらし	11月13日
29	田子浦小学校	3年	160 名	社会	昔の生活を体験しよう	12月3日
30	大淵第一小学校	3年	125 名	社会	昔の道具とくらし	1月19日
31	熱海市立第一小学校	4年	47 名	社会	わたしたちの静岡県	1月19日
32	富士南小学校	3年	157 名	社会	さぐってみよう 昔のくらし	1月20日
33	吉永第一小学校	3年	64 名	社会	昔の道具とくらし	2月2日
34	富士川第二小学校	3年	53 名	社会	変わるわたしたちのくらし	2月23日
35	広見小学校	3年	121 名	社会	変わるわたしたちのくらし	2月26日
36	丘小学校	3年	151 名	社会	さぐってみよう 昔のくらし	3月1日

(中学校)

	学校名	学 年	人 数	教 科	単 元	日 付
1	吉原第一中学校	特別支援	26 名	総合	ふれあい遠足で陶芸体験をしよう	4月17日
2	田子浦中学校	特別支援	5 名	総合	ふれあい遠足	4月28日

②体験学習

(小学校)

	学校名	学 年	人 数	教 科	体験内容	場 所	日 付
1	大淵第一小学校 (吉原林間)	6 年	7 名	社会	火おこし体験	博物館	4 月 17 日
2	岩松北小学校	6 年	118 名	社会	火おこし体験	博物館	4 月 28 日
3	原田小学校	6 年	60 名	社会	火おこし体験	博物館	4 月 30 日
4	大淵第一小学校	6 年	129 名	総合	土器作り	学校	5 月 8 日
5	富士宮市立大宮小学校	6 年	90 名	社会	火おこし・土器作り・古代米調理・かまど体験	博物館	5 月 14 日
6	東小学校	6 年	14 名	社会	火おこし体験	学校	5 月 20 日
7	大淵第一小学校	6 年	129 名	総合	火おこし体験・野焼き・勾玉作り・古代米調理	学校	6 月 30 日
8	岩松北小学校	3 年	115 名	社会	かまど体験	旧稲垣家	7 月 8 日
9	青葉台小学校	6 年	88 名	総合	土器作り	学校	7 月 14 日
10	元吉原小学校	3 年	51 名	社会	かまど体験	旧稲垣家	9 月 4 日
11	青葉台小学校	6 年	88 名	総合	火おこし体験・野焼き・勾玉作り・古代米調理	学校	9 月 29 日
12	南アルプス市立豊小学校	4 年	54 名	総合	紙すき体験	博物館染色室	10 月 23 日
13	伝法小学校	3 年	120 名	社会	七輪火おこし体験	学校	11 月 19 日
14	大淵第一小学校	3 年	125 名	社会	かまど体験	旧稲垣家	1 月 19 日
15	吉永第一小学校	3 年	64 名	社会	火ふき体験	旧稲垣家	2 月 2 日
16	丘小学校	3 年	151 名	社会	かまど体験	旧稲垣家	3 月 1 日

(中学校)

	学校名	学 年	人 数	体験内容	教 科	場 所	日 付
1	吉原第一中学校	特別支援	26 名	陶芸体験	総合	博物館陶芸室	4 月 17 日
2	吉原第二中学校	2 年	206 名	火おこし	総合	学校	4 月 24 日
3	田子浦中学校	特別支援	5 名	勾玉作り	総合	博物館会議室	4 月 28 日

(高等学校)

	学校名	学 年	人 数	体験内容	教 科	場 所	日 付
1	富士見高等学校	1～3 年	13 名	陶芸体験	部活動	博物館陶芸室	6 月 27 日
2	富士特別支援学校高等部	1～3 年	11 名	陶芸体験	生単学習	博物館陶芸室	12 月 1 日

(幼稚園・保育園)

	園名	学 年	人 数	体験内容	場 所	日 付
1	柏原保育園	年長	9 名	火おこし・土器焼き	保育園	5 月 28 日
2	浜幼稚園	年少～年長	42 名	火おこし・土器ペンダント作り	幼稚園	2 月 9 日

(その他施設)

	施設名	学 年	人 数	体験内容	場 所	日 付
1	生活介護事業所であ～と	—	25 名	陶芸体験	施設	6 月 25 日
2	広見まちづくりセンター	1～6 年	40 名	クイズラリー	博物館	6 月 27 日
3	富士見台まちづくりセンター	年少～小 2/ 親子	20 名	火おこし体験	博物館	7 月 18 日
4	ガールスカウト静岡県第 75 団	—	10 名	かまど体験	旧稲垣家	8 月 8 日
5	生活介護事業所であ～と	—	25 名	キャンドル作り	施設	8 月 18 日
6	吉永北まちづくりセンター	1～6 年	24 名	菊花線香作り	施設	8 月 26 日
7	生活介護事業所であ～と	—	25 名	土器焼き ペンダント作り	施設	9 月 3 日
8	今泉まちづくりセンター	年少～年長 / 親子	24 名	陶芸体験	博物館陶芸室	9 月 5 日
9	生活介護事業所らぽ～と	—	12 名	陶芸体験	施設	9 月 8 日
10	ひまわり	—	7 名	染色体験	博物館染色室	9 月 11 日
11	NPO 法人子ども未来	1～6 年	40 名	かまど体験	旧稲垣家	9 月 23 日
12	浮島まちづくりセンター	1～6 年	35 名	陶芸体験	施設	9 月 26 日
13	広見まちづくりセンター	1～6 年	40 名	かまど炊飯体験	旧稲垣家	11 月 7 日
14	広見まちづくりセンター	1～6 年	40 名	たこ作り	博物館染色室	1 月 16 日
15	青少年相談センター	小 3～中 3	20 名	陶芸体験	博物館陶芸室	1 月 19 日

③出前講座、講演会など

(小学校)

	学校名	学 年	人 数	講座内容	教 科	日 付
1	東小学校	6 年	14 名	「船津古墳群の出土品や当時の人々の暮らし」について	社会	5 月 20 日
2	富士第一小学校	6 年	50 名	火縄銃について	社会	9 月 8 日
3	丘小学校	3 年	152 名	「お茶の道具と歴史」について	総合	10 月 28 日
4	原田小学校	3 年	54 名	「昔の道具とくらし」について	社会	1 月 14 日
5	青葉台小学校	3 年	72 名	「昔の道具」について	社会	2 月 4 日
6	富士中央小学校	3 年	82 名	「昔の暮らしと道具」について	社会	2 月 5 日
7	天間小学校	3 年	55 名	「昔の道具とくらし」について	社会	2 月 10 日

(中学校)

	学校名	学 年	人 数	教 科	単 元	日 付
1	岳陽中学校	1 年	270 名	職業講話	—	12 月 1 日

(その他施設)

	施設名	人 数	講座内容	日 付
1	静岡市立登呂博物館	60 名	企画展「豊かな水源に生きる」に伴う講演会 「富士の湿原に生きる一発掘調査からみた浮島沼西岸の様相一」	9 月 5 日
2	天間地区まちづくり協議会 歴史文化講演会（天間小学校体育館）	150 名	「天間沢遺跡について」	11 月 21 日
3	吉原まちづくりセンター	120 名	吉原の歴史	3 回

④資料の貸出（学校関係のみ）

(小学校)

学校名	学 年	人 数	資 料 名	点 数	教 科	日 付
富士宮市立山宮小学校	4～6 年	15 名	火おこしセット	10	クラブ活動	7 月 5 日
丘小学校	6 年	31 名	チョウチン、下駄、ミノ、ディアナ号救助図（画像データ）	4	社会科	10 月 12 日
富士宮市立山宮小学校	3 年	29 名	黒電話（2）、炊飯器、手回し炊飯器、ちゃぶ台、おひつ・おひつ入れ（各 2）、子供用着物、たらい、洗濯板、火のし（炭・電気）（2）、わらじ	13	社会科	2 月 13 日

(中学校)

学校名	学 年	人 数	資 料 名	点 数	教 科	日 付
吉原第二中学校	2 年	206 名	火おこしセット（弓切り式）	2	林間学校（準備）	4 月 5 日
吉原第二中学校	2 年	206 名	火おこしセット	12	林間学校	5 月 17 日

(4) 富士市立博物館展示リニューアル実施状況

年度ごとの事業概要と主な経費

【平成 23 年度】

耐震工事に伴う展示リニューアル構想構築のため、コンサルタント契約を行い一連のリニューアル事業がスタート。

- ・展示リニューアル構想コンサルタント業務委託

(株)乃村工藝社（H23.5/20～12/28） 4,579,050 円

【平成 24 年度】

前年の展示リニューアル構想をふまえ、平成 24～25 年度の 2 か年で展示リニューアル設計業務を実施。

- ・展示リニューアル設計業務委託（1 年目）

(株)乃村工藝社（H24.5/23～H26.3/31）9,975,000 円

（うち、平成 24 年度分は 3,792,000 円）

【平成 25 年度】

本館の耐震補強実施設計業務、展示リニューアル設計業務委託の 2 年目を実施。

- ・展示リニューアル設計業務委託（2 年目）

(株)乃村工藝社（H24.5/23～H26.3/31）9,975,000 円

（うち、平成 25 年度分は 6,183,000 円）

- ・耐震補強実施設計業務

(有)美城設計 (H25.7/11 ~ H26.2/21) 11,886,000 円

【平成 26 年度】

平成 26 年度・27 年度の 2 カ年で展示リニューアルに伴う展示物等制作設置業務を実施、並行して、収蔵庫の整備および、広見公園園路改修を実施した。

- ・展示物等制作設置業務委託 (1 年目)

(株)乃村工藝社 (H26.9/10 ~ H28.3/20) 271,080,000 円
(うち、平成 26 年度分は 135,540,000 円)

- ・収蔵庫新築主体工事

大和リース(株) (H26.8/27 ~ H27.3/10) 29,473,200 円

- ・広見公園園路設計業務委託

(株)フジヤマ富士営業所 (H26.5/14 ~ 8/29) 3,068,280 円

- ・広見公園園路整備工事

(株)松山組 (H26.12/3 ~ H27.3/18) 13,716,000 円

【平成 27 年度】

耐震工事と展示リニューアル完成年度。本館内防災設備等も含め大規模な改修整備が行われた。本館棟は平成 27 年 5 月 18 日 (月) より約 1 年間の休館となったが、体験事業や資料調査の活動や、屋外展示施設の公開などは従来どおり行った。

- ・展示物等制作設置業務委託 (2 年目)

(株)乃村工藝社 (H26.9/10 ~ H28.3/20) 271,080,000 円
(うち、平成 27 年度分は 135,540,000 円)

- ・本館特別収蔵庫整備業務

(株)クマヒラ沼津営業所 (H27.8/26 ~ H28.3/25)
29,160,000 円

- ・本館消火ガス貯蔵容器交換業務委託

サンコー防災(株) (H28.2/20 ~ 3/31) 4,892,400 円

- ・本館ハロン消火設備改修業務委託

サンコー防災(株) (H27.10/2 ~ H28.1/31) 4,860,000 円

- ・収蔵資料等輸送業務委託

日本通運(株)富士支店 (H27.5/22 ~ 6/26) 4,136,400 円

- ・本館耐震補強主体工事 (建築主体)

(株)田中組 (H27.6/3 ~ H28.1/29) 117,504,000 円

- ・本館耐震補強主体工事 (電気設備)

田村電業(株) (H27.6/3 ~ H28.1/29) 45,360,000 円

- ・本館耐震補強主体工事 (昇降機設備)

東芝エレベータ(株) (H27.6/3 ~ H28.1/29) 21,492,000 円

- ・本館耐震補強主体工事 (空調設備)

(株)一商会 (H27.6/3 ~ H28.1/29) 8,942,400 円

- ・本館耐震補強主体工事 (給排水衛生設備)

(株)ラズビック (H27.6/3 ~ H28.1/29) 7,583,760 円

展示リニューアル検討委員会

本事業実施にあたり、博物館整備にかかわる有識者等からなる展示リニューアル検討委員会を組織した。年度ごとの検討内容をまとめて報告する。

【平成 23 年度】

◇展示リニューアル検討委員会委員

(任期：平成 23 年 6 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

氏 名	所 属
中村 羊一郎	静岡産業大学 特任教授
金子 淳	静岡大学生涯学習センター 准教授
長谷川 秀厚	静岡市立登呂博物館学芸員
内田 昌宏	富士市立岩松北小学校 教諭
岡村 寛	吉原北中学校教諭

◇平成 23 年度展示リニューアル検討委員会開催内容

回	開催日	主な議事内容
第 1 回	6 月 10 日	・博物館耐震工事に伴う展示室リニューアル計画基本方針について ・意見交換 (コンサルタントからの感想、基本方針、収蔵庫についての課題、新たな展示等)
第 2 回	7 月 26 日	・展示案 1・2 について ・博物館全体構想について (広見公園ふるさと村歴史ゾーン整備、博物館展示テーマ)
第 3 回	9 月 9 日	・各室レイアウトと展示改修ポイント ・展示個別レイアウト案について (テーマ展示 1 展示構成案、フリー展示室展示構成案、総合展示室展示構成案)

【平成 24 年度】

◇展示リニューアル検討委員会委員

(任期：平成 24 年 6 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

氏 名	所 属
中村 羊一郎	静岡産業大学 特任教授
金子 淳	静岡大学生涯学習センター 准教授
長谷川 秀厚	静岡市立登呂博物館学芸員
内田 昌宏	富士市立富士第一小学校 教諭
高橋 修	山梨県立博物館学芸員

◇平成 24 年度展示リニューアル検討委員会開催内容

回	開催日	主な議事内容
第 1 回	7 月 10 日	・富士市立博物館リニューアル基本計画 (基本計画の変更点、2 階出入り口について、外部収蔵庫の現状) ・展示構成について (展示室①「富士川渡船と舟運」、展示室③「富士山とかぐや姫」)
第 2 回	8 月 22 日	・展示室検討案 (展示室 1「富士川舟運と渡船」、展示室 3「富士山とかぐや姫」) ・1 階エントランス、2 階出入り口について
第 3 回	10 月 23 日	・展示室等検討案について (展示室 1「富士川舟運と渡船」、展示室 3「富士山とかぐや姫」、1 階エントランス周辺について、展示室 4・5 及び多目的室について、全体配置図)

【平成 25 年度】

◇展示リニューアル検討委員会委員

(任期：平成 25 年 7 月 20 日～平成 26 年 6 月 19 日)

氏 名	所 属
中村 羊一郎	静岡産業大学 特任研究員
金子 淳	桜美林大学 准教授
長谷川 秀厚	静岡市立登呂博物館学芸員
内田 昌宏	富士市立富士第一小学校 教諭
高橋 修	東京女子大学 准教授

◇平成 25 年度展示リニューアル検討委員会開催内容

回	開催日	主な議事内容
第 1 回	8 月 9 日	・リニューアル進捗状況と今後の予定について ・昨年度からの変更点について ・展示構成について（展示室 3「富士山とかぐや姫」、展示室 1「富士川の舟運と渡船」）
第 2 回	1 月 28 日	・実施設計の進捗状況について ・展示内容について ・来年度事業について
第 3 回	3 月 26 日	・2 階出入口及び園路の整備について ・自主設計による展示計画について

【平成 26・27 年度】

発足当時から委員を含めた 4 人の検討委員に委嘱し、委員任期の平成 26 年度～27 年度に 4 回の委員会を開催。委員会の際にいただいた意見を取り入れながら、展示物の制作・設置業務に向けての準備を進めた。

◇展示リニューアル検討委員会委員

(任期：平成 26 年 11 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

氏 名	所 属
中村 羊一郎	静岡産業大学 特任研究員
金子 淳	桜美林大学 准教授
内田 昌宏	富士市立富士第一小学校 教諭
高橋 修	東京女子大学 准教授

◇平成 26～27 年度展示リニューアル検討委員会開催内容

回	開催日	主な議事内容
第 1 回	平成 26 年 12 月 25 日	・リニューアル進捗状況と今後の予定について ・富士川舟運と渡船コーナーの変更点について ・自主設計による展示内容について
第 2 回	平成 27 年 3 月 25 日	・富士川舟運と渡船コーナーの修正点について ・現地視察：広見公園内新園路 ・現地視察：富士市立博物館新収蔵庫 ・意見交換
第 3 回	平成 27 年 10 月 15 日	・展示内容について（展示室 3「富士山とかぐや姫」、展示室 1「富士川舟運と渡船」） ・現地視察：博物館本館内 ・意見交換
第 4 回	平成 28 年 3 月 18 日	・館内視察 ・意見交換 ・今後のスケジュール・ショップについて

リニューアルした博物館の見どころ

愛称の決定

休館中に行った出張展示「富士かぐやモバイルミュージアム」で博物館愛称アンケートと選挙を実施し、12 月、愛称「富士山かぐや姫ミュージアム」が決定した。

新しいエントランス 施設の改修の目玉は、本館棟 2 階に新たな出入口が設けられたことであり、広見公園に訪れた来園者がスムーズに博物館へ入館できるようになった。

展示室 3

富士山とかぐや姫 富士市には、かぐや姫は月に帰らずに富士山へと帰り、富士山の神となるというストーリーが伝わっている。他に例を見ない筋書きに注目し、展示室 3「富士山とかぐや姫」では、『富士山縁起』と呼ばれる、この地域に伝承された貴重な資料などから、富士山とかぐや姫とのつながりを明らかにする。ここではさらに、富士山に対する信仰の姿として、南麓で活動した「村山修験」、富士山と密接にかかわる貴重な信仰行事である「岩淵烏居講」を取り上げ、世界文化遺産となった富士山の重要性を伝えていく。

展示室 1

富士川舟運と渡船 富士市西部を流れ、急流で知られた富士川は、古来、官道の東海道が交差しその安全な渡河をめぐる命題を抱えてきた。一方で、江戸時代、水運を利用した交通が発達すると、上流との舟運が開かれ物流の拠点となり、渡船場として、また舟運の河岸として、岩淵地区は大変な繁栄を誇った。旧富士川町との合併に伴い、開館当初には取り上げていなかった新たなテーマを取り上げた。

分館

歴史民俗資料館 本館棟にあった「紙」の展示を、歴史民俗資料館 2 階に「手すき和紙」、「近代製紙の幕開け」、「紙のまちへのあゆみ」という 3 コーナーで拡張展示。また、「子どもの遊びと学び」として近代教育の展示を加え、これまでの「戦争と暮らし」とあわせて、「紙のまち富士」の近代史をより広い視野から学べるフロアになった。

富士山かぐや姫ミュージアム

2F

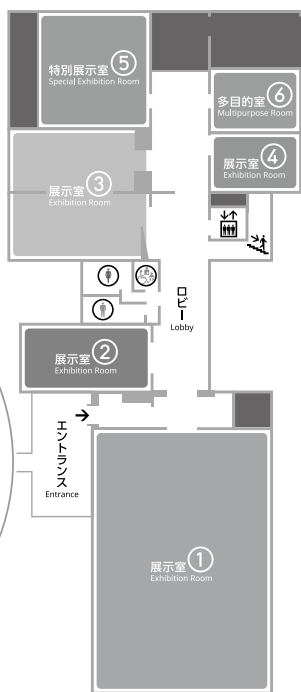
①-④ 展示室
Exhibition Room

⑤ 特別展示室
Special Exhibition Room

⑥ 多目的室
Multipurpose Room

トイレ
Restrooms

多目的トイレ
Accessible Restroom



1F

インフォメーション
Information

トイレ
Restrooms

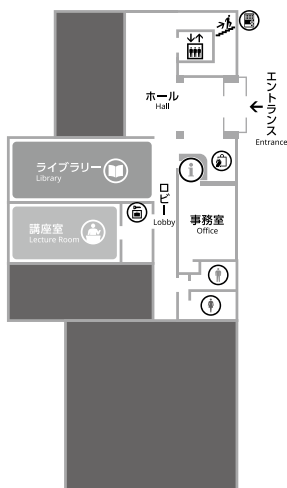
ライブラリー
Library

講座室
Lecture Room

ミュージアムショップ
Museum Shop

飲み物の自動販売機
Vending Machine of the Drink

コインロッカー
Coin Lockers



展示室1

富士に生きる



展示室1 富士に生きる（富士の舞台・富士の黎明）



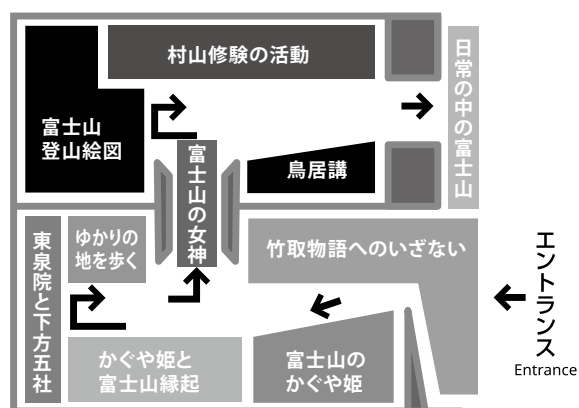
1F ホール



展示室1 富士に生きる（富士川舟運と渡船）

展示室3

富士山とかぐや姫



展示室3 富士山とかぐや姫（富士山のかぐや姫）

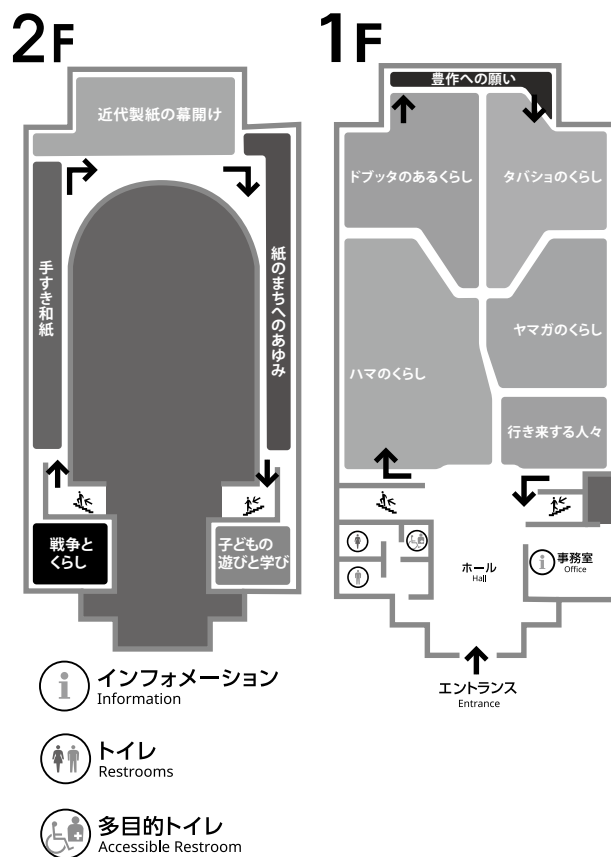


展示室3 富士山とかぐや姫（鳥居講）



展示室2 富士山の玉手箱

歴史民俗資料館（博物館分館）



① インフォメーション
Information

② トイレ
Restrooms

③ 多目的トイレ
Accessible Restroom



近代製紙の幕開け（明治の富士ブランド 佐野熊ナフキン）



子どもの遊びと学び

(5) 富士市立博物館ボランティアの活動

27年度の主な活動実績

平成27年4月の会員数32名。下記の博物館活動の補助のほか、毎月実施している月例会に延べ173名（全12回）、研修会に延べ61名（全6回）の参加があった（12月の研修旅行を除く）。

月	内 容	人数
4月	団体向け体験対応（手すき和紙）	2
	博物館の日	6
	陶芸室自由解放日	1
	中学校来館対応（陶芸、見学補助等）	3
5月	博物館の日	7
	小学校来館対応（火おこし、カマド炊飯ほか）	4
	小学校等出張体験（土器作り、火おこし等）／3回	6
	陶芸室自由開放日	1
	博物館まつり	10
	旧稲垣家火入れ／2回	3
6月	小学校出張体験（土器焼き）	6
	博物館の日	11
	かまど飯をたべよう	2
	小学校来館対応（火入れ、見学補助等）	2
	まちづくりセンター講座対応（見学補助、工作体験）	3
7月	富士山ネットワークPRイベント（富士山折り紙）	2
	小学校出張体験（土器作り）	2
	小学校来館対応（火入れ、見学補助等）	2
	農家の食と年中行事②	2
	博物館の日	6
	陶芸室自由開放日・陶芸体験	2
	漉き込みうちわ作り	7
	ミニミニ埴輪づくり	3
	モバイルミュージアム展示補助・ミュージアムトーク	11
	まちづくりセンター講座対応（火おこし等）	4
	夏休み実験室／3回	7
8月	博物館の日	7
	戦時中の料理	4
	福祉施設出張体験（キューブキャンドル）	3
	富士山ネットワークPRイベント（富士山折り紙）	5
	陶芸室自由開放日	1
	農家の食と年中行事③	3
	まちづくりセンター講座対応（菊花線香作り）	4
	福祉施設出張体験（土器ペンダント）	2
9月	小学校来館対応（火入れ、カマド炊飯等）	3
	まちづくりセンター講座対応（陶芸）／2回	5
	博物館の日	6
	陶芸室自由開放日	1
	旧稲垣家火入れ／2回	2
	福祉施設出張体験（陶芸）	4
	農家の食と年中行事④	1

月	内 容	人数
9月	小学校出張体験（土器焼き）	2
	団体向け体験対応（火入れ、カマド炊飯）	2
10月	博物館の日	5
	吉原宿場まつり（2日間）	12
	陶芸室自由開放日	1
	富士山ネットワークPRイベント	1
	旧稲垣家火入れ	1
	小学校来館対応（手すき和紙）	3
	富士山紙フェア（2日間）	16
11月	農家の食と年中行事⑤	3
	博物館の日	4
	農家の食と年中行事⑥・⑦	2
	旧稲垣家火入れ／2回	2
	日常の中の富士山ワークショップ	10
	陶芸室自由開放日	1
	小学校来館対応（火入れ、見学補助等）	2
	まちづくりセンター講座対応（カマド炊飯）	2
	かぐや姫シンポジウム	12
	親子どきやき体験	1
	三島暦を摺ってみよう	3
12月	古代料理レストラン	4
	小学校等来館対応（陶芸、火入れ）／2回	3
	研修旅行（静岡市内巡検）	18
	博物館の日	3
1月	農家の食と年中行事⑧	4
	陶芸室自由開放日	1
	農家の食と年中行事⑨	3
	小学校出張体験（昔の道具）	1
	団体向け体験対応（陶芸）	2
2月	小学校来館対応（火入れ）／2回	3
	小学校来館対応（火入れ、見学補助）／2回	3
	小学校出張体験（昔の道具）／3回	5
	博物館の日	8
	幼稚園出張体験（土器ペンダント作り）	1
3月	親子どきやき体験	2
	陶芸室自由開放日	1
	小学校来館対応（火入れ、カマド炊飯体験等）	2
	博物館の日	5
3月	陶芸室自由開放日	1
	農家の食と年中行事⑩	1
27年度合計		322

2 平成 27 年度 施策・利用状況

(1) 平成 27 年度教育行政の基本方針と施策

目 標 「学び合い 学び続ける「ふじの人」づくり」

施策の柱 「こころ豊かな市民文化の創造」

施 策 「文化財施設の整備」

博物館では、本館と歴史民俗資料館、旧稲垣家住宅などの屋外展示や富士川民俗資料館等で富士市の歴史・文化及び文化財を紹介しています。それらを、市民により身近に感じてもらえるように、展示会を企画・開催し、先人が行っていた生活の知恵や技術を実際に学べるよう、体験講座を行っています。

また、博物館をはじめとしたふるさと村歴史ゾーンにユニバーサルデザインの考えを取り入れ、多くの市民が利用できる施設として整備するとともに、博物館事業及び膨大な所蔵資料等も紹介する博物館ウェブサイトの充実を図っていきます。

さらに、本年度は本館の耐震工事の実施、平成 26 ～ 27 年度の 2 箇年で展示リニューアルのための展示物等の制作業務を行っています。

(以下、◎重点事業、★本年度重点事業、○その他の事業)

◎広見公園内ふるさと村歴史ゾーンの整備充実

・本市の歴史と文化を楽しく学べるように、ふるさと村歴史ゾーンを、ユニバーサルデザインを取り入れた施設に再整備する。

◎博物館施設・展示会・各種講座の充実

【展示会】

- ・テーマ展「富士市立博物館 30 年の歩みとこれから」
- ・富士かぐやモバイルミュージアム

【各種講座など〔教室・講座・体験〕】

- ・博物館の日、農家の食と年中行事、チャレンジ!! 陶芸、陶芸歳時器、親子どきやき体験、富士の型染体験、手作り和紙工芸、夏休み実験室など

◎博物館ウェブサイトの充実

◎博物館収蔵品データベースの整備

★耐震・リニューアル事業（耐震工事、展示リニューアル業務ほか）

○六所家総合調査事業（目録編さん業務委託、『古文書②』報告書刊行）

○資料調査研究事業

○資料購入事業（富士山関係資料の購入）

(2) 予算・決算の概要

平成 27 年度予算・決算

単位：千円

項 目		予算現額	決算額	説 明
1	給与費	49,785	48,449	
内 訳	①博物館協議会委員	210	180	協議会委員報酬
	②一般職	49,575	48,269	一般職員給料、職員手当等、共済費
2	博物館管理費	459,980	456,349	
内 訳	①博物館運営管理事業費	22,430	21,805	事務補助員等賃金、光熱水費、通信運搬費、消耗品費、印刷製本費
	②博物館施設管理事業費	16,643	16,054	施設警備・保守点検業務委託費、館内外清掃業務委託費、屋外展示等清掃業務委託費、維持補修工事等
	③博物館耐震・リニューアル事業費	420,907	418,490	展示リニューアル検討委員会開催費、耐震補強工事
3	博物館事業費	4,889	4,258	
内 訳	①企画展事業費	1,727	1,293	・テーマ展「富士市立博物館 30 年の歩みとこれから」 ・富士かぐやモバイルミュージアム
	②各種講座等教育普及事業費	3,162	2,965	チャレンジ!! 陶芸、陶芸歳時器、親子どきやき体験、富士の型染体験、手作り和紙工芸、夏休み実験室、旧稲垣家住宅茅葺農家体験等
4	博物館調査費	5,959	4,951	
内 訳	①資料調査研究事業費	636	453	郷土資料調査業務委託費等
	②資料購入事業費	0	0	郷土に関する資料購入
	③資料保存整備事業費	750	694	博物館館蔵品のデータベース修正事業等
	④六所家総合調査事業費	4,573	3,804	六所家総合調査にかかる事業費
1～4 の合計		520,613	514,007	

(3) 博物館協議会

博物館協議会委員

任期：平成25年6月1日～平成27年5月31日

50音順 敬称略

No.	氏 名	備 考
1	石川 薫	静岡県伝統建築技術協会理事
2	大久保 あかね	常葉大学富士キャンパス総合経営学部教授
3	加藤 昭夫	駿河郷土史研究会会長
4	神谷 真好	静岡県工業技術研究所富士技術支援センター センター長
5	久保田 道孝	市民公募委員
6	佐野 五十三	静岡県立大学非常勤講師
7	壽 和徳	市民公募委員
8	松田 香代子	日本民俗学会会員
9	水野 恒	富士市立大淵中学校長
10	三輪 弘子	富士市立大淵第一小学校長

博物館協議会委員

任期：平成27年6月1日～平成29年5月31日

50音順 敬称略

No.	氏 名	備 考
1	石川 薫	静岡県伝統建築技術協会理事
2	漆畑 まり子	市民公募委員
3	大久保 あかね	常葉大学富士キャンパス総合経営学部教授
4	加藤 昭夫	駿河郷土史研究会会長
5	神谷 真好	静岡県工業技術研究所富士技術支援センター センター長
6	佐野 五十三	静岡県立大学非常勤講師
7	壽 和徳	市民公募委員
8	外立 ますみ	日本民具学会会員
9	早川 充	富士市立元吉原中学校長
10	米山 孝雄	富士市立富士川第二中学校長

平成27年度 博物館協議会開催実績

回	日 付	開催場所	議 題 ・ 内 容
1	平成27年10月22日	広見公園内ふるさと村 旧稲垣家住宅	・ 博物館本館展示リニューアル事業について ・ 富士市立博物館条例の改正について ・ 富士市立博物館愛称の選定について ・ 平成27年度事業報告 ・ 六所家総合調査事業について
2	平成28年1月29日	広見公園内ふるさと村 旧稲垣家住宅	・ 博物館本館展示リニューアル事業について ・ 平成28年度事業計画（案）
3	平成28年3月29日	富士市立博物館 講座室	・ 平成27年度事業報告 ・ 館内視察 ・ 意見交換 ・ 今後のスケジュール

(4) 利用状況

平成27年度博物館事業利用状況

年間開館日数	301 日
年間利用者数	37,843 人
一日平均利用者数	126 人
利用者累計	1,419,671 人

平成27年度博物館施設利用状況

利用場所				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
本館	有料	個人	大人	213	266	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	479
			小人	10	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	
		団体	大人	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	59
			小人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	<小計>			282	271	0	0	0	0	0	0	0	0	0	553	
	無料	個人	大人	28	905	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	933
			小人	63	388	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	451
		団体	大人	57	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	61
			小人	993	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,083
	<小計>			1,141	1,387	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,528	
	本館大人計			357	1,175	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,532
本館小人計			1,066	483	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,549	
《合計》			1,423	1,658	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,081	
歴史民俗資料館	個人	大人	255	565	202	159	231	181	185	143	92	147	187	292	2,639	
		小人	85	200	79	74	136	100	91	50	31	56	72	138	1,112	
	団体	大人	57	22	73	28	36	82	27	13	160	24	20	35	577	
		小人	680	0	172	375	10	243	85	110	5	349	239	151	2,419	
	歴史大人計			312	587	275	187	267	263	212	156	252	171	207	3,216	
	歴史小人計			765	200	251	449	146	343	176	160	36	405	311	289	3,531
	《合計》			1,077	787	526	636	413	606	388	316	288	576	518	616	6,747
その他	陶芸室	大人	627	548	521	493	477	522	551	486	471	426	496	472	6,090	
		小人	33	63	36	65	66	45	29	44	23	3	53	26	486	
	染色室	大人	154	522	172	251	204	234	138	170	160	171	178	195	2,549	
		小人	13	203	14	14	51	62	66	10	18	0	5	12	468	
	実習室	大人	67	162	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	229	
		小人	8	109	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	117	
	会議室	大人	99	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	139	
		小人	5	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	
	旧稲垣家住宅	大人	814	1,060	373	267	247	773	619	352	334	302	330	1,432	6,903	
		小人	1,423	349	364	301	60	219	130	255	253	444	330	637	4,765	
	出張体験指導	大人	11	10	27	3	41	43	481	104	0	0	52	0	772	
		小人	206	152	129	88	13	112	766	120	0	0	251	0	1,837	
	その他大人計			1,772	2,342	1,093	1,014	969	1,572	1,789	1,112	965	899	1,056	2,099	16,682
	その他小人計			1,688	918	543	468	190	438	991	429	294	447	639	675	7,720
	《合計》			3,460	3,260	1,636	1,482	1,159	2,010	2,780	1,541	1,259	1,346	1,695	2,774	24,402
富士川民俗資料館	個人	大人	33	59	32	13	18	22	54	33	14	44	31	47	400	
		小人	0	6	4	0	6	0	0	3	0	1	1	3	24	
	団体	大人	0	0	0	30	0	0	0	51	0	0	360	0	441	
		小人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	富士川民俗資料館大人計			33	59	32	43	18	22	54	84	14	44	391	47	841
	富士川民俗資料館小人計			0	6	4	0	6	0	0	3	0	1	1	3	24
《合計》			33	65	36	43	24	22	54	87	14	45	392	50	865	
小休本陣 常盤家住宅	個人	大人	103	181	55	37	51	126	0	77	71	58	357	92	1,208	
		小人	1	10	5	1	10	2	106	0	1	3	2	9	150	
	団体	大人	65	10	37	488	0	76	2	40	104	220	126	145	1,313	
		小人	0	9	0	0	0	0	43	0	1	0	24	0	77	
	小休本陣大人計			168	191	92	525	51	202	2	117	175	278	483	237	2,521
	小休小人計			1	19	5	1	10	2	149	0	2	3	26	9	227
	《合計》			169	210	97	526	61	204	151	117	177	281	509	246	2,748
総合計 大人			2,642	4,354	1,492	1,769	1,305	2,059	2,057	1,469	1,406	1,392	2,137	2,710	24,792	
総合計 小人			3,520	1,626	803	918	352	783	1,316	592	332	856	977	976	13,051	
《総合計》			6,162	5,980	2,295	2,687	1,657	2,842	3,373	2,061	1,738	2,248	3,114	3,686	37,843	

前年比(%)	190	48	73	73	62	82	87	47	85	86	61	76	
開館日数(日)	26	27	25	26	26	26	26	23	23	23	23	27	301
一日平均(人)	237	221	92	103	64	109	130	90	76	98	135	137	126

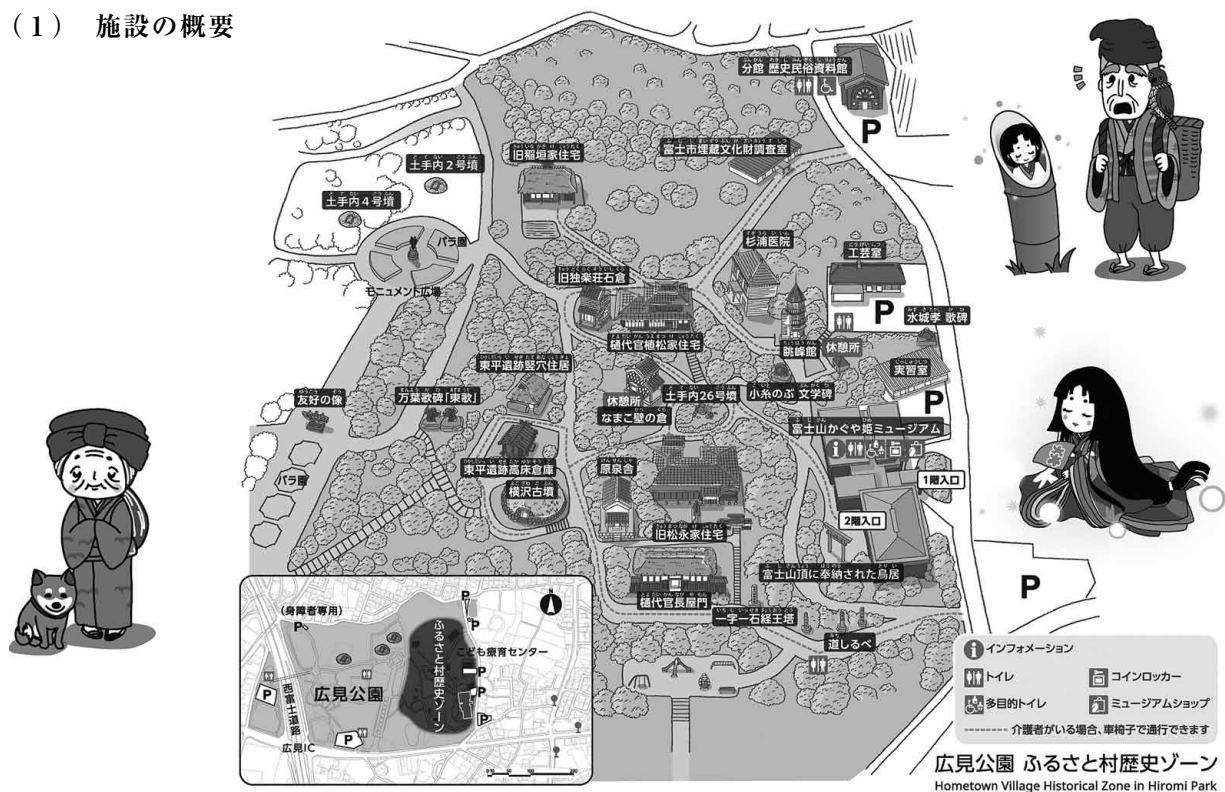
対26年度													
本館	747	-796	-446	-542	-833	-718	-674	-721	-316	-459	-624	-1,158	-6,540
歴史民俗資料館	591	-810	132	-74	44	-48	-175	-63	4	40	-240	11	-588
工芸・体験等	1,597	-4,950	-601	-767	-250	-23	256	-494	-83	-67	-354	-136	-5,872
富士川民俗資料館	-4	12	17	-5	8	4	31	23	-2	2	-157	-12	-83
小体本陣常盤家住宅	-15	-12	45	393	3	147	60	-1,023	91	122	-621	119	-691
合計	2,916	-6,556	-853	-995	-1,028	-638	-502	-2,278	-306	-362	-1,996	-1,176	-13,774

博物館利用の推移

年度	開館 日数	施設利用者別			施設別					合計	累計	一日平均 利用者数
		大人	小人	合計	本館	歴史民俗 資料館	富士川民 俗資料館	小休本陣 常盤家住宅	講座・体験 活動等			
昭和 56	274	16,133	16,425	32,558	32,558					32,558	32,558	119
57	295	11,636	18,024	29,660	29,660					29,660	62,218	101
58	293	10,077	15,074	25,151	25,151					25,151	87,369	86
59	297	10,065	13,847	23,912	23,912					23,912	111,281	81
60	292	12,513	13,680	26,193	26,193					26,193	137,474	90
61	256	11,751	9,124	20,875	20,875					20,875	158,349	82
62	293	17,132	10,489	27,621	27,621					27,621	185,970	94
63	291	19,455	11,037	30,492	30,492					30,492	216,462	105
平成 1	292	25,043	11,561	36,604	25,796				10,808	36,604	253,066	125
2	292	25,118	11,431	36,549	36,549					36,549	289,615	125
3	291	23,826	10,566	34,392	34,392					34,392	324,007	118
4	294	24,132	11,700	35,832	24,983				10,849	35,832	359,839	122
5	294	26,666	11,209	37,875	25,580				12,295	37,875	397,714	129
6	293	26,462	11,649	38,111	21,319				16,792	38,111	435,825	130
7	294	30,101	18,130	48,231	19,604	14,691			13,936	48,231	484,056	164
8	296	28,436	13,775	42,211	16,335	14,060			11,816	42,211	526,267	143
9	292	26,206	16,031	42,237	15,392	14,942			11,903	42,237	568,504	145
10	293	27,396	18,575	45,971	14,275	14,951			16,745	45,971	614,475	157
11	292	27,261	16,684	43,945	12,074	13,909			17,962	43,945	658,420	150
12	291	27,089	18,440	45,529	12,055	13,040			20,434	45,529	703,949	156
13	291	30,986	19,778	50,764	13,753	13,529			23,482	50,764	754,713	174
14	291	28,972	17,220	46,192	12,177	11,125			22,890	46,192	800,905	159
15	291	29,594	18,478	48,072	14,496	11,885			21,691	48,072	848,977	165
16	291	26,228	26,001	52,229	14,787	10,469			26,973	52,229	901,206	179
17	293	23,845	20,575	44,420	12,324	8,757			23,339	44,420	945,626	152
18	294	24,166	21,241	45,407	13,590	10,244			21,573	45,407	991,033	154
19	292	25,259	21,910	47,169	13,411	9,937			23,821	47,169	1,038,202	162
20	293	28,199	24,371	52,570	12,872	11,222	1,172	2,177	25,127	52,570	1,090,772	179
21	294	36,563	18,767	55,330	12,311	10,787	2,315	3,116	26,801	55,330	1,146,102	188
22	292	29,059	14,214	43,273	9,204	8,357	1,635	1,835	22,242	43,273	1,189,375	150
23	295	33,373	18,945	52,318	12,383	9,161	1,360	1,833	27,581	52,318	1,241,693	178
24	294	32,848	14,265	47,113	9,860	7,938	821	1,575	26,919	47,113	1,288,806	167
25	291	26,895	14,510	41,405	9,489	6,423	835	1,815	22,843	41,405	1,330,211	142
26	290	35,099	16,518	51,617	9,621	7,335	948	3,439	30,274	51,617	1,381,828	177
27	301	24,792	13,051	37,843	3,081	6,747	865	2,748	24,402	37,843	1,419,671	126
	10,198	837,584	544,244	1,381,828	645,094	222,762	9,086	15,790	489,096	1,381,828		140

3 富士市立博物館の概要

(1) 施設の概要



＜富士市立博物館施設面積一覧＞

単位：㎡

区 分	名 称	土地面積	延べ床面積
本 館	本 館	4,951.00	1,740.34
	実 習 室		200.00
	工 芸 棟		248.43
	小 計	4,951.00	2,183.17
歴史民俗資料館	歴史民俗資料館	39,687.50	656.95
	収 蔵 庫		208.75
	道しるべ		-
	樋代官長屋門		69.20
	旧松永家住宅		180.37
	一字一石経王塔		-
	原泉舎		74.40
	横沢古墳		-
	東平遺跡高床倉庫		18.17
	東平遺跡竪穴住居		23.50
	万葉歌碑「東歌」		-
	小糸のぶ文学碑		-
	眺峰館		59.01
	杉浦医院		138.60
	樋代官植松家住宅		195.00
	旧独楽荘石倉		33.00
	旧稲垣家住宅		160.39
	消火栓ポンプ室		9.36
	なまこ壁の倉 (休憩所)		9.72
	小 計	41,352.50	1,836.42
外部収蔵庫		4438.76	428.72
合 計		50,742.26	4448.31

(2) 事業の概要

事業

◇展示

①常設展示

■本館では、第1、第2展示室を常設展示とする。

第1展示室は、富士山南麓に生きた先人の歴史や文化について、時代順にコーナーを設けて展示。第2展示室は、富士市の地場産業である「紙」について展示する。

■分館の歴史民俗資料館では、1階フロアを常設展示、2階は体験コーナーおよび常設展示とする。

1階フロアは、市内地域の特色をふまえ、5区分のコーナーを設けて展示。2階の体験コーナーは、くらしの道具を実際に使える7種のコーナーと常設展示室を設置。いずれの常設展示も、実物資料をはじめ、模型やビデオ等によって解説する。

②特別展示

本館2階の特別展示室は、常設展示以外の特別展、企画展、共催展を随時開催。

③屋外展示

歴史民俗資料館の屋外展示として、広見公園歴史ゾーン内に、市内の貴重な由緒ある建造物を移築して保存する。また、道しるべ等石造文化財の移設を行い、館内展示を補うと共に、緑と歴史の公園として、富士の歴史と文化を楽しみながら学習できる場とする。

◇教育普及

①市民の歴史に関する知識の普及を図るために、講座・講演会・体験学習等を企画する。また、館報・博物館だより等を刊行する。

②学校教育との連携につとめ、館利用に積極的に対応し、児童生徒の博物館利用を促進する。

③博物館活動の一環として、郷土文化工芸団体や文化財愛護研究団体の育成助長につとめ、指導者の資質の向上をはかる。

◇資料の収集・整理・保管

富士市及びその周辺地域の歴史を理解する上で必要な資料を寄贈・購入・寄託等により収集し、整理分類した上で各収蔵庫に保管する。

◇調査研究

資料の収集や分類整理に併せ、展示の準備作業として、また市民の歴史に関する知識の普及に資するため、学術的な調査・研究活動を行う。

資料収集方針と主な収蔵資料

◇民俗資料

昭和40年代頃より、高度成長・生活安定の反映として、生活様式の変化を伴う家屋の改廃が増え、多くの民俗資料が破棄される状況の中で、保存の機運が高まる。

- ・農業用具…稲作及び畑作の農耕用具、浮島沼周辺生産農耕具（県指定）
- ・漁業用具…富士海岸沿岸で使用された漁具、及び漁船等の資料
- ・諸職用具…鍛冶、炭焼、山林等の資料
- ・生活用具…衣、食、住資料

◇美術工芸資料

本館の大テーマ「富士に生きる」に基づき、富士山にかかわりのある美術・工芸作品をはじめ、郷土にゆかりの作家の作品を収集。

- ・浮世絵…葛飾北斎、歌川広重、徳力富吉郎等の作品
- ・書及び絵画…鈴木香峰、庵原三山（麗山・泰山・鶴山）、井上恒也等の作品

◇歴史資料

宿場関係の野口家文書や中里関家文書等の地方文書を中心に収蔵。

- ・古文書…野口家、関家、影山家、島崎家等
- ・富士山関係資料…富士山信仰絵図、富士山古写真等

◇考古資料

昭和40年代以降、東名高速道路等の各種建設工事・工場誘致により、埋蔵文化財の発掘調査が盛んに行われた。その際に出土した、集落跡・古墳等の資料を数多く収蔵。

- ・天間沢遺跡…縄文土器、石器
- ・三新田遺跡…土師器、須恵器、灰釉陶器
- ・東平遺跡…土師器、須恵器、鉄器
- ・東坂古墳…内行花文鏡、四獣鏡、首飾り等
- ・谷津原1号墳…須恵器、装飾付大刀、砥石、装身具

◇紙関係資料

手漉和紙用具類をはじめ、技術改良の象徴としてのナプキン製造・機械抄製紙の資料等を逐次収集。また、紙に関する工芸品の収集にもつとめる。

- ・手漉和紙の用具、原料（楮、三桠）、製紙機械、紙工芸品（ダルマ、凧、紙人形他）

(3) 資料及び図書収集状況

※平成27年度末現在、六所家旧蔵資料は含まない

◇収蔵資料総合計数

	館所蔵	寄託	常設借用	合計
民俗	14,554	303	5	14,862
美術工芸	2,096	35	0	2,131
歴史	16,943	1,423	10	18,376
考古	5,889	2	734	6,625
紙関係	2,328	66	20	2,414
自然	123	0	0	123
視聴覚	578	0	0	578
その他	0	0	0	0
合計	42,511	1,829	769	45,109

◇受入種別所蔵資料数

①館所蔵資料

	寄贈	購入	収集	移管	合計
民俗	12,354	89	0	2,091	14,554
美術工芸	969	1,031	0	96	2,096
歴史	14,886	576	0	1,481	16,943
考古	2,836	3	0	3,050	5,889
紙関係	1,873	394	0	61	2,328
自然	25	0	0	98	123
視聴覚	258	105	204	11	578
その他	0	0	0	0	0
合計	33,201	2,198	204	6,888	42,511

②寄贈資料

	前年度迄	27年度	累計
民俗	12,325	29	12,354
美術工芸	968	1	969
歴史	14,864	22	14,886
考古	2,836	0	2,836
紙関係	1,873	0	1,873
自然	25	0	25
視聴覚	258	0	258
その他	0	0	0
合計	33,149	52	33,201

③購入資料

	前年度迄	27年度	累計
民俗	89	0	89
美術工芸	1,031	0	1,031
歴史	576	0	576
考古	3	0	3
紙関係	394	0	394
自然	0	0	0
視聴覚	105	0	105
その他	0	0	0
合計	2,198	0	2,198

④収集資料

	前年度迄	27年度	累計
視聴覚	204	0	204

⑤移管

	前年度迄	27年度	累計
民俗	2,091	0	2,091
美術工芸	96	0	96
歴史	1,481	0	1,481
考古	3,050	0	3,050
紙関係	61	0	61
自然	98	0	98
視聴覚	11	0	11
その他	0	0	0
合計	6,888	0	6,888

⑥寄託資料及び常設展示借用資料

<平成27年度寄託資料>

	更新中	新規借用	27年度返却	合計
民俗	303	0	0	303
美術工芸	33	2	0	35
歴史	1,316	107	0	1,423
考古	2	0	0	2
紙関係	66	0	0	66
自然	0	0	0	0
視聴覚	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
合計	1,720	109	0	1,829

<平成27年度常設展示借用資料>

	更新中	新規借用	27年度返却	合計
民俗	5	0	0	5
美術工芸	0	0	0	0
歴史	10	0	3	10
考古	734	0	0	734
紙関係	20	0	0	20
自然	0	0	0	0
視聴覚	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
合計	769	0	3	769

⑦富士市立博物館所蔵資料図書数

	前年度迄	27年度受入	合計
購入	2,446	10	2,456
寄贈	11,500	322	11,822
会員頒布	456	16	472
合計	14,402	348	14,750

＜平成27年度寄贈資料＞

受入番号	分野	資 料 名	点数
3000	美術		1
3001	歴史 / 民俗	坂内氏旧蔵資料（大礼記念章之証、感謝状、昭和六年乃至九年事変従軍記章之証、勲八等瑞宝章授与状、勲七等瑞宝章授与状、従七位授与状、陸軍砲兵少尉辞令状、勲六等瑞宝章授与状、陸軍中尉辞令状、勲五等双光旭日章授与状、紀元二千六百年祝典記念章之証、拝受状、履歴申立書、古写真、勲五等双光旭日章、裁縫の練習の服）	22
3002	民俗	防空頭巾	7
3003	歴史	奈木先生旧蔵資料（ディアナ号関係、教育関係、古写真、絵葉書）	1式
3004	民俗	天神人形	1
3005	民俗	計算尺	1
3006	民俗	ツノダル、温度計、祝いの二升ビン、酒ダル（陶器）、ひしゃく、マス、かがみびらきの木づち、酒受（陶器）、酒づくりの絵	19

（４） 富士市立博物館条例・規則

○富士市立博物館条例

昭和55年12月13日条例第30号

改正

平成6年9月29日条例第41号

平成19年9月28日条例第26号

平成20年9月30日条例第80号

平成24年3月29日条例第20号

平成24年6月29日条例第31号

平成27年10月15日条例第53号

富士市立博物館条例

（趣旨）

第1条 この条例は、教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）に基づき博物館の設置及び管理等について必要な事項を定めるものとする。

（設置）

第2条 富士市に博物館を設置する。

2 博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称	位置
富士市立博物館	富士市伝法66番地の2

3 博物館に分館を置く。

4 前項に規定する分館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称	位置
富士市立歴史民俗資料館	富士市伝法86番地の7
富士市立富士川民俗資料館	富士市岩淵8番地の1

（事業）

第3条 富士市立博物館（以下「博物館」という。）は、次に掲げる事業を行う。

- （1）考古、歴史、民俗、産業等に関する実物、模型、模写、文献、図表、写真等の博物館資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。
- （2）博物館資料の利用に関し、必要な説明、助言、指導等を行うこと。
- （3）博物館資料に関する専門的及び技術的な調査研究を行うこと。
- （4）博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
- （5）博物館資料に関する案内書、解説書、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- （6）博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- （7）他の博物館と協力し、情報の交換、資料の相互貸借等を行うこと。
- （8）学校、図書館等と協力し、その活動を援助すること。
- （9）博物館活動の講座、実習等のため施設を提供すること。
- （10）前各号に定めるもののほか、富士市教育委員会（以下「委員会」という。）が必要であると認める事業

（職員）

第4条 博物館に法第4条第1項、第3項及び第5項に規定する館長、学芸員その他必要な職員を置く。

（入館の制限）

第5条 委員会は、次の各号の一に該当するときは、入館を拒み、又は退館を命ずることができる。

- （1）展示品等を汚損し、又はき損するおそれのあるとき。
- （2）館内の秩序を乱し、又は入館者に迷惑をかけるおそれがあると認められるとき。
- （3）その他管理上支障があると認められるとき。

（特別展観覧料）

第6条 博物館の特別展の展示品等を観覧しようとする者は、別表に定める特別展観覧料を納めなければならない。

2 市長は、特別の理由があると認めるときは、前項に規定する特別展観覧料を減免することができる。

（既納の特別展観覧料）

第7条 既納の特別展観覧料は、返還しない。ただし、市長は、特別の理由があると認めるときは、その全部又は一部を返還することができる。

（使用の許可）

第8条 博物館の講座室及び実習室等（以下「博物館の施設」という。）を使用しようとするときは、委員会の許可を受けなければならない。

（使用許可の制限）

第9条 委員会は、次の各号のいずれかに該当するときは、博物館の施設の使用を許可しないものとする。

- （1）公の秩序又は善良な風俗を害するおそれのあるとき。
- （2）集团的又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれがある組織の利益になると認められるとき。
- （3）施設、設備、展示品等を損傷するおそれのあるとき。
- （4）その他管理上支障があると認められるとき。

（目的外使用、権利譲渡等の禁止）

第10条 第8条の規定に基づき使用の許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、博物館の施設を許可された目的以外に使用し、又はその権利を譲渡し、若しくは転貸することができない。

（造作上の制限）

第11条 使用者は、博物館の施設を使用するため、特別の設備をし、又は造作を加えようとするときは、あらかじめ委員会の許可を受けなければならない。

（使用許可の取消等）

第12条 委員会は、次の各号の一に該当するときは、使用の許可を取り消し、又は使用を停止し、若しくは使用の制限をすることができる。

- （1）この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。
- （2）第9条各号に該当する理由が発生したとき。
- （3）使用許可の条件に違反したとき。

（原状回復の義務）

第13条 使用者は、博物館の施設の使用を終了したとき又は前条の規定により使用許可を取り消され、若しくは使用を停止されたときは、直ちにこれを原状に回復しなければならない。

(損害賠償)

第14条 観覧者又は使用者は、博物館の施設、設備、展示品等を損傷し、又は滅失したときは、その損害について、市長が定める額を賠償しなければならない。

2 第12条の規定に基づく使用の許可の取消し等によつて使用者が被つた損害については、市は、その賠償の責めを負わない。

(博物館協議会)

第15条 法第20条第1項の規定により、博物館に富士市立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会は、委員10人以内で組織する。

3 委員は、次に掲げる者のうちから委員会が委嘱し、又は任命する。

(1) 学校教育及び社会教育の関係者

(2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者

(3) 学識経験者

(4) 公募による市民

4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 協議会に会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

(委任)

第16条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行について必要な事項は、委員会の規則で定める。

附 則

この条例は、昭和56年4月1日から施行する。

附 則(平成6年9月29日条例第41号)

この条例は、平成6年11月16日から施行する。

附 則(平成19年9月28日条例第26号)

この条例は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成20年9月30日条例第80号)

この条例は、平成20年11月1日から施行する。

附 則(平成24年3月29日条例第20号)

1 この条例は、平成24年4月1日から施行する。

2 この条例の施行の際現に改正前の富士市立博物館条例第15条第2項の委員である者は、その任期中に限り、改正後の富士市立博物館条例第15条第2項の委員とみなす。

附 則(平成24年6月29日条例第31号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成27年10月15日条例第53号)

この条例は、平成28年4月29日から施行する。

別表(第6条関係)

特別展観覧料

区分		金額
個人	小人	市長が別に定める額
	大人	
団体	20人以上 1人につき	個人に係る所定の特別展観覧料の6割に相当する額

備考

1 小人とは、小学校の児童及び中学校の生徒をいい、大人とは、小人及び小学校就学前の児童を除いた者をいう。

2 市内の小学校又は中学校の教育課程に基づく学習活動として入館する場合は、児童又は生徒及び引率者の特別展観覧料は、免除する。

○富士市立博物館条例施行規則

昭和56年3月25日教育委員会規則第5号

〔注〕平成9年から改正経過を注記した。

改正

平成元年1月19日教委規則第1号

平成9年3月24日教委規則第1号

平成17年2月24日教委規則第1号

平成27年10月15日教委規則第10号

富士市立博物館条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、富士市立博物館条例(昭和55年富士市条例第30号。以下「条例」という。)の施行について必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 富士市立博物館(以下「博物館」という。)の開館時間は、次のとおりとする。ただし、富士市教育委員会(以下「委員会」という。)が必要と認めたときは、これを変更することができる。

(1) 夏期(4月から10月まで) 午前9時から午後5時まで

(2) 冬期(11月から翌年3月まで) 午前9時から午後4時

30分まで

(休館日)

第3条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、委員会が必要と認めたときは、これを変更し、又は臨時に休館することができる。

(1) 月曜日(その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に定める休日に当たる日は、火曜日)

(2) 国民の祝日に関する法律に定める休日の翌日

(3) 12月28日から翌年1月4日まで

(特別展観覧券)

第4条 条例第6条第1項の規定による特別展観覧料の納付は、富士市立博物館特別展観覧券(第1号様式)によるものとする。ただし、団体が観覧しようとする場合は、富士市会計規則(昭和41年富士市規則第22号)第8条の規定により取り扱うものとする。

(特別展観覧料の減免)

第5条 条例第6条第2項の規定による特別展観覧料の減免は、次の各号による。

(1) 生活保護の世帯員、母子家庭、父子家庭の家族及び身体障害者等が入館する場合 全額

(2) 市で全国又は県下大会等公的催しが行われ関係者が入館する場合 全額

(3) その他特別の理由があると認める場合 全額又は2分の1の額

(使用許可の申請)

第6条 条例第8条の規定により博物館の施設の使用の許可を受けようとする者は、富士市立博物館使用許可申請書(第2号様式)を委員会に提出しなければならない。

2 前項に規定する申請書の提出は、使用日前2週間までとする。ただし、委員会がやむを得ない理由があると認めるときは、この限りでない。

(使用の許可)

第7条 委員会は、前条第1項に規定する申請書の提出があつたときは、これを審査し、適当と認めたときは、富士市立博物館使用許可書(第3号様式)を交付する。

(使用許可の取消し等の願出)

第8条 博物館の施設の使用の許可を受けた者(以下「使用者」という。)が、その取消し又は変更を願ひ出ようとするときは、使用日前5日までに富士市立博物館使用許可取消し・変更願(第4号様式)に富士市立博物館使用許可書を添えて委員会に提出しなければならない。

(遵守事項)

第9条 観覧者及び使用者は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

(1) 施設、設備、展示品等を汚損し、又は損傷しないこと。

(2) 所定の場所以外において火気を使用しないこと。

(3) 許可を受けずに展示品の模写又は撮影をしないこと。

(4) 許可を受けずに募金若しくは図録の販売又はこれらに類する行為をしないこと。

(5) 前各号に定めるもののほか、管理上必要な指示に反する行為をしないこと。

(博物館協議会)

第10条 会長は、会務を総理し、富士市立博物館協議会(以下「協議会」という。)を代表する。

2 会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指定する委員がその職務を代理する。

第11条 会長は、協議会を招集し、会議の議長となる。

2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもつて決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

附 則

この規則は、昭和56年4月1日から施行する。

附 則(平成元年1月19日教委規則第1号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(平成9年3月24日教委規則第1号)

1 この規則は、平成9年4月1日から施行する。

2 この規則の施行の際、改正前の規則の様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

附 則（平成 17 年 2 月 24 日教委規則第 1 号）

この規則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 27 年 10 月 15 日教委規則第 10 号）

この規則は、平成 28 年 4 月 29 日から施行する。

第 1 号様式（第 4 条関係）

富士市立博物館特別展観覧券	
¥	
1 人 1 回限り	
月	日 No（通し番号）

一部改正〔平成 27 年教委規則 10 号〕

第 2 号様式（第 6 条関係）

富士市立博物館使用許可申請書	
年 月 日	
（あて先）富士市教育委員会	
住所（所在地）	
申請者	
氏名（名称及び代表者）	
次のとおり博物館を使用したいので、申請します。	
記	
日	時
施設	設
目	的
内	容
人	員
特別設備の有無	

一部改正〔平成 9 年教委規則 1 号・17 年 1 号〕

第 3 号様式（第 7 条関係）

富士市立博物館使用許可書	
第	号
年	月 日
様	
富士市教育委員会 印	
年 月 日付け申請のあつた博物館の使用については、次のとおり許可します。	
記	
日	時
施設	設
目	的
人	員
使用許可の条件	

第 4 号様式（第 8 条関係）

富士市立博物館使用許可取消し・変更願	
年 月 日	
（あて先）富士市教育委員会	
住所（所在地）	
願出者	
氏名（名称及び代表者）	
年 月 日付け 第 号をもつて許可のあつた博物館の使用について、次のとおり取消し・変更をしたいので願ひ出ます。	
記	
取消し・変更の理由	
変更の内容	

一部改正〔平成 9 年教委規則 1 号・17 年 1 号〕



紀 要

BULLETIN

富士市域の中世墓 ～今井中世五輪塔群・沢上遺跡出土資料の紹介～

藤村 翔

1 はじめに

筆者は、平成 28 年度のテーマ展「富士へとつながる海の道—吉原ミナトの交通史」(会期：2016 年 7 月 2 日～9 月 25 日)開催の準備を進めるにあたり、中世吉原湊に関する古文書類については矢部家文書を中心に研究の蓄積があるものの、湊の特性を地域内で相対化するためには欠くことのできない富士市域の中世遺跡に関する基礎資料が乏しいことに問題を感じていた。県内では静岡県考古学会(同 1997)や菊川シンポジウム実行委員会(同 2005)によって中世に関わる基礎資料の集成や評価が進められているものの、調査事例が少ないこともあり、遺跡の面から十分な検討が加えられたことは皆無に等しい。一方で、富士山かぐや姫ミュージアム(富士市立博物館)には、過去に収蔵されながらも未報告の中世資料が一定量存在する。なかには中世の湊や交通路を考える上でも重要な資料もみられるため、本稿で館蔵資料の実測図の公開とその報告をおこない、本市域の基礎資料充実に向けた一助としたい。

2 今井中世五輪塔群出土資料

今井中世五輪塔群とは、富士市今井一丁目 647-5 に所在する中世墓跡である(図 1)。昭和 39 年(1964)12 月 4 日、同地区の愛鷹神社南側の公園整地に伴い、複数の五輪塔と蔵骨器が出土した。発見に立ち会った鈴木富男の著書には、田子浦砂丘上の地表下 7～9m から「石造の五輪塔や、茶毘にした人骨、あるいは骨壺など多数が発見された」とあり、その数は「十数基」であったとされる(鈴木 1981)。昭和 44 年(1969)8 月 19 日には後述する資料のうち、2・3 の石製五輪塔が富士市指定有形文化財(建造物)として指定されている。その後、遠江中世石塔研究会により五輪塔の実測図が作成され、その概要が報告されたものの(松井ほか 2007)、詳細な観察所見や蔵骨器も含めた評価は発見後 40 年以上が経過した現在まで行われていない。

今回の報告に際し、中世陶器 1 点(1)、五輪塔 3 基(2～5)を新たに図化した(図 2)。

1 は常滑の三筋壺である。富士市立博物館にて常設

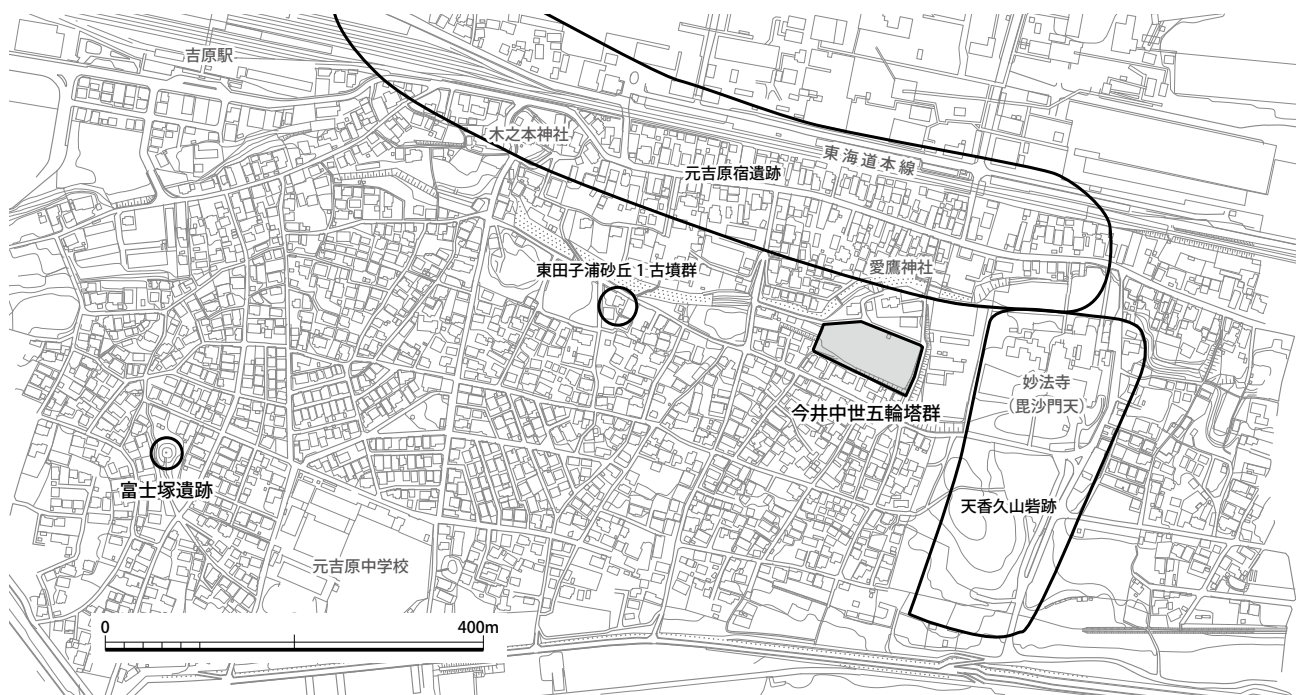


図 1 今井中世五輪塔群の位置と周辺の遺跡 (1/8,000)

展示されていた。頸部より上を欠損するが、残存器高 23.1cm、胴部最大径 18.9cm、底径 7.7cmを測る。肩部は

やや張るものの、最大径は胴部中段にあり、底部に向けて細く絞られる形態である。胴部下部にはヘラケズリ痕

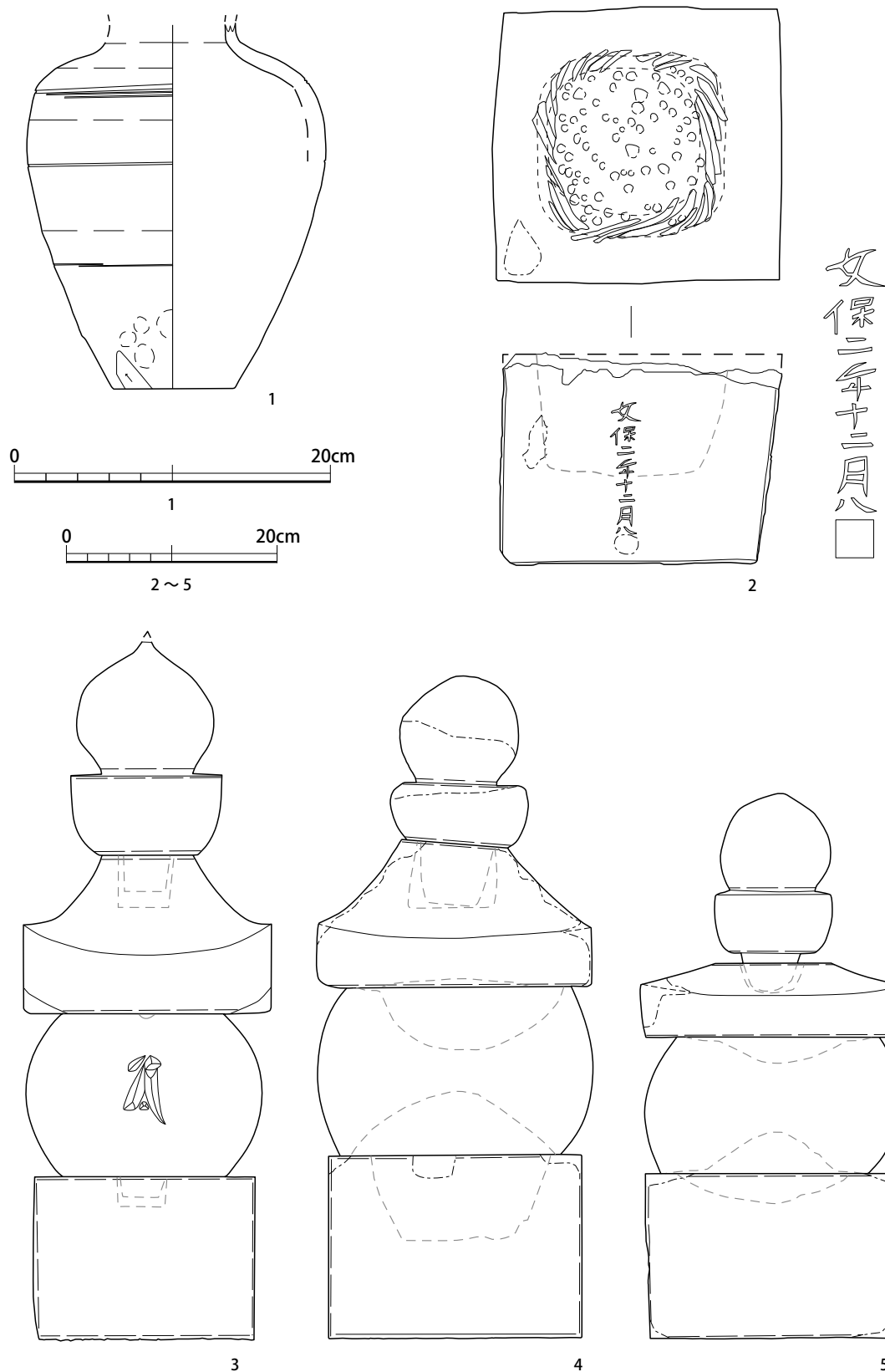


図2 今井中世五輪塔群出土資料（陶器：1/4、五輪塔：1/6）

や指圧痕、穿孔がみとめられる。三筋文はやや粗雑な印象で、特に中・下段は沈線が浅く、かすれ気味になる部分が目立つ。胴部最大径が中段にくるプローションから、常滑2型式期(12世紀後半、中野2012)の製品と考えられる⁽¹⁾。なお、市立博物館にて常設展示される以前には内部に人骨片が入っていたようであり⁽²⁾、蔵骨器として使用されたことは疑いない。

2は白色凝灰岩製⁽³⁾の五輪塔の地輪であり、上記市指定文化財の「その2」として登録された資料である。富士市立博物館にて常設展示されていた。非常に軟質で脆く、上面には風化等による欠損がみとめられるが、高さ20cm、幅26.5cmを測り、上部に深さ11.5cmの挟りが入る形態である。表面は平滑に仕上げられているため、目立った工具痕を確認することはできないが、挟り内部には鑿状工具による痕跡が残されており、底面はハチの巣状の荒掘り痕が、側面は左回りの螺旋状に仕上げの切削痕が、それぞれみとめられる。図示した正面に「文保二年十二月八□」(□は欠損)と陰刻されており、文保2年(1318)に造立された五輪塔の一部と判断される。

3はデイサイト製の五輪塔であり、上記市指定文化財の「その1」として登録された資料である。富士市立博物館にて常設展示されていた。遠江中世石塔研究会の報告では白色凝灰岩(松井ほか2007)や安山岩(溝口2012)とされるが、石英や角閃石が多くみとめられる点から、デイサイト製とした。他の五輪塔と比べて非常に硬質であり、空風輪上端がわずかに欠損するものの、現存総高66.2cm、火輪幅23.5cm、水輪幅22.0cm、地輪幅21.0cmを測る。空風輪と火輪、水輪と地輪の接合はともにほぞ穴式である。火輪下面、水輪上面は平滑に仕上げられることで接合するが、後者には深さ0.5cm程の用途不明の窪みがある。火輪は高さがあり、軒の反りが大きな形態であり、また水輪も後述する4・5に比べて上下の接合面が小さく、丸形に近いことから、全体的に均整のとれた形態を呈している。水輪には梵字が薬研彫され、実測図正面から右回りにバ(東)・パー(南)・パン(西)・パク(北)と配される。いずれの梵字にも隅部などに極小の金箔が遺存することから、往時には薬研彫された梵字に金箔が象嵌されていたことが推定される。

4は白色凝灰岩製の五輪塔であり、整理用コンテナに「今井中世五輪塔 No.1」と記され収蔵庫に保管されていた資料である。解体収蔵されていたため、水輪の天地は不明である。非常に軟質で脆く、総高63.0cm、火輪幅26.0～26.5cm、水輪幅26.0cm、地輪幅24.0～24.5cm

を測る。空風輪と火輪の接合はほぞ穴式であるが、水輪の上下面、地輪の上面にはそれぞれ深い挟りを入れて接合する形態である。なお、火輪の下面にも浅い挟りがみとめられる。挟り内部には鑿状工具による痕跡が残されているが、底面、側面ともに2よりも幅広な方形の切削痕がみとめられる。

5は白色凝灰岩製の五輪塔であり、整理用コンテナに「今井中世五輪塔 No.3」と記され収蔵庫に保管されていた資料である。解体収蔵されていたため、水輪の天地は不明である。また、空風輪と火輪もほぞ穴の深さが合わず、五輪塔の組み合わせ自体が不正確な可能性がある。非常に軟質で脆く、総高51.5cm、火輪幅25.0～25.2cm、水輪幅24.0cm、地輪幅22.0～23.6cmを測る。空風輪と火輪の接合はほぞ穴式であるが、水輪の上下面は深い挟りを入れて接合する形態である。2や4と異なり、地輪の上面には浅い挟りとなる。火輪は風化がひどく、旧状を判断し難いものの、扁平な形態に図化した⁽⁴⁾。挟り内部には鑿状工具による痕跡が残されており、底面、側面ともに4と類似した方形の切削痕がみとめられる。

小結 五輪塔の造立年代については、既に遠江中世石塔研究会により、紀年銘のある2を14世紀前葉の定点として評価することで、3・4も同年代とする編年案が提示されている(松井ほか2009、溝口2012)。2・4は石材が同じで挟りの形態も類似しており、同年代として積極的に考えられるが、5は地輪の挟りが浅い点から、やや後出する可能性がある。3は律宗系五輪塔とされ、元亨3年(1323)銘の銅製蔵骨器が出土した沼津市・靈山寺1号塔(吉澤1998)を小型化したような均整のとれた形態であり、デイサイト製で金箔梵字を採用する点からも、2・4・5とは異なる形式といえる。水輪のみに梵字が刻まれる点を重視すれば(松井ほか2009)、14世紀中葉～後葉に降る可能性もあろうか。いずれにしても、今回報告した2～5については、14世紀代におさまるものとして考えておきたい。このほか、今井中世五輪塔群からは、凝灰質砂岩製で15～16世紀の作とみられる新式石塔1基(今井中世五輪塔 No.2)が出土している(松井ほか2007)。

常滑の三筋壺については、石塔とは少なくとも100年以上の年代差があることが今回初めて判明した。これが、単独で出土したものであるのか、それともいずれかの石塔下部から出土したものであるのかによっても評価は異なるが、前者であれば当該地の中世墓がまさに中世初頭から機能していたことを物語るし、後者であればいわゆる「陶磁器の伝世」後の蔵骨器としての使用(藤澤

2001)あるいは墓地の再整備(清水 2012)を示唆する資料と考えられる。いずれにしても、富士地域における中世社会の幕開けとその地域的展開を考察する上で、一級の資料として評価されよう。

3 沢上遺跡出土資料

沢上遺跡とは、富士市岩淵に所在する、縄文時代後期前半の集落と中世～近世の墓の存在が確認された複合遺跡である(図3)。昭和6年(1931)の発見以来、昭和40年(稲垣 1968)、昭和60年(範囲確認)、平成元年(第1次、写真1)、平成5年(第4次)、平成6年(第5次)などに旧富士川町教育委員会による発掘調査が実施されている。今回報告する中世陶器(図4・写真2～4)は、「沢上遺跡出土」と表記されて富士市立博物館へと収蔵されていたものである。おそらくは第1次・第4次・範囲確認調査地区一帯に展開していたとされる中世墓のうち、第4次調査に伴う出土品とみられる。

6は渥美の灰釉刻文小型壺である。口縁部の3/4を欠損するが、器高21.5cm、復元口径10.8cm、胴部最大径17.9cm、底径9.0cmを測る。口頸部は外反し、口縁端部は折り返して玉縁状をなす。なで肩で、底部に向けてやや絞られる形態である。外面の胴部最下部にはヘラケズリ痕や粘土紐接合痕が、内面には頸部より下方に粘土紐



写真1 沢上遺跡の近世墓(第1次調査)

接合痕が明瞭に残る。胎土は密で、1～5mm大の白色礫を微量含んでいる。肩部にヘラ描きによる「大」の刻文が施される。同位置には横位の沈線もめぐっており、裏側にて別の縦位の2本の沈線と接している。頸部内面から肩部外面にかけて、灰白色の灰釉がハケ状工具によって塗布されるが、十分に溶解されていないため、横～斜め方向のハケ塗りの痕跡が明瞭に残る。胴部下半を絞るプロポーシオンから、渥美2a～2b型式期頃(12世紀後葉～13世紀初頭、安井 2012)の製品と考えられる。

内部には骨粉が入れられており、蔵骨器として使用されたものと判断される。

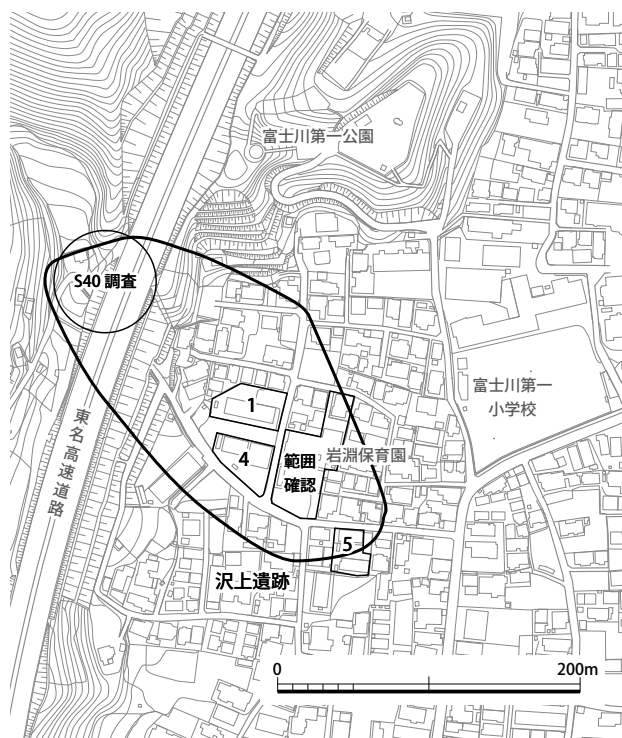


図3 沢上遺跡の位置と周辺の遺跡(1/5,000)

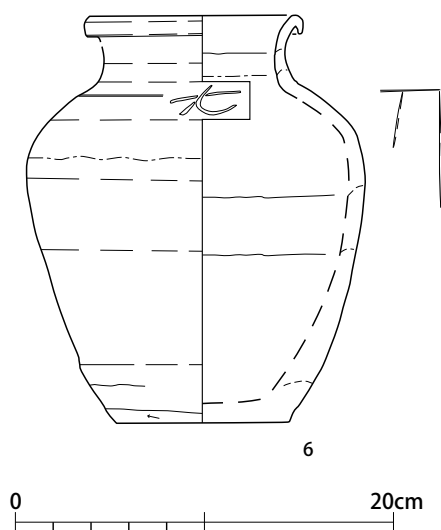


図4 沢上遺跡の出土資料(1/4)

4 富士市域における中世遺跡の様相

古くからその存在が知られる経塚を除くと、周辺自治体と比べて不明な部分が多いと嘆かれてきた富士市域の中世遺跡であるが、近年の調査成果に前節までに紹介した資料を加えることにより、特に墓域の分布状況につい

ては一定の様相が判明しつつある(図5)⁽⁵⁾。以下、3つの地区を中心に中世墓の概要と見通しを述べておきたい。

岩淵地区 富士川西岸の岩淵に所在する破魔射場遺跡(4)では、中世墓と考えられるものを含む当該期の土坑16基が調査されている(井鍋ほか2001)。遺物は白

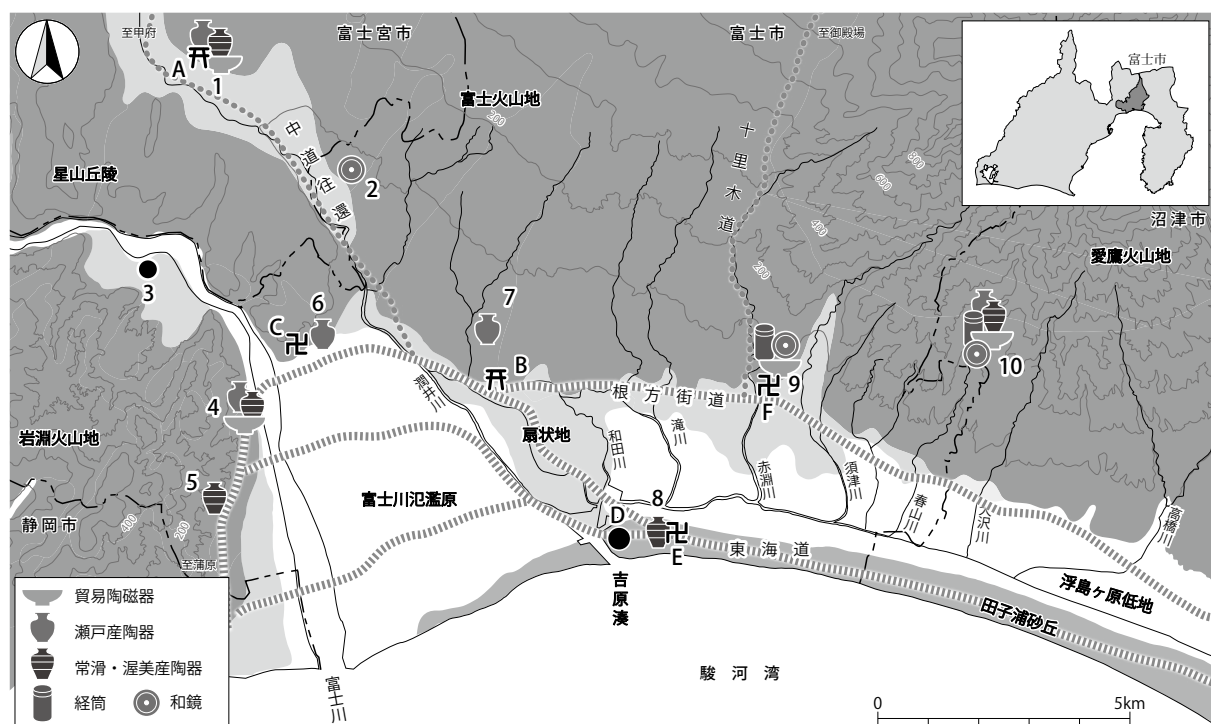
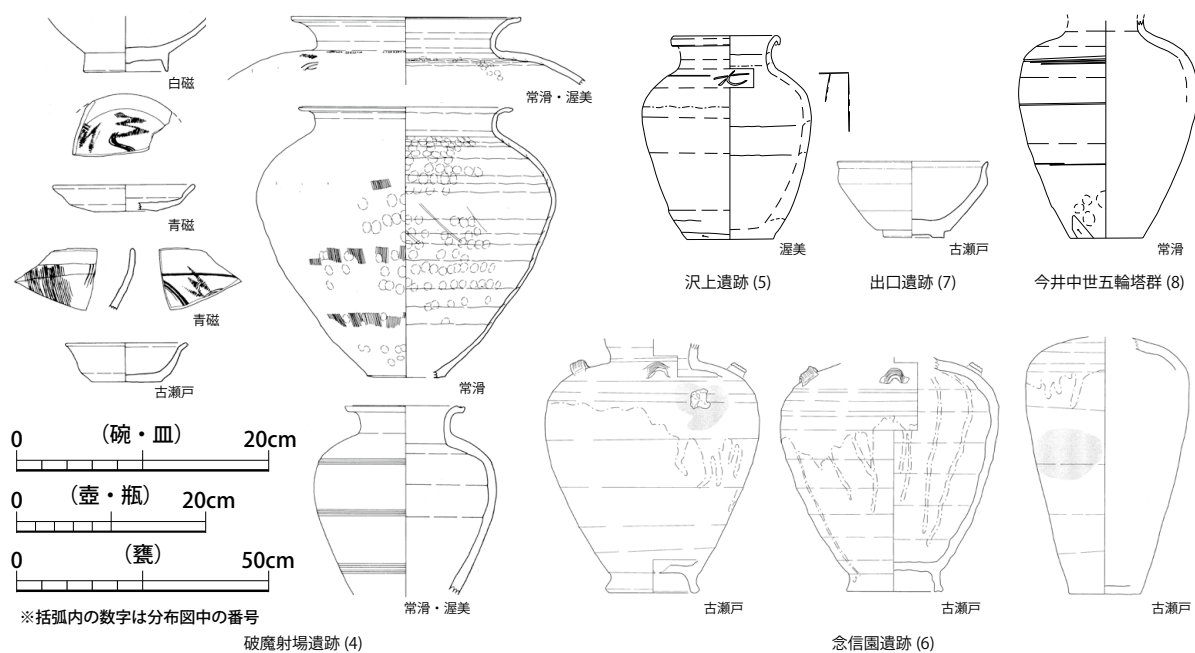


図5 富士郡周辺における中世遺跡(12～14世紀頃)

磁碗や青磁碗・皿といった貿易陶磁器を筆頭に、古瀬戸～大窯段階の瀬戸の皿、常滑・渥美の甕や三筋壺、中国銭が包含層を含めて出土しているほか、隣接する谷津原古墳群でも中国銭や火打金出土する。遺物の年代観から、12世紀後半から16世紀前半までの幅をもつ墓域であったと考えられよう。

岩淵地区は近世に富士川渡船・舟運の河岸場が置かれた場所であり、富士川下流が複数の流路に分散していた中世以前においても、渡川を含む東海道交通の拠点となるマチが展開していたことが想像される。遺跡が残る西岸の河岸段丘上は、そうしたマチあるいは寺院の墓域として利用されていたのであろう。第3節で紹介した沢上遺跡(5)も、同じように理解できる。

岩本地区 富士川扇状地(汜濫原)を臨む星山丘陵の南端、岩本に所在する念信園遺跡(5)では、13世紀前半の製作とみられる瀬戸産の四耳壺と瓶子が採集されている(佐藤2010)。出土地近辺には中近世の五輪塔が集積されていることから、こちらも蔵骨器として使用されたものであろう。遺跡の南西には、鳥羽法皇の発願をうけた智印上人によって久安年間(1145～1150)に建てられたとされる天台寺院・実相寺もあり、平安時代末から鎌倉時代にかけて、一帯が郡内でも有数の仏教信仰上の拠点であったことは疑いない。また、汜濫原を避けるように富士川を渡る際には、星山丘陵の南端に沿って進むルートが想定されるのであり、実相寺とその周辺の村落が交通上の要衝としても機能していたことが推察される。

今井地区 第2節で報告した12世紀後半の常滑産三筋壺の発見により、五輪塔の存在から14世紀以降と考えられてきた今井地区の中世遺跡が、中世初頭まで遡ることが明らかとなった。伝世の可能性もあるため即座に中世墓の存在を同時期まで引き上げることはできないが、かの地において全国への本格的波及が始まったばかりの希少な常滑産陶器を保有する勢力が既に誕生していたことは特筆できる。

今井中世五輪塔群の位置する田子浦砂丘の西側、潤井川と沼川の河口部には吉原湊が存在しており、まさに富士山南麓地域における海の玄関口として重要な場所であった。湊口はその時々に応じて移動を繰り返していたようであり、万治3年(1660)以前には富士塚の東、今井あたりに位置していたとする記録がある(鈴木1981)。そうであれば、今井の地はまさに吉原湊口を見下ろす要衝として想定すべきであろう。また、五輪塔群の発見された場所の東側には平安時代の作とされる毘沙

門天像を祀る妙法寺があり、周辺では地下4mから巨大な礎石が発見されたこともあることなどから、鈴木富男は平安時代末か鎌倉時代初頭以降、一帯に密教系の大寺院が存在した可能性を指摘している(鈴木1981)。松井一明氏らは、本稿で示したデイサイト製も含むとみられる東伊豆産安山岩製五輪塔が遠江・駿河の湊や河川に隣接する密教系や時宗関係、あるいは天台系有力寺院へと海運によって搬入されたことを指摘しており(松井ほか2009、溝口2012)、今井の地に14世紀より五輪塔が造立された意義もまた、改めて強調しておきたい。

5 おわりに

平成28年度のテーマ展「富士へとつながる海の道—吉原ミナトの交通史」開催に先立つ事前調査として、未報告の館蔵中世資料の実測とその報告をおこなった。その結果、東海西部産陶器を用いた蔵骨器や14世紀の五輪塔を築くような墓については、吉原湊や富士川の渡川ルートといった交通の要衝周辺に分布すること、また有力寺院に関わる場合もあることを指摘した。

平安時代末から鎌倉時代初頭の時期に当たる12世紀後半から13世紀代に墓へ埋葬された貿易陶磁器や瀬戸・常滑・渥美産の蔵骨器等は、当該期に武士や僧侶といった有力階級が、富士市岩淵・岩本・今井といった要衝を軸に着実に成長していたことを雄弁に物語る一級資料として位置付けられる。今後、村落など生活遺構の発見によって、富士郡周辺の中世社会が一層明らかとなることを望み、筆をおきたい。

謝辞

本稿をまとめるにあたり、以下の方々から御教示や御協力を賜った。末筆ながら、記して感謝いたします。

池谷 初恵、石川 武男、北垣 俊明、木ノ内 義昭、
佐藤 祐樹、佐野 五十三、中野 晴久、藤澤 良祐、
山本 倫弘、若月 正巳 (50音順、敬称略)

註

- (1) 産地と時期の比定にあたり、池谷初恵氏、中野晴久氏の御教示を得た。
- (2) 平成16年(2004)、既に常設展示されていた三筋壺内にあった人骨はビニール袋で別に保管してあったそうだが、この時に当時の学芸員によって別の容器(骨壺)に移され、現在まで保管されている。人骨は部位がわかるものも含めて一定量存在し

ており、人骨鑑定などの調査の余地がある。

- (3) 五輪塔(2～5)の石材判定にあたり、北垣俊明氏(奇石博物館)の御教示を得た。
- (4) 木村弘之氏・溝口彰啓氏らは空風輪のほぞが埋まる高さになるよう軒を高くして復原しているが(松井ほか 2007)、火輪上面全体を欠損とするには躊躇されるため、扁平な軒を想定した。
- (5) 実測図の出典は以下の通り。破魔射場遺跡:(井鍋ほか 2001)、出口遺跡:(志村ほか 1981)、念信園遺跡:(佐藤 2010)

参考文献

- 井鍋 誉之ほか 2001『富士川 SA 関連遺跡』遺構編・遺物編 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告書 第 123 集 (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 菊川シンポジウム実行委員会 2005『陶磁器から見る静岡県の中世社会—東でも西でもない—』菊川城館遺跡群国指定記念シンポジウム資料集
- 佐藤 祐樹 2010「富士市岩本出土の古瀬戸」『平成 14・20 年度富士市内遺跡発掘調査報告書』富士市教育委員会
- 静岡県考古学会 1997『静岡県における中世墓』静岡県考古学会

シンポジウム資料

- 清水 尚 2012「石塔と蔵骨器」『中世石塔の考古学—五輪塔・宝篋印塔の形式・編年と分布—』高志書院
- 志村 博ほか 1981『横沢古墳・中原 1 号墳 伝法遺跡群(伝法 A～E 地区) 天間地区』富士市教育委員会ほか
- 鈴木 富男 1981『鈴川の歴史』鈴川区管理委員会
- 中野 晴久 2012「常滑窯」『愛知県史 別編 窯業 3 中世・近世 常滑系』愛知県
- 稲垣 甲子男 1968「沢上遺跡」『富士川町史』追補 富士川町
- 藤澤 良祐 2001「埋納された古瀬戸製品」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要XⅧ』瀬戸市歴史民俗資料館
- 松井 一明・木村 弘之・溝口 彰啓ほか 2005～2009「静岡県下における中世石塔の研究 1～5」『静岡県博物館協会研究紀要』第 28～32 号 静岡県博物館協会
- 溝口 彰啓 2012「東海<遠江・駿河・伊豆>」『中世石塔の考古学—五輪塔・宝篋印塔の形式・編年と分布—』高志書院
- 安井 俊則 2012「渥美窯」『愛知県史 別編 窯業 3 中世・近世 常滑系』愛知県
- 吉澤 悟 1998「沼津市霊山寺の中世石塔群の調査」『沼津市史研究』第 7 号 沼津市教育委員会



写真2 沢上遺跡の蔵骨器（全体）



写真3 沢上遺跡の蔵骨器（肩部刻文と灰釉）



写真4 沢上遺跡の蔵骨器（肩部沈線と灰釉ハケ塗り痕）

註

- (1) 『六所家総合調査報告書 古文書①』（富士市教育委員会、二〇一四）以下、『古文書①』と表記。翻刻編近世B東泉院歴代住持帳十七・十九・二二号。『古文書②』目録編A1・二三号、A1・四一号、A1・三五六号。
- (2) 『古文書②』目録編A1・四一号。
- (3) 『古文書①』翻刻編近世A東泉院及び浅間神社の由緒と縁起八号。『古文書②』目録編A1・一二七号。
- (4) 『古文書①』翻刻編富士山縁起一号。
- (5) 大高康正『富士山縁起の世界』（富士山信仰と修験道）岩田書院、二〇一三。
- (6) 新庄道雄著・足立敏太郎修訂・飯塚傳太郎補訂『修訂駿河国新風土記 下巻』（国書刊行会、一九七五）、『富士山縁起の世界―赫夜姫・愛鷹・犬飼―』（富士市立博物館、二〇一〇）。
- (7) 大高康正『中世後期から近世初期における東泉院支配の推移』（『六所家総合調査だより』第七号 富士市立博物館、二〇一〇）、湯之上隆『六所家旧蔵中世文書の紹介』（『六所家総合調査だより』第九号 富士市立博物館、二〇一〇）、『古文書①』本編中世解説（前田利久氏執筆）。
- (8) 『古文書①』翻刻編中世A東泉院中世文書三号。
- (9) 『古文書②』目録編A1・三六一号。
- (10) 『古文書①』翻刻編中世A東泉院中世文書六号。
- (11) 『古文書①』翻刻編中世A富知六所浅間神社文書二号。
- (12) 大高康正『富士山東泉院の歴史』（前掲註5大高二〇一三所収）。
- (13) 東京大学史料編纂所請求記号二〇七五―六六四。
- (14) 当史料の書写奥書には、「右葛山系譜、駿河国富士郡吉原町葛山頼善本、明治廿二年十月文科大学教授星野恒探訪、明年五月謄写了、」とある。
- (15) 前掲註4。
- (16) 『古文書①』翻刻編中世A富知六所浅間神社文書十一号。『静岡県史 資料編七 中世三』（静岡県、一九九四）三七四六号。以下、『静岡県史 中世三』と表記。なお『静岡県史』では当文書の宛所の「東泉院」を久能寺の快円と比定しているが、それは誤りである。
- (17) 酒入陽子『懸川開城後の今川氏真について』（『戦国史研究』第三九号、二〇〇〇）。前田利久『後北条氏庇護下の今川氏真について』（『地方史静岡』第二九号、二〇〇一）。
- (18) 柳沢利沙『一六世紀における今川氏の動向について』（東京学芸大学近世史研究会編『高家今川氏の知行所支配―江戸周辺を事例として―』名著出版、二〇〇二）。
- (19) 武田氏の駿河侵攻については、『静岡県史 通史編二 中世』（静岡県、一九九七）第三編第六章（大久保俊昭・加藤秀明・久保田昌希・前田利久氏執筆）を参照。
- (20) 『静岡県史 資料編八 中世四』（静岡県、一九九六）一五二二号（久能寺文書）。以下、『静岡県史 中世四』と表記。久能寺については、『久能山誌』（静岡市、二〇一六）第二部第一編第一章（大高康正氏執筆）を参照。
- (21) 『静岡県史 中世三』一九四二号（久能寺文書）。
- (22) 『古文書①』翻刻編中世A富知六所浅間神社文書十三号。東泉院中世文書一〇号。
- (23) 『古文書①』翻刻編中世A富知六所浅間神社文書十四号、東泉院中世文書十一号。
- (24) 『古文書①』翻刻編中世A東泉院中世文書九号。
- (25) 前掲註7『古文書①』本編中世解説（前田利久氏執筆）。
- (26) 『静岡県史 中世四』一七八〇号（葛山文書）。前掲註12大高論文参照。
- (27) 『古文書①』翻刻編中世A富知六所浅間神社文書二四号。『古文書②』目録編A1・三号。菊池邦彦『富士山東泉院朱印領の成立事情』（『六所家総合調査だより』第七号 富士市立博物館、二〇一〇）、『古文書①』本編近世解説（菊池邦彦氏執筆）。
- (28) 『古文書①』翻刻編近世C近世初期文書二五号、『古文書②』目録編A1・四号。
- (29) 『古文書①』翻刻編中世A富知六所浅間神社文書二六号。
- (30) 久保田昌希『戦国大名の交替と寺社―今川から武田へ―』（『戦国武将と城 小和田哲男先生古稀記念論集』サンライズ出版、二〇一四）。
- (31) 前掲註20『久能山誌』第二部第一編第二章（湯之上隆氏執筆）。

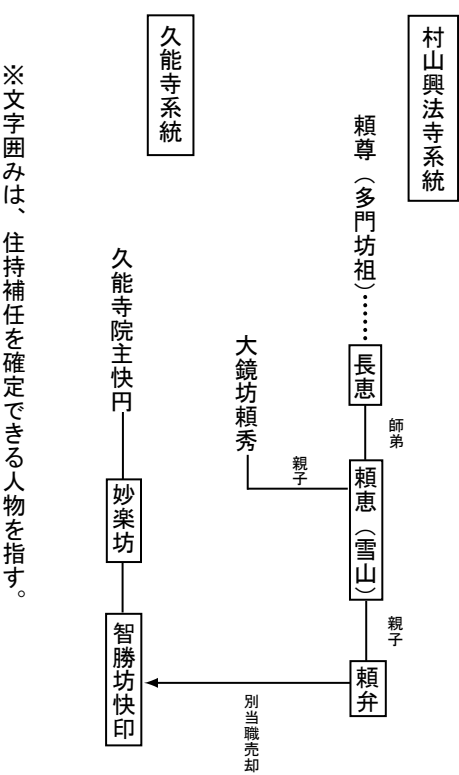


図1 快印以前の東泉院住持(別当)の変遷と関係図

なら、十七世紀以前まで、基本的に村山の富士山興法寺出身者の間で継承してきた東泉院の住持職が、久能寺出身の快印以降には、駿河国内外の真言系寺院出身の僧侶が就任するように変化しているからである。このことは、東泉院が久能寺とのつながりを梃子に各地の真言寺院との結びつきを強め、より上位の立場にある有力真言寺院から住持を招き入れるようになったことを示していると思われる。十七世紀初頭、東泉院住持職は、久能寺出身の快印の就任を契機に、中央の有力な真言寺院出身の僧侶が就任する役職へと格上げされることになったのである。

十四世紀に活動した頼尊が、東泉院と須津八幡宮別当多門坊の創建に関わったと伝えられているように、本来、東泉院・須津八幡宮別当多門坊はともに村山修験の拠点であった。しかし江戸期の歴史的展開を比較すると、東泉院の隆盛ぶりは歴然としている。このような差異が生じた要因は複数考えられるが、その一因として東泉院が武田支配時代に久能寺の末寺となり、修験道の一拠点から真言寺院へと、その性格が転化したことが挙げられるであろう。以上のことから、武田支配時代の約十四年間は、東泉院の歴史全体のなかでは僅かな期間ではあるものの、後年の東泉院の展開を方向づけたという点で、東泉院の歴史上、極めて重要な画期となる時期として評価することができるのである。

表1 快印以前の東泉院住持一覧

時期区分	名前	別称	活動年代(西暦)	出身地	備考
創建期	金護	—	—	—	開闢の祖、実在?
	妙行	—	—	中華	実在?
鎌倉期	頼尊	—	1317 ~ 1319カ	村山	富士山本宮浅間大社大宮司富士直時の従弟。 村山三坊に所属・須津八幡宮別当多門坊の始祖。
今川支配期	長恵	先師東泉院長恵	—	村山カ	頼恵の師。
	頼恵	雪山・大納言	1537 ~ 1571	村山	父親は村山大鏡坊頼秀。
	(頼秀)	—	1546	村山カ	別当代。頼恵の父大鏡坊頼秀と同一人物か否かは不明。
武田支配期	(快円)	久能寺院主	1570 ~ 1575	久能寺	今川方住持頼恵と並存。
	妙楽坊	東泉院当住妙楽坊	—	久能寺	—
徳川支配期	頼恵	雪山・大納言	1582 ~ 1591	村山	—
豊臣支配期	頼弁	東泉院長仁・大納言	1591 ~ 1600	村山	頼恵の子。
江戸初期	快印	久能寺智勝坊	1600 ~ 1624	久能寺	—

※頼秀・快円は住持(別当)ではないが、史料から東泉院関係者として名前を確認できることから掲載。
活動年代は史料上から確認できる年代。妙楽坊と徳川支配期の頼恵の間の空白期間は史料で確認できない時期である。

月二十八日まで相模國小田原に滞在し、翌年正月に遠江国浜松の徳川家康のもとへ参上したという。ここでの「東泉院」とは、同史料上に今川氏の使者として越後国へ赴いた件の記述があり、「頼恵」を指すと思われる。このように駿河国の戦国大名が武田氏から徳川氏へと交替したのを契機に、頼恵は徳川家康に近づき、天正十三年（一五八五）には東泉院の支配権を回復させていたのである。

（5）頼弁・長仁・大納言

「貞享二年（一六八五）以前」東泉院由緒書」や「富士五社惣別当東泉院代々住持帳」などの近世住持帳には、その時期は記されていないものの、頼恵が息子の「大納言」（頼弁）に住持職を譲渡したとする記述がある。しかし、これはあくまでも後世の伝承であるため、その内容を鵜呑みすることはできない。

一方で、同時代史料上での頼弁の初見は、「天正十九年（一五九一）閏正月二日稲葉重執書状」である⁽²⁷⁾。当書状では、頼恵が上洛し豊臣秀吉と謁見し、以前のように五社浅間社領が安堵されることになったことを「東泉院長仁」（頼弁）に伝えている。天正十九年当時、頼弁が東泉院住持として豊臣政権から確実に認識されていたのである。当文書で注目すべき点は、その前年の天正十八年（一五九〇）が小田原征伐によって北条氏が降伏し、豊臣秀吉が全国統一を達成した年にあたるという事実である。おそらく、頼恵は下方五社領と息子頼弁の東泉院住持の立場を安定的に確保するために、当時の政治動向を巧みにつかみ、全国統一が実現した時期に上洛し、豊臣秀吉との謁見を実現させたのであろう。

ところが、慶長五年（一六〇〇）二月二日、頼弁は父親が取り戻した「東泉院領五社之別当職」（東泉院住持職）を久能寺の院坊の一つ智勝坊（快印）に「八木（米）三拾壹石并金子六両」で売却する⁽²⁸⁾。さらに同年二月十五日には、当時駿河国を支配していた豊臣系大名中村一氏の家老横田村詮から東泉院領百九十石の支配を安堵する朱印状が智勝坊宛に発給されている⁽²⁹⁾。そ

れにより、武田支配時代の妙楽坊以来となる久能寺出身の東泉院住持が復活する。そして、その後は江戸期から明治維新期の廃寺まで、駿河建徳寺・江戸神田橋護持院・高野山などの有力な真言寺院出身の住持が続き、富士山興法寺から住持を再び迎えることはなかったのである。

むすびにかえて ― 武田支配時代の歴史的意義 ―

本稿では快印以前の東泉院住持の変遷を検討した。その結果、十四世紀の頼尊や十六世紀の長恵・頼恵・頼弁という村山修験の系譜をひく僧侶によって住持職が継承されてきたこと、一方で武田氏が駿河を支配していた一時期には、久能寺の妙楽坊が住持であったが、近世住持帳では省略されていることが明らかにした。その変遷と人的関係を末尾にまとめておく（図1・表1）。

十六世紀の駿河国では戦国大名が今川・武田・徳川・豊臣と推移するが、それに応じて、駿河国内の寺社は各大名から寺領安堵や諸役免除の文書を獲得する必要があった⁽³⁰⁾。東泉院もまた例外ではなく、戦国大名の交替という政治情勢の変化の影響を受けて、住持の交替を繰り返していたのである。

最後に、東泉院の歴史における武田支配時代の歴史的意義について私見を述べて、むすびにかえたい。

慶長五年、頼弁は東泉院住持職を久能寺智勝坊の快印に売却する。この行為は、久能寺の立場からみれば東泉院の買得であり、久能寺側の何らかの思惑があったことであろう。そして、頼弁と久能寺に所属する快印の間で東泉院の売買が実現したことは、決して偶然ではなく、武田支配時代に、久能寺妙楽坊が東泉院住持を務めた先例を意識したうえでの行為であったと考えられる。

久能寺は、院政期に鳥羽天皇の中宮待賢門院の出家に際して結縁書写された法華経十九卷（「国宝久能寺経」）が伝わり⁽³¹⁾、鎌倉期には京都東福寺を開山した円爾を輩出するなど、十二世紀以来、駿河国内でも屈指の有力寺院であった。それゆえ、東泉院にとって、武田氏の介入によって久能寺の末寺となったことは、十七世紀以降の東泉院の歴史展開において重要な意味を持つ。なぜ

である。

② 「元龜三年(一五七二)六月十日武田家朱印状」⁽²²⁾

これは、武田家が東泉院の所領などを安堵した朱印状で、元龜二年(一五七二)十二月に武田・北条の間で同盟(「甲相一和」)が結ばれ、駿河国が武田家の領国となったのを機に発給されたものである。その宛所には「東泉院当住妙楽坊」とある。また本文には「於于東泉院者、可為久能寺之末寺之旨、被相定候之条、可被存其旨候也」と記されている。このとき、東泉院は久能寺の末寺となっており、久能寺の院坊の一つ妙楽坊が東泉院住持を兼任していたのである。

③ 「天正三年(一五七五)二月二十一日武田勝頼判物」⁽²³⁾

天正元年(一五七三)に亡くなった武田信玄から家督を継いだ勝頼が、久能寺妙楽坊に東泉院領を安堵した判物である。本文に「駿州東泉院并寺産之事、云快円議、云先印判之文、被拘来条歴然之間、於自今以後も弥不可有相違候」という記述がある。「快円」とは先述したように久能寺院主のことである。ここから、快円が一時的に東泉院住持を兼任していた可能性があること、快円から妙楽坊へと久能寺内で東泉院住持職が譲渡されていたことの二点が窺える。

このように永禄十三年(一五七〇)から元龜三年(一五七二)の二年間に、東泉院は武田氏の介入によって久能寺の末寺となり、その支配下に置かれることになる。その結果、久能寺妙楽坊が東泉院住持を兼任することになったのである。

右の検討によって、近世住持帳には記載されていない武田支配時代の東泉院住持の動向を垣間見ることができた。それでは、なぜ近世住持帳では当該期の記述が欠落しているのだろうか。その要因を探るため、続いて武田氏の駿河侵攻後の頼惠の動向を検討してみたい。

(4) 武田支配時代の頼惠の動向とその後

永禄十一年の武田氏による駿河侵攻以降も、頼惠は今川氏に従属していた。先述のように、永禄十二年(一五六九)には、頼惠は今川氏真の使者として活

動していた。さらに今川氏真を庇護していた北条氏からも、「永禄十二年十一月十三日北条氏政判物」⁽²⁴⁾によって、敵である武田氏に通じることのない頼惠の今川氏に対する忠信を賞し、氏真が没落する以前と同様に東泉院領を安堵することを伝えられている。このように頼惠はその実態は別として、少なくとも今川氏・北条氏によって発給された文書の上では、武田氏の駿河侵攻後も一貫して東泉院住持の立場にあったのである。

一方で、前田利久氏は、元龜二年に駿河が武田氏の領国となったのを契機に、今川方の富士山本宮浅間大社の大宮司などが更迭されていることから、頼惠も東泉院住持を更迭された可能性を指摘されている⁽²⁵⁾。しかし、本稿では後述するように元龜二年以降も頼惠が活動しており、のちに頼惠の息子頼弁が東泉院住持となっている事実を重視したいと思う。その点を勘案すると、武田支配時代の東泉院には、従来の村山修驗の系譜を継承し今川方として活動する頼惠と、武田氏の介入によって新たに東泉院と本末関係を結ぶことになった久能寺に所属する妙楽坊の二つの系統の住持が並存するという特異な状況にあったといえる。

このように考えると、近世住持帳と現存する中世文書の内容に違いが生じている要因の説明が可能になる。すなわち、近世住持帳に、武田支配時代の武田方の住持快円・妙楽坊に関する記述が欠落していることは、その執筆者が武田支配時代も含めて頼惠を正統な住持として認識していたことを示しており、それゆえに快円・妙楽坊は省略されることになったのであろう。近世住持帳は、東泉院によって情報を取捨選択しながら作成されたものであり、必ずしも正確な史実の叙述を意図したものではない。

天正一〇年(一五八二)三月に武田氏が滅亡すると、駿河国は徳川氏の領国となり、その支配は天正十八年(一五九〇)の徳川家康の関東転封まで続く。当該期における東泉院の動向は、富士山村山興法寺辻之坊の支配権をめぐつて、葛山与右兵衛尉と東泉院が徳川家康のもとで相論した際に提出された「(天正十三年)四月二十七日葛山与右兵衛尉陳状案」⁽²⁶⁾から窺える。それによると、「東泉院」は天正一〇年の春には駿河国におり、同年六月十二日から十二

て確認できる⁽¹²⁾。

一方で、頼秀と頼恵を父子ではなく、兄弟として伝える史料も存在する。東京大学史料編纂所謄写本「葛山系譜」では、「雪山」(＝頼恵)を頼秀の弟としている⁽¹³⁾。しかし当史料は後世に作成されたと考えられる記録であることから⁽¹⁴⁾、頼恵と同時代に作成された中世文書と比べ、その内容の信憑性は低いように思われる。やはり頼秀・頼恵は、兄弟ではなく親子と考えるべきであろう。

② 「富士山大縁起」の発見と書写

天文十五年(一五四六)、「富士愛鷹両山惣別当権大僧都頼恵」は「別当代頼秀」とともに東泉院内の五大尊の宮殿で縁起本を発見し、永禄三年(一五六〇)に「富士山大縁起」として書写している⁽¹⁵⁾。なお「別当代頼秀」については不詳である。

③ 今川氏真の使者としての活動

「永禄十二年(一五六九)五月二十一日今川氏真判物」⁽¹⁶⁾によると、今川氏真は使者として越後国へ赴いたことの恩賞として、「東泉院」すなわち当時の住持頼恵に「(村山)辻坊分葛山采女正跡職一円」と「室六道之関」を与えている。このことから、今川氏真と頼恵の間に強い信頼関係があったことが窺える。

この判物で注目すべき点は、永禄十二年五月二十一日という発給された日付である。なぜなら今川氏真は、その前年から武田晴信(＝信玄)によって駿府を攻められ遠江懸川城に籠城することになり、さらに徳川家康の遠江侵攻を受けて、翌年の永禄十二年五月六日には懸川城を開城し、北条氏の庇護下に入っていたからである。この一連の経過によって、戦国大名としての今川氏が滅亡したとする見解もある。しかし、実際には永禄十二年(一五六九)五月六日から元亀二年(一五七二)十二月の北条氏政と武田晴信の間で同盟(＝「甲相一和」)が結ばれ、氏真が北条氏のもとから放逐されるまでの約二年間、氏真は寺社や家臣に対し安堵や所領宛行の文書を発給していたのである⁽¹⁷⁾。したがってこの判物は、氏真が北条氏の庇護下に入った直後の今川氏と東泉院住持

頼恵の関係を示す貴重な事例の一つといえる。

今川氏真は、永禄十二年以前から武田対策として武田氏と対立する越後の上杉謙信と頻繁に使を通じて交流していた⁽¹⁸⁾。そして、頼恵もまた使者として今川氏の政治・渉外活動の一翼を担っていたのである。

こうした頼恵と今川氏の結びつきは、東泉院が駿河国内で活動するうえで有利に働いていたに違いない。しかし、それは戦国大名今川氏の領国支配が安定していることを前提にするものであった。それゆえ、今川氏真が北条氏の庇護下に入った永禄十二年五月を境に、頼恵の東泉院住持としての立場も揺らぐことになるのである。

(3) 久能寺快円・妙楽坊 ― 武田支配時代 ―

「はじめ」に述べたように東泉院に関連する中世文書と近世住持帳の内容を比較すると、近世住持帳の大きな特徴が判明する。その特徴とは、近世住持帳には、戦国大名武田氏による駿河支配時代(以下、「武田支配時代」と表記)、すなわち永禄十一年(一五六八)十二月から天正一〇年(一五八二)三月までの期間の記述が欠落している点である⁽¹⁹⁾。

武田支配時代の東泉院の様子を伝える史料は、次の三点である。

① 「永禄十三年(一五七〇)一月二十八日武田晴信書状」⁽²⁰⁾

このなかで、当時駿河に侵攻していた武田晴信は、「重而可有補任富士六所之別当職候」と述べて、東泉院が支配していた下方五社の一つ富知六所浅間神社の別当職の補任権を駿河国久能山の久能寺に与えることを伝えている。その宛所には「久能寺几下」としか記されていないが、天文十八年(一五四九)九月十日に発給された久能寺院主御坊宛の「今川義元判物」⁽²¹⁾に「当院主快円」とあることなどから、①の書状は久能寺院主快円に宛てたものと考えられる。ただし、この書状から判明するのは富知六所浅間神社別当職の補任権が快円に与えられた事実のみであり、これを唯一の根拠にして久能寺快円が東泉院住持となったと判断することはできない。この書状から確実に指摘できるのは、永禄十三年に武田氏の介入によって、東泉院が久能寺の影響下に入ったという点

では、この認識はいつまで遡ることができるのであろうか。Aで引用されている「富士山大縁起」は、東泉院には複数伝来しており、そのうち最も古いのが、永禄三年(一五六〇)十一月に「富士愛鷹両山惣別当権大僧都頼惠」によって書写された「富士山大縁起」である⁽⁴⁾。そこに金護上人から妙行への相伝の記述がみえることから、十六世紀後半には既に東泉院創建に関する一定の認識が成立しており、近世以降も引き継がれていったことが窺える。

とはいえ縁起資料の性格上、その記述の全てが史実とは限らないし、「金護・妙行」についても他の史料から確認できない⁽⁵⁾。しかし東泉院の前身である浄土院を継承したとされる頼尊については、十九世紀に執筆された地誌『駿河国新風土記』のなかで紹介されている⁽⁶⁾。それによると、頼尊が富士山本宮浅間大社の大宮司富士直時の従弟であること、また文保年間(一一三一七～一九)に活動した村山三坊(＝村山修験の拠点富士山興法寺を管理する大鏡坊・池西坊・辻之坊の総称)に所属する山伏であったことが伝えられている。ここから、頼尊は金護や妙行とは異なり、実在した可能性が高い人物といえそうである。さらに、頼尊は東泉院の関係者としてだけではなく、富士市中里にあった須津八幡宮別当多門坊の開祖としても伝えられている。したがって、十四世紀初頭に、村山三坊を拠点とする山伏頼尊が、東泉院や多門坊の創建にあたって何らかの形で関わっていたとみるのが妥当であろう。

二 十六世紀の東泉院住持

十四世紀の頼尊から十六世紀の雪山こと頼惠までの約二百年間の東泉院住持は、同時代史料がなく具体的なことは不明である。しかし十六世紀の頼惠前後の代から快印までの東泉院住持の変遷は、『六所家総合調査報告書 古文書①』掲載の中世文書によって断片的ではあるが追うことができる⁽⁷⁾。

(1) 長惠

「天文十六年(一五四七)八月十九日今川義元判物」⁽⁸⁾にみえる「以師^{てうし}先東

泉院長惠由緒、五社別当職所宛行」という記述から「東泉院長惠」の存在が確認できる。この判物は、頼惠のことを指すと考えられる「大納言」宛に下方五社別当職を安堵したものである。したがって頼惠と長惠の間には、「長惠(師)―頼惠(弟子)」という師弟関係があったことが推測できる。このことは、両者の名前に共通して「惠」という字がみえることから裏付けられる。しかし長惠について判明するのは、頼惠の師であり下方五社別当であったと考えられることのみで、それ以外のことは不詳である。

(2) 雪山＝頼惠・大納言

雪山こと頼惠は、「東泉院代々先師出処等」に「当院一代雪山当国村山之人」、また「中古以来代々霊簿」⁽⁹⁾には「中興大納言入道雪山」と記されるなど、近世の東泉院のなかで中興の祖として重要視されている。以下、その出自と活動を関連史料から検討していきたい。

① 出自

A「永禄元年(一五五八)十二月十七日今川氏真朱印状」⁽¹⁰⁾に「一乱前後為荒野之処、東泉院父大鏡坊切発」とあり、天文六年(一五三七)に起きた河東一乱前後に「東泉院父大鏡坊」という人物が存在したことがわかる。さらにB「永禄二年(一五五九)四月十四日今川氏真判物」⁽¹¹⁾には、「去巳年増分、可為如父頼秀時事」や「親子無二忠節」などの記述がある。A・Bの記述を総合すると、「東泉院父大鏡坊頼秀」の存在が明らかになる。

そして、A・Bの宛所の「東泉院」とは、永禄三年(一五六〇)に「富士山大縁起」が頼惠によって書写されていることから、頼惠のことを指しているといえる。すると、大鏡坊頼秀と東泉院住持頼惠の関係は、「大鏡坊頼秀(父)―頼惠(子)」と考えられるであろう。「大鏡坊」とは富士山興法寺を管理していた村山三坊の一つであることから、村山三坊と縁の深い頼尊・頼秀・頼惠、さらに後述する頼弁の四名が東泉院住持や関係者であったことがわかる。以上のことから、既に指摘されているように、十四世紀から十六世紀の東泉院が村山修験の拠点である富士山興法寺の勢力下にある修験寺院であったことが改め

快印以前の東泉院住持の変遷

― 武田氏の駿河支配の影響 ―

山本 倫弘

はじめに

富士市教育委員会は、平成二十七年に『六所家総合調査報告書 古文書②』（以下、『古文書②』と表記）を刊行した。『古文書②』では、戦国期の雪山と頼恵から江戸末期の薬雄までの東泉院歴代住持二十一名の経歴と事跡をまとめた「富士山東泉院歴代住持一覧表」を掲載している。この一覧表は、主に「東泉院代々先師出処等」、「東泉院代々記録」、「富士五社惣別当東泉院代々住持帳」などの近世に作成された住持帳（以下、近世住持帳と総称）を参照してまとめられたものである⁽¹⁾。これらの近世住持帳は、その内容がほぼ共通していることから、「東泉院代々記録」には東泉院住持光盛と隠居圖成の署名がみえることから、当時の東泉院による公式見解を提示したものといえるであろう。ところが、東泉院に関連する中世文書や近世の由緒書を仔細にみると、快印以前、特に十六世紀の東泉院住持の変遷が近世住持帳の記述とは大きく異なることに気づく。そこで、本稿では「富士山東泉院歴代住持一覧表」の補論として、快印以前の東泉院住持の変遷を検討する。それにより、近世東泉院の公式見解とは異なる十六世紀における東泉院の実態を明らかにすることを試みたい。

なお、東泉院は駿河国富士郡下方の浅間五社（富知六所浅間神社・日吉浅間神社・入山瀬浅間神社・今宮浅間神社・滝川神社）を管理する別当寺であったことから、東泉院住持は「下方五社別当職」とも呼ばれていた。したがって、本稿では「東泉院住持Ⅱ下方五社別当」という認識を前提にしていることを最初に断りしておく。

一 由緒書にみる東泉院の開祖と頼尊

まず、近世に作成された由緒書に記されている東泉院創建期の住持の変遷をみてみたい。以下に史料を掲げる。

A 圖成・光盛執筆「宝永七年（一七一〇）東泉院代々記録」⁽²⁾

（前略）当寺富士山大縁起云、般若山南脚下建立浄土院、奉安置五智諸尊、堂僧新山五社惣別当妙行ニ此文相伝云云、

爾者富士山縁起者、自金讞上人妙行工相伝スト見エタリ、当寺最初名浄土院歟、又以妙行為開基歟、未決具見縁起矣、

一当寺本尊五大尊者、承和年中嵯峨天皇御寄附云云、富士・愛鷹両山惣別当代々相伝、自妙行頼尊大僧正工相伝スト見エタリ、具縁起ニ見タリ、（以下略）

B 「文政四年（一八二一）〔東泉院由緒書〕」⁽³⁾

富士山東泉院興法寺ハ者、最初号ス「浄土院ト」也、開闢ノ之祖ハ者、金讞上人ナリ也、相統テノ妙行ハ從リニ中華「来朝ノ之僧ナリ也、属ニ席ヲ於頼尊ニ」、而シテ復タ歸ルトニ中華ニ云云（以下略）

右の史料には、東泉院が当初「浄土院」という寺号で「金讞上人」によって創建され、その後、金讞から中国大陸出身の「妙行」、さらに「頼尊」へと相伝されたことが記されている。このように近世の由緒書のなかでは「金讞↓妙行↓頼尊」という開祖から三代までの東泉院住持の変遷の認識があったようである。

堀尾光太郎	
植村巖一	
小田□彦	
堀尾郁治	
西井小一	
別当純吉	
正木留吉	
大西□□	
昭和拾七年七月二十四日参詣	【二四四】
計二十一名	
下向日待当番	小田 直(イ組)
(七月廿九日)	
" "	山本一郎(ロ組)
定式祭礼宿本当番	大西善郎(イ)
(昭和十八年四月二日)	
全	川口甚一(ロ)
(兩名共十九年)	杉浦清也(イ) 大西守(ロ)
昭和二十年	正木欽一(イ)
四月二日宿本二軒	別當 博(ロ)
昭和二十一年四月二日	小田保一(イ)
宿本二軒	川口徳三(ロ)
昭和二十二年四月二日宿本岩田一夫宅ト共ニ	
正木俊一(ロ)	
昭和二十三年四月二日宿本植村誠一宅ト共ニ	
川口忠良(ロ)	
昭和二十二年四月二日宿本正木俊一宅ト共ニ	
岩田一夫(イ)	
昭和二十三年四月二日宿本川口忠良宅ト共ニ	
植村誠一(イ)	
昭和二十四年四月二日宿本山本勝三宅ト共ニ	
中村官一(ロ)	
昭和二十五年四月二日宿本岩田元男宅ト共ニ	
柳生勝敏(ロ)	
昭和二十四年四月二日宿本中村官市宅ト共ニ	
山本勝三(イ)	
昭和二十五年四月二日宿本柳生勝敏宅ト共ニ	
岩田元夫(イ)	
昭和二十六年四月二日宿本川口一弥宅ト共ニ	
岩田道夫(ロ)	
昭和二十七年四月二日宿本一軒 大西政千代	
(ロ)	正木倫三
昭和二十六年四月二日宿本岩田道夫宅ト共ニ	
川口一彌(イ)	
(白紙)	【二四五】
(白紙)	【裏表紙】

明治三十七年五月廿八日退社 明治三十七年五月廿八日退社 明治三十七年五月廿八日退社 明治卅一年下向日待当番済 卅一年五月十一日参詣 明治三十八年五月二十八日宿本 同日限退社 同上	橋本初太郎 岡村藤次郎 岩田市太郎 大西政楠 川面権右衛門 大西善次郎	全 全 明治参拾九年六月八日参詣 全年六月廿貳日 下向日待当番 死亡退社ス 宇治山田市へ轉籍 大正三年四月二日退社 滋賀縣移籍 大正三年四月二日退社 大正四年四月二日退社 全 大正五年四月二日退社 死亡退社 大正五年四月二日退社 大正六年四月二日退社 死亡退社 大正七年四月二日退社 以上	大西善蔵 西井長平 澤村西松 大西政太郎 間宮喜三郎 岡村藤三郎 小田□三 杉浦清一郎 小田吉平 村田松太郎 別當庄次兵衛 中村勘右衛門 橋本勝治朗 川口甚太郎 川口利市 小田與太郎 別當與十	大正八年四月二日退社 大正九年四月二日退社 全 大阪移住 大正十年四月二日退社 全 大正元年参詣 下向日待当番 全 北海道移住 大阪□留 北海道移住 死亡退社 北海道移住 死亡退社 大正六年参詣 下向日待当番 全	大西善七 中村辻楠 大西政一 正木安太郎 堀尾兵四郎 小田甚一 岩田市四郎 小田保太郎 小田久光 大西善三郎 大西文長 中村勘兵衛 別當與七 小田甚三 大西楠之助 正木楠之助 大西義平 澤村楠二 川口楠太郎 植村房生 鈴木楠三 山本嘉一 正木虎一	大正十五年四月二日退社 全 昭和二年四月二日退社 全 昭和参年四月貳日退社 全 昭和四年四月二日退社 全 在北海道 大正十四年七月二十一日参詣 下向日待当番 全 昭和五年四月二日退社 横輪 昭和六年四月貳日退社 昭和六年四月貳日退社 昭和六年四月貳日退社 昭和七年四月貳日退社 昭和七年四月貳日退社 昭和八年四月二日退社 昭和五年四月二日退社 昭和八年四月二日退社 昭和七年七月廿四日参詣 下向日待当番 全	大西政信 西井祐吉 大西善密 小田喜代三 岩田茂一 小田秘蔵 中村寛也 岩田謙一 小田稔 植村貞雄 中村清三郎 正木梅太郎 小田楠雄 西山吉二郎 川口勇夫 別當正夫 大西庫司 正木楠行 川口正彦 川口弥一 中島一角 中島一生 別當喜志夫 大西善志 川面権衛 橋本又司 西井幸之助 西井隆
明治四十二年四月二日退社 明治四十三年四月二日退社 明治四拾四年四月二日退社 三十八年三月死亡 明治四拾四年四月二日退社 明治四拾五年四月二日退社 退社	正木柎治郎 川口市三郎 小田宮市 吉田九一 川面耀平 上村□之	明治四拾参年参詣 下向日待当番 全 北海道移住死亡 大正七年四月二日退社 北海道移住 死亡 大正八年四月二日退社 北海道移住	【二三九】 大西□八 堀尾清右衛門 山本楠平 正木楠三 澤村西一 大西善四郎 中村庄一 大西政五郎	大正九年参詣 下向日待当番 全 在北海道 全	【二四一】 西井喜美夫 川口利良 正木楠蔵 大西善雄	【二四二】 大正十四年七月二十一日参詣 下向日待当番 全 昭和五年四月二日退社 横輪 昭和六年四月貳日退社 昭和六年四月貳日退社 昭和六年四月貳日退社 昭和七年四月貳日退社 昭和七年四月貳日退社 昭和八年四月二日退社 昭和五年四月二日退社 昭和八年四月二日退社 昭和七年七月廿四日参詣 下向日待当番 全	大西政信 西井祐吉 大西善密 小田喜代三 岩田茂一 小田秘蔵 中村寛也 岩田謙一 小田稔 植村貞雄 中村清三郎 正木梅太郎 小田楠雄 西山吉二郎 川口勇夫 別當正夫 大西庫司 正木楠行 川口正彦 川口弥一 中島一角 中島一生 別當喜志夫 大西善志 川面権衛 橋本又司 西井幸之助 西井隆
大正式年四月二日退社	【三八】 小田楠治郎					【二四三】	

衣ヲ着シ後外道迄見
送ノ事
二、山差ノ三日前ヨリ垢離
ヲ取り山差ノ日ニ白衣ヲ着ケ当番ノ
家へ早朝集マリ夫ヨリ
先達ノ家へ行事
但シ初日ニハ未明竹垢離ヲ
トル事
三、飯宅ノ日ニハ古山一同頭垢離
ヲナシ当番ノ家へ集リ御
酒ヲナシ木谷峠迄勤迎ニ
酒ヲ持チテ至リ内翌年ノ当
番ノ者二人貝太鼓ヲ持チテ
泉区迄出迎ノ事
【一二八】
飯宅ノ日ニハ新山古山共直ニ
浅間山へ詣テ御勉ヲナシ
跳リヲ済シ下向シ楠宮へ
参リ産神へ詣リ鳥居
ノ前ニテ新山計リ跳ル事
此日新山ノ内ヨリ相当ナル者ヲ
撰シ浅間山ヨリ御寺へ飯宅ノ
挨拶ヲナス事
五
其翌々日ヨリ三日間垢
離ヲナシ五月晦日ノ通
リニナスベシ
但シ初日ニハ未明升垢
離ヲナスベシ
右ノ通り新山へ
言ヒ渡スベシ
旧列儀定
一 富士山ニ参詣シ節御下向
之節ハ古山ヲ御酒代割合

□向致ベシ
一下向日待之儀定
一下向日待之御酒代ハ古山ニ
漸ク□□□以上
右之箇条社員
タル者堅ク相
守ルベキ事
當番 橋本楠治郎
鈴木楠太郎
起之
但シ酒代□□之儀ハ
當番ヲ除クトス
追加條令
山差ノ跳リ初メハ先
達ヲ問ハズ其ノ年下
向日待ヲ為スモノヨリ
門順ニナスモノトス
中村関之ゝ
小田久治郎
【一二九】
【一三〇】
（白紙）
當講社江獻贈記
明治廿九年五月十五日寄獻ス
一 什具函一個小田麦一
但シ蓋附
【一三一】
（白紙）
【一三二】

富士講社署名
新人者ハ其都度餘白ヲ遂テ
署名シ現在講社員ハ宿本當番ヲ
終リタル時其退社ノ年次ヲ本人姓名
ノ上ニ記入スベシ
但シ家計上ノ都合其他ノ事故
ニヨリ退社ノ承認ヲ得タル者ハ其
事由及年月日ヲ本人ノ姓名ノ上ニ
記入致置ベシ
明治廿八年現在講社人名
明治廿八年五月十六日退社
全 西井楠平
全 小田典之助
全 大西楠蔵
全 正木安吉
明治廿一年下向日待宿本
當番済全廿八年五月
十六日退社ス
全 川口勇蔵
全 中村勘一
明治廿九年六月一日
退社 川面楠太郎
【一三四】
明治二十九年六月一日退社
全上 大西善三郎
全上 川口楠吉
全上 中村勘松
明治三十拾年六月一日退社
全上 植村源七
全上 小田楠吉
全上 西井喜十郎
明治廿五年下向日待宿本當番済
明治三十拾年六月一日退社 大西文太郎
明治三十拾年六月一日退社 大西楠吉
明治卅一年五月二十八日退社 橋本文次郎

明治卅二年六月一日退社 正木楠吉
明治卅二年六月一日退社 川面楠次郎
明治卅一年六月一日退社 鈴木楠太郎
明治卅二年六月一日退社 小田義作
明治卅二年六月一日退社 小田彦市
明治卅二年六月一日退社
明治参拾参年六月一日退社
全 大西善之助
明治卅二年六月一日退社 澤村清太郎
全 大西楠太郎
全 正木庄造
明治廿九年六月死亡時退社 小田警三郎
明治廿八年下向日待宿本當番済 大西文一
全三十三年六月一日退社 小田楠吾
全 小田重平
岩田楠拾
小田久次郎
正木庄六
中村勘之
山本與三郎
西井楠次郎
明治卅参年六月一日退社
明治卅年十二月死亡
明治卅八年十一月死亡ニ付退社
明治三十三年五月死亡ニ付退社
【一三六】
西尾楠太郎
岡村楠吉
正木楠蔵
西井德平
小田英太郎
澤村清松
山本新太郎
大西善松

一、前年度ノ集米ハ之ヲ賣拂
ヒ其代金ヲ以テ出征軍人
ヘ餞別トス
右節約ノ主旨
當時日露斷交ノ結果

【二一九】

遂ニ干戈ニ訴フルノ止ムヲ
得ザル至リタレバ當區總
會ニ於テハ冗費ヲ節シ國債ニ
應ゼンガ為メ諸種ノ會食ヲ
全廢スルノ規定成立セリ本社
モ又滋ニ見ルアリテ右等ノ更正
ヲ行ヒタルモノナリ

宿本當番 岩田市太郎
岡村藤次郎

明治三十七年五月廿八日訂正追加
一、明治三十七年一月十三日定約シタル
二十八日ニ於ケル各自五合宛持チ
寄リノ件ヲ各自六合持チ
寄リ昼飯晚餐ノ二回ニ訂
正ス但シ其他ノ費用ハ最モ
節約ヲトシテ宿本ノ負擔
タルベシ（昼飯雜飯晚餐白飯味
噌汁鮎）平ハ無シ

一、御幣料ヲ以テ社殿造
榮費トシテ積立フルベシ
一、御酒代ハ各自分擔スルベシ
一、積立金管理者ハ講社長
ノ責任トシテ毎年後任
者ヘ譲リ渡スベシ

【二二〇】

右協定ス

宿本 岩田市太郎
岡部藤次郎

（白紙）

【二二一】

明治卅一年五月
三十日

富士講社
掟箇條覺

第一條 四月晦日ニハ必ズ
山飾ヲナス事

飾方 御幣竹五本女竹
六本 内女竹ヨリ御幣竹ヲ
長クスベシ

第二條 五月一日ニハ未
明ニ必ズ竹垢離ヲ取
ル事

第參条 五月十五日ニハ
古山共未明ニ竹垢
離ヲ取り八時ヨリ宿
本ヘ集マル事 但使さシ
第四條 五月廿四日ニハ
例ノ通り未明ニ竹
垢離ヲ取り其日ヨリ

【二二二】

【二二三】

【二二四】

廿八日迄ハ一層品行
ヲ方正シ一切肥料
等ノ荷擔ヲ嚴禁ス

但シ石灰干鰯ヲモ禁ズ
第五條 五月廿八日ニハ
八時ノ使ヲ待チテ至
急宿本ヘ集ル事
但シ携帯品ヲ禁ズ

第六條 五月晦日ニハ
全ジク八時ノ使ニ次イデ
宿本ヘ集ル事

但午後六時山揚ケヲ
ナス事

第七條 山揚濟次第
御勉メヲナシ又夜半ニモ
御勉ヲナシ御影ヲ収メ夜食ナシ
社長ノ品行ノ言渡ヲ
受ケ淨々ナル寐室ヘ

【二二五】

販ル事

第八條

行狀ノ事

第一項

荷棒干物竿潜ル事ヲ
禁ズ

珠々ヲ掛ケテ小便ヲナス事勿レ
街道ヲ跣足ニテ歩行スル勿レ
但田道畔道等ハ此限りニアラズ
裸体ニテ棒ヲ荷ヒ又ハ垢離
ヲ取りニ行ク事勿レ
行中ハ浴スル事一切禁ズ
又理髮スル事勿レ 但シ人ノヲモ
ナスベカラズ

爪モ切ルベカラズ
肩モ組ムベカラズ
敷筵ハ必ズ淨々ナルモ用

ユベシ
行中ニ他行ヲナス時ハ

代人ヲ立ツベシ

【二二六】

但シ三度ヲ一度ニ取ルベカラズ
寐ルニハ□度垢離手拭ヲ敷
キテ頭ヲ置クベシ

履物ハ漫リニ女子ノ物ヲ
穿ツベカラズ

他行スルトキ又ハ夜中他出
スルトキニモ珠々ヲ掛ケテ
出スベシ

御幣竹ハ未止十年子瘤
竹一年子等ヲ用フベカラズ
御幣ハ必ズ切りハヤス損シヲ
成スベカラズ

但シ御幣ヲ斷ツハヤス中ハ一同
静肅ニスベシ

又幣斷ハヤス人ハ妻ノ懷胎月經
シタル夫ハナスベカラズ又重
子テ二度斷ツベカラズ

御幣竹ハ三枝殘シ末二枝
ヲ払ヒ束ヲ切り括ツルベシ

【二二七】

道々哥ヲ歌フベカラズ

廿八日ニハ一切日傘ヲ禁ズ
又類冠ヲモナスベカラズ

晦日ニモ右ノ如シ

富士參詣ニ付古山
送迎掟覺

一、參詣ニ付発足スル日ハ當番
ノ物当日頭垢離ヲナシ白

ビール	三	二二五〇円
消費税		二二二八円
女中寸志		三〇〇〇円
合計		五参六七八円
残存会員名		
植村和則	堀尾兵蔵	
川口栄紀	植村房宏	
小田幸志	大西善吾	
堀尾泰功	大西大善	
積立外		
川口利幸	川面巖	
別当幸生	大西永晃	
川口潮(積立貯金外)		

第参拾回富士講定例
祭礼
【二一三】

平成拾八年二月二十六日	
現在の会員	
別当幸生	植村房宏
大西大善	小田幸志
川口栄紀	川口利幸
大西善吾	堀尾兵蔵
川面巖	植村和則
本年の参加者	
植村房広	大西大善
小田幸志	川口栄紀
川口利幸	大西善吾
堀尾兵蔵	大西永晃
午後五時半楠の宮参拝	
六時より浜島松阪屋にて	
宴会懇親会	
宴会費	六八八八〇円
楠の宮玉串料	一〇〇〇〇円

女中寸志	参〇〇〇円
合計	八一八八〇円
清酒一本寄付	
堀尾兵蔵	

第参拾一回富士講
定例祭礼(日待)
【二一四】

平成十九年二月二十五日	
当番宿本	
大西大善	小田幸志
現在の会員	
大西大善	小田幸志
植村房広	川口栄紀
川面巖	川口利幸
植村和則	堀尾兵蔵
本年の出席者	
川口栄紀	小田幸志
川口利幸	植村房広
大西大善	川面巖
堀尾兵蔵	川口潮
小田多美子	川口あけみ
大西美恵子	川面千蔵
午後五時参〇分	
楠の宮参拝六時より	
浜島石亭に於て	
日待宴会	
宴会(懇親会)	
経費	九万七千三〇〇円也
宴会	
楠の宮玉串料	一万円
合計	拾万七千参百円

【二一五】

精酒各一本寄付	
大西永晃	大西大善
平成二十年の宿本当番	
川口栄紀	植村房廣

第参〇二回富士講
定例祭礼 日待
【二一六】

平成二十年二月二十四日	
当番宿本	川口栄紀
植村房廣	
現在の会員	
大西大善	小田幸志
植村房広	川口栄紀
川面巖	川口利幸
植村和則	堀尾兵蔵
川口潮(鳥羽在住積立預金加入外)	
本年の参加者	
男九名 女四名 計十三名	
二月二十四日午後六時より	
浜島石亭にて日待宴会	
金一〇六五五〇円 石亭払	
二十一年当番	堀尾兵蔵
植村和則	
明治三十拾六年四月二十九日	
日改更	
第一條	新山ノ者ハ三ヶ年間 毎年五月十四ニ必ズ山 飾ヲナス事
第二條	五月十五日ニハ右新山 ノ者未明ニ必ズ□垢離 ヲナス事
第三條	五月十八日ニハ古山新

【二一七】

山合シ未明ニ□垢	
離ヲ取り午前八時ヨリ	
宿本へ集ル事	
(本日ヲ以テ總垢離ト曰トス)	
第四條	五月二十八日ニハ午前八 時ノ使ヲ受ケ直ニ二宿本 へ集ル事
第五條	五月晦日ニハ同ジク 午前八時ノ使ヲ受ケ直 ニ宿本へ集リ午後六 時ニハ山揚ヲナス事
第六條	同日山揚済次第宿 本へ挨拶ヲナシ除々帰 宅スルモノトス
從來ノ数珠ハ二ツ共廃止ノ	
事	

【二一八】

但シ山飾ハ一人毎ニ御幣竹	
二本ヲ立テ上ハ注連繩ニテ	
□リ下ハ女竹ニテ横ニ結び	
禪ヲ掛クルニ□ナル様ニナス	
モノトス	
当番	西井徳平 大西善松
山本新太郎 橋本初太郎	
明治三十七年旧一月十三日改正	
一、從來ノ慣行ヲ改メテ永久	
大節約ヲ行フ事	
節約ノ程度	
一、総垢離ハ從來之通	
一、并八日ハ一宿ニ付酒五合肴	
三献トス但シ米五合宛持寄トス	
一、下向宿ハ并八日ニ準ズ	

一、當日ノ御酒代ハ講員ノ負担トス
【二〇五】

但御酒ノ量ハ隨時之ヲ定ム

一、下向日待ハ飯宅ノ翌々日ニ行フ

一、當日ノ日待ハ定式祭礼ノ

日待ニ準シテ之ヲ行フ

但米酒肴代ハ新山ノ負擔トス

明治四十三年八月五日規定ス

一、定式祭礼當日ノ酒肴ハ

七献トス

一、本膳ハ寿シトス

但シ魚ナキトキハ赤飯トス

一、當日ハ午前拾時宿本ニ

参集シ氏神ニ参拝スルコト

右之通り定ム

昭和四年四月貳日

改訂
【二〇六】

一、定式祭礼（四月二日）

當日ノ酒肴ハ酒

五合ニ三献トス

一、本膳ハ夕食トシ「ゴ

モク飯」又ハ「スシ」

トス

砂糖三十匁ト

米五合携帯ノ上

一、當日ハ午後一時迄ニ

宿本ニ参集シ揃ッテ

神社ニ参拝スルコト

一、酒肴ヲ出ス時刻ハ

午後三時トシ本膳

（夕食）ハ午後七時トス

一、講員ハ講宿ヲ済マセテ

モ退講（社）スルコトナク新

山ノ出来ルマデ講員ト

シテ止マリ年々日待仕ヘマ

ツリ新山ノ出来タル時

宿ヲ済マセタル者ノミ退

講（社）スルコト
【二〇七】

付記 サトー代ハ宿本ヨリ支拂フコト

右ノ通り改ム

昭和十八年三月廿九日

第二十八回
【二〇八】

南張富士講定式祭礼

平成十六年二月二十九日

会場

国民年金保養センター

浜島

総員十六名内

拾十参名参加

伊勢神宮参拝者

七名

午前十一時五十五分楠

の宮前集合

十二時楠御前八柱神

社参拝年金センター

バスにて大西永晃

宮司の案内により

内宮正式参拝

内宮神楽殿にてお神

衆奉納

【二〇九】

おかげ横丁散策

五時半頃帰る

六時より

年金センターにて

日待懇親会を行う

宿本當番第一班

西井新之助

西井久三

堀尾泰功

川面巖

植村和則

伊勢神宮参拝者名

植村和則

堀尾兵蔵

川口栄紀

植村房広

小田幸志

大西善吾

【二一〇】

川面巖

会計 支出

センター支払 一〇六〇二五円

運転手謝礼 五〇〇〇円

女中謝礼 参〇〇〇円

神楽殿奉納 二〇〇〇〇円

楠の宮奉納 一〇〇〇〇円

清酒一本 一四〇〇円

合計 一四五四二五円

入金

会費堀尾泰功 八八三六円

大西永晃氏 一二〇〇〇円

平成十六年一年分

会費

賽銭 一二〇〇〇円

計 一二〇三六円

不足分は積立貯金より

補填する

平成十七年度は杉浦島

別当幸生 大西恭平

大西善吾 堀尾兵蔵

第二十九回

南張富士講定例祭礼

平成十七年二月二十日

総員十四名の内二名脱

会十二名の内参加者七名

杉浦島 川口栄紀

植村房宏 植村和則

川面巖 川口利幸

堀尾兵蔵

十二時楠の宮参拝

本年より国民年金

保養センター浜島閉鎖の

為浜島松阪屋旅館

にて行う

午後六時三〇分より

宴会親睦会を行う

【二一一】

経費

御供用酒 一八〇〇円

夕食事七人分 三八五〇〇円

酒 一〇 五八〇〇円

【二一二】

次当番	堀尾兵蔵
橋本梓組に 申送る	宮司 大西永晃
	會計 一三〇〇〇
	入金 二五一〇〇円 積立預金外二人
	宮司 一〇〇〇〇
	賽銭 二二〇〇
第二十六回	支出 一二六〇〇円 年金センター浜島
南張富士講定式祭礼	八二〇〇円 娛樂室
平成十四年二月二十四日	五〇〇〇円 運転手謝礼
会場 国民年金保養センターはまじま	三〇〇〇円 女中謝礼
総員 二十二名	一五〇〇〇円 神樂殿奉納
内参加者数 十六名	一〇〇〇〇円 楠の宮奉納
伊勢神宮参拝者 十名	支出金 一七六二〇〇円也
十二時三十分楠の宮参拝	
後年金センターのバスにて	
本年も宮司大西永晃	
氏の後案内により	
伊勢神宮両宮に正式	
参拝内宮にてお神舞	
楽をあげる後おはら	
い横丁を散策して午	
後六時頃帰	
六時参十分より日待	
懇親宴会を行う	
宿本当番 三班	
橋本梓 堀尾昌弘	
大西大善 川口利幸	
小田幸志	
伊勢神宮参拝者名	
西井新之助 杉浦島	
植村和則 川口栄紀	
植村公雄 植村房広	
小田幸志 川口利幸	

第二十七回	南張富士講定式祭礼
平成十五年三月二日日曜晴	会場
国民年金保養センターはまじま	総員 二十一名
内参加者十五名	伊勢神宮参拝者十一名
午前十一時五十五分楠御前	八桂神社前集合 十二時
参拝なり 十二時三十分	年金センターのバスにて
大西宮司の案内により	両宮参拝する
内宮にて正式参拝	内宮神樂殿にてお神
楽奉納おかげ横丁	散策して六時帰り
年金センターにて日待懇親	

会を行う	宿本當番第四班
	中村勘吾
	植村房廣
	川口栄紀
	中島保拾
	川口修一
伊勢神宮参拝者名	西井新之助 杉浦島
	植村公雄 植村房廣
	川口栄紀 小田幸志
	川口利幸 堀尾泰功
	堀尾昌弘 川面蔵
堀尾兵蔵	入金 二五二四〇円 積立貯金外二名
	二三八〇〇
	賽銭 一四四〇
支出 一六五三七七円	年金センター払 一二七三七七
	二〇〇〇〇
	神樂殿奉納 五〇〇〇
	運転手謝礼 一〇〇〇〇
	楠の宮お供 三〇〇〇
	女中寸志
本講更正規約	
一、本講定式祭禮ハ四月貳	
日ト改ム	
一、講員ハ當日午前拾時（白米	
六合携帯）講宿ヘ参集シ	
午夕二回ノ食事ヲナシ	
午前零時過マデ日待ヲナス	

一、講宿ハ各講員ヘ使ヲ廻ス	
コト	
一、當日ノ御酒ハ壹升トス	
但シ人員ノ多寡ニヨリ増減ス	
一、酒魚代ハ講宿ヲ除キ講	
員全体ノ負担トス	
明治参拾九年四月貳日ヨリ施行	
富士講員 印	
新山参詣送迎ニ関スル規定	
一、新山参詣出發ノ際ハ其年ノ當	
番ノ者村端マデ見送ル事	
一、下向飯宅ノ日ハ講員一同木谷	
峠マデ出迎フル事	
出迎ノ際ハ酒壹升ヲ携行シ	
木谷峠ニ於テ祝杯ヲ舉クルモノ	
トス	
但右酒代ハ古山ニ於テ分担ス	
一、新古山一同氏神ニ参拝ノ後	
解散ス	
山差及下向日待二関	
スル規定	
一、山差ノ當日ハ講員一同先達	
ノ宅ニ集合ノ上氏神ニ参拝シ	
日待ヲナスモノトス	
當日集合ハ午前十一時解散ハ	
午后十二時トス	
一、其年ノ當番及翌年ノ當番ニ	
相當スルモノハ講員ヲ代表シ換	
拶ノ為参詣者ノ留守宅ヲ廻	
ルモノトス	
一、當日参詣者ノ留守宅一同ヨリ	
晝食及夜食ヲ饗セラルモノトス	

宿元（第四班）	【九一】
中村勘吾	
植村房広	
川口栄紀	
中島保拾	
川口修一	
川口潮	
第二十回定式祭礼	【九二】
平成八年二月十八日	
会場 国民年金センター	
総員 二十四名	
出席者 十六名	
当日正午楠の宮に	
参拝会食は国民保養	
センターにて行い夜十二時	
まで公民館にて	
日待を行ふ	
礼供	
一、赤飯	
一、平	
一、なます	
当日の寄贈者	
西井新之助 清酒一本	
経費	
金一一八三二円	
宿本（第一班）	【九三】
西井新之助	
西井久三	
堀尾泰功	
植村和則	

山本長司	【九四】
川面巖	
昭和五十二年七月	
新山富士参りを	
行う	
第二十四回定式祭礼	
平成十二年参月十二日	
会場 国民年金保養センター	
総員 二十三名	
出席者 十六名	
当日正午楠の宮に	
参拝なし本年初	
めてのころみとして	
宮司大西永晃氏に	
お願いして伊勢神宮	
正式参拝すること	
なる	
十二時三十分国民年金	
センターのバスにて	
伊勢神宮に正式参拝	
神楽殿にて御神楽	
をあげおはらい横丁	
を少し散策す	
帰南後六時より	【九五】
年金センターに於て	
祭礼懇親宴会	
経費	
年金センター 一〇四〇四五円也	
運転手謝礼 五〇〇〇円也	
燃料 一〇〇〇〇円也	

合計 一一九〇四五円也	【九六】
伊勢神宮参拝者	
川口栄紀 植村房広	
堀尾昌弘 小田幸志	
中村勘吾 杉浦島	
西井新之助 堀尾泰功	
川口利幸 川面巖	
别当幸生 堀尾兵蔵	
当番宿本	
西井新之助 西井久三	
植村和則 堀尾泰功	
川面巖	
第二十五回南張	
富士講定式祭礼	
平成十三年二月二十五日	
総員 二十二名	
出席者 伊勢神宮	
参拝者 十二名	
夜宴会 十五名	
本年も宮司大西永晃氏の	
後案内により新築された	
外宮神楽殿にて神楽を	
奉納し両宮正式参拝	
をなしおはらい横丁	
を散策五時伊勢出発	
南張に帰る夜六時三十分	
宴会	
国民年金保養センターハマジマ	
バス往復運行費宴会費	
合計九万七千八百六拾五円	
伊勢神宮奉納 一万五千元	
運転手寸志 五千元	

楠の宮奉納 一〇〇〇〇円	【九七】
センタ女中寸志 五〇〇〇円	
酒外 一八五〇円	
合計 拾参万四千七百十五円	
伊勢神宮参拝者名	
西井新之助	
中村勘吾	
杉浦島	
橋本梓	
大西善吾	
川口栄紀	
植松公雄	
堀尾兵蔵	
小田幸志	
堀尾泰功	
川面巖	
川口拾生	
平成十三年当番氏名	
杉浦島 大西善吾	
别当幸生	
植村公雄	
大西恭平	
堀尾兵蔵	
経費の内積立貯金	【九八】
不加入者より徴収金	
参万参千六百二十四円	
賽銭 二千四百円	
計 参万六千二十四円也	
農協普通貯金に	
領入す	

会食はセンター浜島(夕食) 夜十二時までで公民館にて 日待を行ふ 礼供 一、赤飯 一、なます 一、つばかし 当日寄贈者 宿本よりウイスキー みかん他 宿本当番 中村勘吾 植村房広 川口栄紀 中島保拾 川口修一 川口潮 経費 壹拾萬五仟百六拾七円 賽銭 壹仟三百円	平成四年三月一日 【八四】 第十六回定式祭礼 会場 国民年金 保養センター 総員 二十四名 出席者 十七名 当日正午楠の宮に参拝 会食は(夕食)センターはまじま 後夜十二時までで公民館に 於て日待を取り行ふ 礼供 一、赤飯 一、味噌汁 一、平 一、なます 一、いちご 当日の寄贈者
---	---

堀尾兵蔵殿 清酒一本 堀尾泰功殿 清酒一本 経費 金 一〇二、五三五円 不足分宿本負担 宿本 西井新之助 西井久三 堀尾泰功 植村和則 山本長司 川面巖	第拾七回定式祭礼 平成五年二月二十八日 【八五】 会場 国民年金保養センター 総員 二十四名 出席 十九名 当日正午楠の宮に参拝 会食は夕食を 国民年金保養センター にて取行い夜十二時まで で公民館に於て日待を行う 礼供 一、赤飯 一、平 一、なます 当日寄贈者 西井新之助 ジュース 橋本梓 清酒 堀尾兵蔵 清酒
---	---

経費 金一〇八三〇〇円 不足分 貯金より補 宿元 杉浦 昶 別当幸生 植村公雄 大西恭平 大西善吾 堀尾兵蔵 平成六年宿元当番 橋本梓組に送る	第十八回定式祭礼 平成六年二月十六日 【八六】 会場 国民年金保養センター 総員 二十四名 出席 十九名 当日正午楠の宮に参拝 会食は夕食を国民センター にて取行い夜十二時 まで公民館に於て 日待を行ふ 礼供 一、赤飯 一、平 一、なます 当日の寄贈者 西井新之助 清酒一本 堀尾兵蔵 〃 経費
--	---

金一三三七六八円 不足分は宿本負担 宿元 橋本 梓 堀尾昌弘 大西大善 川口利幸 小田幸志 大西輝雄	第十九回定式祭礼 平成七年二月二十六日 【八七】 会場 国民年金保養センター 総員 二十四名 出席者 十七名 当日正午楠の宮に参拝 会食は夕食を 国民年金保養センター にて取行夜十二時 まで公民館にて 日待を行ふ 礼供 一、赤飯 一、平 一、なます 当日の寄贈者 西井新之助 清酒一本 経費 金一〇九八〇二円	【八八】 【八九】 【九〇】
--	---	----------------------

一、平	
二、なます	
三、味噌汁	
四、赤飯	
五、つば(かし)	
本膳献立(昼)	
一、刺身 六皿	
二、煮ヅ 六皿	
三、唐揚 六皿	
四、なます 六皿	
五、ぬた 六皿	
六、赤飯 六皿	
七、味噌汁	
夕食	
一、あじ押寿司	
二、五目飯	
三、吸い物	
当日寄贈者	
川口拾生殿 清酒一本	
堀尾兵蔵殿 清酒一本	
西井新之助殿 オレンジジュース二ケース	
川口潮殿 猪肉約1kg	
経費	
金 六一五四三円	
不足分宿本負担	
宿本	
西井新之助	
西井久三	
川口潮	
川面巖	
植村和則	
山本長司	

【七八】

賽銭 二二〇〇円	
日時平成元年参月十九日	
定式祭礼	
会場公民館	
出席者二十参名	
毎年参月一日祭行うも	
都合により本年は二月二十九日	
に行う	
当日正午楠の宮に参拝	
後公民館に於て日待	
を取行う	
礼供	
一、平	
一、なます	
一、味噌汁	
一、赤飯	
一、かし	
本膳献立 昼	
一、刺身 六皿	
一、煮ヅ //	
一、唐揚 //	
一、なます //	
一、ぬた //	
一、寿司 //	
一、赤飯 参升	
一、味噌汁	
夕食	
一、寿司・五目飯(各参升)	
一、吸物 一、かし	
当日寄贈者(お酒・ジュース)	

【七九】

【八〇】

西井新之助 橋本梓	
大西恭平 大西善吾	
川口 潮	
宿本当番	
杉浦 勘 别当幸生	
大西善吾 大西恭平	
植村公雄 堀尾兵蔵	
経費	
一、五萬宅阡八百圓	
不足分当番負担	
賽銭二千二百十圓十参百六十円	
平成二年二月二十九日	
定式祭礼	
会場公民館	
出席者 二十一名	
当日正午一同公民館に	
集合楠の宮に参拝後	
日待を取り行ふ	
礼供	
一、平	
一、なます	
一、味噌汁	
一、赤飯	
一、つばかし	
本膳献立 昼	
一、刺身 六皿	
一、煮ヅ 六皿	
一、唐揚 六皿	
一、ぬた 六皿	
一、寿司 六皿隻	
一、赤飯 三升	
一、味噌汁	

【八一】

夕食	
一、鰯手こねすし 三升	
一、五目飯 一升	
一、吸物他かし	
清酒五本 ビール九本 ウイスキー二本	
当日寄贈者	
文友會 清酒 二本	
西井新之助 清酒 一本	
宿本より ウイスキー一本	
宿本当番	
橋本梓 堀尾昌弘	
大西大善 川口利幸	
小田幸志 大西輝雄	
経費	
収入 五〇九四〇円	
支出 五〇九四二円	
賽銭 二千三百円	
協議事項	
来年度より諸種の事情	
を協議の結果、	
正午祭礼を行い会食は	
一回とし(夕食) 毎年の	
二月の最終日曜日に	
行ふ事	
平成三年二月二十四日	
第十五回定式祭礼	
会場 センター浜島	
総員 二十四名	
出席者 二十一名	
当日正午楠の宮に参拝	

【八二】

【八三】

会ヒ残金	三二〇〇円	
賽銭	二〇五〇円	
川口博生氏	五〇〇〇円	
右合計一〇二五〇円也を貯金		
口座に振込む		
以上		
昭和五十七年三月七日		
定式祭礼		【六五】
会場 公民館		
当日正楠の宮に参拝後		
直に公民館にて日待を		
行う午後十二時終了		
礼供		
一、 平		
二、 なます		
三、 味噌汁		
四、 赤飯		
本膳献立		
一、 刺身	六皿	
二、 煮ヅ	六	
三、 寒天	六	
四、 なます	六	
五、 めた	六	
六、 寿司	六	
七、 赤飯		
八、 味噌汁		
夕食		
押寿司		
五目飯		
酒魚代金		【六六】

金貳万参阡円也		
出席者 二十三名		
会費 一人当 壹阡円		
賽銭 壹阡六百五拾円		
当日の寄贈者		
清酒 一本 堀尾兵藏氏		
清酒 一本 川口潮氏		
宿本		
中村勘吾		
植村房廣		
川口栄紀		
川口修一		
田畑忠義		
昭和五十八年参月拾参日		
定式祭礼		【六七】
会場 公民館		
当日正楠の宮に参拝後		
直に公民館にて日待を		
行う午後十二時終了		
礼供		
一、 平		
二、 なます		
参、 味噌汁		
四、 赤飯		
本膳献立		
一、 刺身	六皿	
二、 煮ヅ	六皿	
参、 寒天	六皿	
四、 なます	六皿	
五、 めた	六皿	
六、 寿司	七皿	
七、 赤飯		

八、 味噌汁		
夕食	押寿司	【六八】
五目飯		
酒魚代金		
金貳万七阡八拾圓也		
出席者貳拾五名		
会費一人当壹阡圓		
計貳万五阡圓也		
賽銭貳阡貳百圓也		
当日寄付者		
川口博生	清酒 一本	
川口潮	清酒 一本	
西井新之助	ジュース 一ケース	
餅米代 一二〇〇円		
宿本		
西井新之助		
西井久三		
堀尾兵藏		
大西輝雄		
植村和則		
賽銭二阡二百圓貯金に振込		
精算書別紙に明細記入		
西井新之助氏より餅米代寄付		
戴き貯金に振込む金一二〇〇圓也		
昭和五十九年参月四日		
定式祭礼		【六九】
会場 公民館		
当日正楠の宮参拝		
公民館にて日待を行ふ		
夜十二時にて終了		

礼供		
平		
なます		
味噌汁		
赤飯		
本膳献立		
一、 刺身	六皿	
二、 煮ヅ	六 "	
三、 寒天	六 "	
四、 なます	六 "	
五、 めた	六 "	
六、 寿司	七皿	
七、 赤飯	一升一合	
八、 味噌汁		
夕飯		
押寿司	二升五合	
五目飯	二升	
買物経費		【七〇】
酒 魚 その他 金額		
計 四万七千二百二十六円也		
出席人員 二十六名		
会費一人当 一千円也		
集金額 二万五千円也		
賽銭		
当日寄付者		
清酒 一本 川口潮		
一金二千円也 川口博生		
買物外の不足ハ少々な品		
は宿本達が持よる		
宿本		
杉浦 昴		
中島保拾		

二、	なます	
三、	味噌汁	
四、	赤飯	
本膳献立(昼)		
一、	刺身	六皿
二、	煮ヅ	六皿
三、	酢の物	六皿
四、	寒天	六皿
五、	すし	六皿
六、	味噌汁	
七、	なます	
夕食		
一、	寿司	
二、	五目飯	
一、費用は酒、魚代を全員より徴集し、他のものは宿本にて出費する事		
	清酒	六本
	ビール	三本
当番		
	西井新之助	
	杉浦島	
	山本長司	
	川面巖	
	植村和則	
一、酒、魚代金		
	金壹万四仟五百参拾円也	
	出席者	二十四名
	一人当り	六百六拾円
(残金は貯金へ振込む)		
一、	オレンジジュース	貳口
西井新之助氏より		

一、	清酒	貳本
	堀尾兵蔵氏より	
昭和五十五年三月一日		
	定式祭礼	
	会場	公民館
当日正午櫓の宮に参拝後直に公民館に於て日待を行ふ午後十二時終了		
礼供		
一、	平	
二、	なます	
三、	味噌汁	
四、	赤飯	
本膳献立		
一、	刺身	六皿
二、	煮ヅ	六皿
三、	酢の物	六皿
四、	寒天	六皿
五、	寿し	六皿
六、	赤飯	
七、	味噌汁	
夕食		
一、	寿し	
二、	五目飯	
一、酒魚は全員より徴集し他のものは宿本にて		
出費する事		
	酒	七本
	当番	
別當幸生		

	植村公雄	
	堀尾泰功	
	大西善吾	
	大西恭平	
一、酒魚代金		
	金二万一千二百円也	
	出席者二十五名	
	一人当り千円つづ集めて	
残金は貯金へ振込む		
一、西井新之助氏ヨリ		
オレンジジュース四口戴く		
昭和五十六年三月一日(日曜日)		
	定式祭礼	
	出席二十五名	
	会場	公民館
決議事項		
※講員の合議に依り来年度(昭和五十七年)以降、開講日を三月の第一日曜日と定む		
昭和五十六年宿本		
	橋本梓	
	堀尾昌弘	
	大西大善	
	川口利幸	
	小田幸志	
当日正午より氏神様に参拝後直に日待を行行い午後十二時終了		
禮供		
一、	平	
二、	酢のもの	
三、	味噌汁	
四、	赤飯	

本膳献立		
一、	刺身	六皿
二、	煮ヅ	六
三、	酢の物	六
四、	ぬた	六
五、	鶏肉から揚げ	六
六、	野菜サラダ盛合せ	六
七、	寿司	六
八、	味噌汁	
夕食		
一、	押寿司	
二、	手こね寿司	
三、	五目飯	
外に漬物		
※費用は、酒刺身代を全員より徴集し他のものは宿本にて負担		
	清酒	一級 六本
	サントリールオールド	二本
	酒魚代金	
	金貳万貳千八百円也	
	金一人当たり一〇〇〇円を徴集	
残金は貯金に振込む		
当日の寄贈者		
一、	金	五〇〇〇円
	川口博生	
一、サントリールオールド		一本
	ビール	五本
	大西大善	
魚(スズキ)		一本
一、	清酒	一本
	川口潮殿	
一、	清酒	一本
	橋本梓	

昭和五拾貳年七月二十九日

場所 南張公民館

人員

旧山組 一四名

新山組 二七名

計 四一名

収支之部

酒代 五本

ビール代 三ケース 一四〇〇

寿司代 一名五〇〇 三三五〇

仕出代 一名一〇〇〇 四七〇〇

つまみ代 五〇〇〇

計 九萬參阡九百圓也

新山名簿

川口博生

西井新之助

堀尾兵蔵

西井久三

大西輝夫

中村勘吾

別当幸生

橋本梓

杉浦勘

中島保拾

植村公雄

川口潮

山本長司

堀尾泰功

大西恭平

大西善吾

大西大善

川面巖

【五四】

堀尾昌弘

川口利幸

小田幸志

植村房宏

植村和則

川口栄紀

川口修一

田畑忠義

西井規雄

下向日待

旧山組より頂く

ビール

ファンタホームサイズ 十二本

コカコーラホームサイズ 十本

区長堀尾良一氏より

清酒

代理者堀尾光太郎氏より

清酒

川口博生氏より

ビール

西井新之助氏より

ビール

大西大善氏より

ビール

二十本

二十本

二十本

二十本

二十本

二十本

二十本

【五五】

後直ちに公民館に於て日待を行う

当日の礼供

一、平

二、なます

三、味噌汁

四、赤飯

本膳献立

一、刺身 六

二、煮物 六

三、酢の物 六

四、寒天 六

五、すし 六

六、赤飯

七、吸物

夕食

一、すし

二、五目飯

一、酒魚は徴集すること

他のものは宿本にて出費

すること

酒 三本

ビール 二十本

一、宿本は五名一組として

当番制とする

昭和五拾三年三月十日

当番 川口博生

西井新之助（中島保拾）

堀尾兵蔵

西井久三

大西輝男

中村勘吾

五十四年

山本長司

【五七】

川面巖

植村和則

中島保拾

別当幸生

植松公雄

堀尾泰功

大西恭平

大西善吾

橋本梓

大西大善

堀尾昌弘

川口利幸

川田幸志

杉浦勘（勘吾）

植村房宏

川口栄紀

田畑忠義

川口修一

酒魚代

金壹萬貳阡百九拾圓也

一人当り 金五百圓也

出席者 二十五名

昭和五十四年三月一日

定式祭礼

会場 公民館

当日正午櫓の宮に参拝後

直に公民館に於て日待を

行ふ、午後十二時終了

礼供

一、平

平

平

平

【五九】

【五八】

計	五三四〇円
右金額を宿本を除き 五名にて割勘定	
一人当り	一〇六八円也
欠席	川口一弥氏
る組	
中村官市氏宅	
不記	
昭和四十九年三月二日	
定式祭礼	
い組	岩田元男氏
る組	岩田道夫氏
有るが合同	
公民館にてお日待を 行ふ	
両組合計	
酒二升	壹阡九百六十円
さしみ	四阡一百六十円
煮魚	壹阡八百九十円
さんま	四百円
両組合計金	
八阡四百五十円也	
十三名にて割勘定	
一人当	八百五十円也×
昭和五拾年参月貳日	
定式祭礼	
宿本	大西政千代
川口一弥	
合同にて公民館にて 御日待を行ふ	
【四八】	

・酒二升	貳阡参百六拾円
・さしみ	参阡五百参拾円
・さんま	八百四拾円
・煮魚	壹阡八百円
両組計「八阡五百参拾円」	
十三名にて割勘定	
一人当	七百円也
●明五拾壹年度より 参月第一日曜日とする	
●米の持参を無しと する	
昭和五十一年一月	
杉浦清也氏	死亡
昭和五十一年三月七日(日曜日)	
定式祭礼	
今回より毎年参月の第一日曜日と定む	
右の通り執行すべきところ都合 により左記の如く定式祭礼を 行ふ	
会場	公民館
昭和五十一年三月十二日	
宿本	山本一郎
大西善郎	
一、清酒貳升	貳阡六百六拾円
二、鰯(三本)	参阡九百五十円
三、煮魚	貳阡四百貳拾五円
四、すし用あじ	壹阡四百拾円
五、〃	さんま 六百円
合計	壹万壹阡貳拾円也
宿本を除く十二名にて割勘定とす	
一人当九百拾八円也なれども	
金壹阡円也とする	
【五〇】	

翌伍拾貳年度より三月二日とする 当日の献立	
1. 煮メ	四
2. 膾又ハヌタ	四
3. 寒天	四
4. 煮魚	六
5. 刺身	六
礼供	
1. 平	4. 味噌汁
2. ツボ	5. 赤飯
3. ナマス	
昭和五拾貳年三月一日	
定式祭礼	
注 本年より三月二日と定むれど も都合に依り本日行ふ	
会場	公民館
宿本	正木欽一
別当博	
一、清酒二升	一、金 貳阡六百六十円
一、刺身	一、四阡五百円
一、ムツ	一、三阡円
一、イカ	一、六百円
一、サンマ	一、壹千五百円
一、かしわ	一、貳百八十円
合計	壹万貳阡五百四十円
宿本を除く十名にて割勘定	
として山本一郎氏ハ五百円お願い し四十円は宿本にて負担して 頂きし為	
一人当り壹千貳百円とする	
昭和五拾参年度より	
三月一日午後一時とする	
【五一】	

富士参り決算	
昭和五拾貳年七月	
収入之部	
会費	二十七名分(一名三〇〇〇〇) 八一〇〇〇
餞別	二名 区長 堀尾良一氏 教育長 西井保三氏
合計金	八拾五萬圓也
支出之部	
日本旅行社	二十七名分(一名三二〇〇〇) 八六〇〇〇
運転手寸志	三名 九〇〇〇
土産	二 四二〇〇
宴会費	一二三三八五
強力	二〇〇〇〇
鉛筆	四六六〇
電話代	八〇〇
合計金	壹百貳萬 壹阡四拾五圓也
差引不足額	
金 拾七萬壹阡四拾五圓	
不足分徴収(一名一〇〇〇〇)	
二七〇〇〇	
不足額	一七一〇四五
下向日待	九三九〇〇
経費	
貯金	五〇五五
下向日待	
【五三】	

他に白米五合	昭和三十九年度宿本	【四二】
ろ組 宿本	い組 正木欽一	
別當 博	ろ組 正木俊一	
三十九年度宿本	昭和三十九年三月二日	
定式祭礼	い組 宿本 正木欽一	
ろ組 正木俊一	ろ組 川口忠良	
一、酒代 六七五円	一、魚代 七〇〇円	
合計 一三七五円	他に白米五合	
右之金額は宿本を除き七名	割勘定 一名宛 二〇〇円也	
昭和四拾年三月二日	定式祭礼	
い組 岩田一夫宅	ろ組 中村官市	
会費 貳百円也	昭和四拾老年三月二日	
定式祭礼	い組 植村誠一宅	
ろ組 柳生勝敏宅	一、酒代 七百十円也	
一、魚代 老阡円也	合計金 老阡七百拾円也	
他に白米五合	右之金額は宿本を除く	
七名割勘定一名宛	金貳百五拾円也	

四拾貳年度宿本	昭和四拾貳年三月二日	【四三】
岩田元男君	定式祭礼	
世古勝三君	い組 岩田元男君宅	
ろ組 岩田道生君宅	一 酒代金 七百四拾五円也	
一 魚代金 貳阡參拾円也	合計金 貳阡七百七拾五円也	
他に白米五合	右之金額は宿本を除く	
七名割勘定一名宛	金四百円也	
昭和四十三年度宿本	い組 川口一弥君宅	
ろ組 大西政千代君宅	昭和四十參年三月二日	
定式祭礼	い組 川口一弥君宅	
ろ組 大西政千代君宅	一金酒魚代金	
合計金 貳阡貳百円也	他 白米五合	
右之金額は宿本を除く	六名割勘定一名宛	
金四百円也	昭和四拾四年三月二日	
定式祭礼	い組 小田直氏宅	

ろ組 山本一郎氏宅	昭和四十六年三月二日	【四五】
酒魚代	定式祭礼	
い、ろ組合計六阡貳百六拾円也	い組 杉浦清也様宅	
他に白米五合	ろ組 別當博様宅	
右金額宿本を除き割勘定	い組 酒魚代含み三阡百四拾四円	
昭和四拾五年三月二日	□□酒一升八三〇円魚代二阡四百十四円	
定式祭礼	岩田一夫氏昨年九月死亡に付	
ろ組 別當博様宅	欠席す	
い組 杉浦清也様宅	煮魚代 八九〇円也	
ろ組 別當博様宅	煮魚代 一〇〇〇円也	
い組 酒魚代含み三阡百四拾四円	刺身 一一四〇円也	
□□酒一升八三〇円魚代二阡四百十四円	アジ代 五〇〇円也	
岩田一夫氏昨年九月死亡に付	計 三三三〇円也	
欠席す	右金額を宿本を除き	
煮魚代 八九〇円也	六名にて割勘定	
煮魚代 一〇〇〇円也	一人当り 五八八円也	
刺身 一一四〇円也	煮魚代 八九〇円也	
アジ代 五〇〇円也	刺身 一一一〇円也	
計 三三三〇円也	アジ代 一六二〇円也	
右金額を宿本を除き	六百五十円	
六名にて割勘定	四二七〇円也	
一人当り 五八八円也	八名にて割勘定	

一人あたり五三四円	昭和四拾七年三月二日	【四六】
定式祭礼	い組 正木欽一様宅	
ろ組 柳生勝敏様宅	（い組）酒代一升 八九〇円也	
煮魚 九九〇円也	刺身 一三〇〇円也	
鰯 三〇〇円也	計 三四八〇円也	
右金額を宿本を除き	六名にて割勘定	
一人当り 五八〇円也	（ろ組）酒代一升 八九〇円也	
煮魚 一二三〇円也	刺身 一四五〇円也	
鰯 四〇〇円也	計 三八七〇円	
八名にて割勘定	一人当り 四八五円也	
昭和四十七年十二月	小田直氏 死亡	
昭和四十八年三月二日	定式祭礼	
い組 植村誠一氏宅	ろ組 中村官市氏宅	
い組 酒代一升 八百九十円也	煮魚 一六五〇円	
刺身 二三五〇円	アジ代 四五〇円	

割勘定	各六拾円宛
講員	八名
(い組)	小田 直
	杉浦清也
	大西善郎
	正木欽一
	岩田一夫
	植村誠一
	岩田元男
	川口一弥
講員	九名
(ろ組)	山本一郎
	別當 博
	正木俊一
	川口忠良
	中村官市
	世古勝三
	柳生勝敏
	岩田道生
	大西政千代
昭和三十五年四月二日	
定式祭礼	
い組 宿本	川口一弥
1. 酒(一升)	四九〇円
2. 魚代	一五〇円
合計	六四〇円
	右金額を宿本を除き
	講員七名に割勘定
一人	一〇〇円也
ろ組 宿本	
岩田道生	

回章 控	
明四月二日は富士講定式	
祭禮相宮□講員諸氏の	
家運隆盛と家業の	
繁栄を御祈願いたす為め	
当日正午より宿本岩田元男宅へ	
御参集相成為御案内申上げました	
い組講員順番二御願□□	
小田直殿	
杉浦清也殿	
大西善郎殿	
正木欽一殿	
岩田一夫殿	
植村誠一殿	
川口一弥殿	
宿本 岩田元男	
昭和参拾四年度	
い組宿本岩田元男君宅	
酒代一升	四百九拾五円也
魚代(さへら)	貳百円也
計	六百九拾五円也
講員(い組)八 宿本を除き	
割勘定	各壹百円也
昭和三十六年四月二日	
定式祭礼	
い組宿本	小田直
1. 酒(一升)	五〇〇円

2. 魚代	三四〇円
合計	八四〇円
	右金額を宿本を除き
	講員六名に割勘定
	(川口一弥君都合二ヨリ欠席)
一人	一五〇円也
ろ組宿本	
	大西政千代
昭和三十六年四月二日	
全講員合議の上	
右の通り定める	
一、期日の変更	
	昭和三十七年度以降は
	毎年三月二日を定例
	祭日と定める
一、献立	
1. 煮ヅ	
2. 酢合(ナマス)	
3. シタシ	
4. 煮ザカナ	
5. 刺身	
一、会計	
	左のものに就いては宿本を除き割勘定とす
	一、夕食ノサカナ代
	一、煮ザカナ
	一、刺身
	一、酒代(一升)
	一、白米(各自五合持参)
昭和三十七年三月二日	
定式祭礼	

い組宿本	
	杉浦清也
一、酒代一升	五三〇円
二、魚代 煮サカナ	三五〇円
	五目出し
三、サシミ	五〇〇円
合計	一三八〇円
	右金額を宿本を除き
	講員七名に割勘定
一人	二〇〇円
	及白米五合
ろ組 山本一郎	
い組 八名	
ろ組 九名	
	昭和三十八年度宿本
い組 大西善郎	
ろ組 別當 博	
集会 午後一時	
昼 茶菓子	
夕食「チラシすしおよび五目飯」	
昭和三十八年三月二日	
定式祭礼	
い組宿本	大西善郎
一、酒代	五三〇円
一、刺身魚代	四五〇円
一、煮魚代	三六〇円
一、夕食だし代	一三〇円
合計	一四七〇円
	右金額を宿本を除く
	六名(一名欠席)にて
割勘定	

植村誠一

一金

(音本を除く)

講員（ろ組）九名 盲本を除き

講員二十一名 大西〓十名
川口〓十一名
酒代各五合
計一升代二四〓錢
右ノ通り
追記
下向日待ノ魚代十五錢先送り
昭和十九年四月二日
定式祭礼
宿本 イ 正木欽一
口 大西守
講員二十一名 イ 十名
ロ 十一名
酒代(各五合)
合計三〓二十錢
イ・・・一〓六十錢
ロ・・・一〓六十錢
魚代(肴ノ煮魚代)
イ・・・三〓十錢
ロ・・・三〓八十錢
砂糖代 一人当り五錢宛宿本宅□□各自
受入
昭和貳拾年四月二日
【二四】
定式祭礼
宿本 イ組 杉浦清也
口組 別当 博
講員廿一名
イ組 十名(宿本共)
口組 十一名(〓)
酒代(各五合) 宿本ハ除く
合計 四〓八拾錢
イ・・ 二〓四拾錢

ロ・・ 二〓四拾錢
魚代 五〓二十五錢
イ・・ 二〓五拾錢
ロ・・ 二〓七十五錢
右之通り
昭和二十一年四月二日
定式祭礼
宿本 イ組 岩田一夫
口組 川口徳三
講員 十九名 イ組 九名
ロ組 十名
酒代(五合)
金拾〓百伍拾錢
魚代
イ組 貳拾八〓
口組 四拾〓
昭和貳拾貳年四月二日
【二五】
定式祭礼
宿本 イ組 植村誠一
口組 川口忠良
講員 十九名 イ組 十名(宿本除)
ロ組 九名(〓)
酒代 イ組(五合)
一 金貳拾〓百伍拾錢也
魚代 イ組(老貫)
一 金〓百〓也
酒代 口組(五合)
一 金貳拾〓百伍拾錢也
魚代 口組(老貫)
一 金〓百〓也
昭和貳拾參年四月二日
定式祭礼

宿元 イ組 小田保一
口組 正木俊一
講員 貳拾〓名 イ組
口組
酒代 イ組
一金參百五拾〓
魚代 イ組
一金參百拾〓
酒代 口組
一金參百伍拾〓
魚代 口組
一金參百拾〓
右之通
看代は宿元除く
イ組 口組
岩田元雄 ×川口徳三
山本勝三 岩田道男
岩田一夫 柳生勝利
植村誠一 大西政千代
正木欽一 中村堪一
杉浦清也 別當博
×小田保一 山本一郎
小田直 ×川口甚一
川口一弥 正木俊一
大西善郎 ×大西守
山本義一
右昭和貳拾參年四月二日
日待出席人名但宿元共
イ組 口組
拾名 八名
【二六】

昭和貳拾四年四月貳日
定式祭礼
宿本 イ組 山本勝三
口組 中村官一
(宿本共)
講員拾八名 イ組 拾名
(宿本共)
口組 八名
酒代(イ組)(五合)
一金參百七拾八〓五拾錢也
魚代(イ組)
一金四百六拾七〓五拾錢也
酒代口組(五合)
一金參百七拾八錢五拾錢也
魚代(口組)
一金四百六拾七〓五拾錢也
昭和貳拾五年四月二日
定式祭礼
宿本 イ組 岩田広男
口組 柳生勝敏
講員拾八名 イ組宿本共 拾名
口組 〓 八名
酒代(イ組五合)
一金三百貳拾〓也
魚代
一金參百五拾〓也
口組酒代
一金參百貳拾〓也
魚代
一金參百五拾〓也
昭和貳六年四月二日
【二七】
【二八】

右八廿九年度繰越金	
一金六厘五毛	
右八四十年度繰越金	
明治四拾壹年度	
宿本 大西政之ゝ	
岩田市次郎	
改前年度繰越金を	
明治四拾壹年度ニ於テ	
諸雜費拂フ	
右之通り	【二六】
富士講費	
一金四円 肴代	
一金壹円伍拾錢 酒代	
(二升)	
計金五円伍拾錢	
一人割 四拾錢	
昭和四年四月貳日	
宿本 岩田謙一	
中村寛也	
富士講費	【二七】
一金四円伍拾錢 魚代	
一金一円伍拾錢 (酒一升代)	
計金六圓也	
昭和五年四月二日	
宿本 小田静雄	
中島一角	
富士講費	
金四円也 魚代	
一金壹円參拾錢也 酒代	
計金五円參拾錢也	

昭和六年四月貳日	
宿本 川口勇夫	
別當正生	
富士講費	【二八】
金貳円參拾錢也 魚代	
七拾八錢也 酒代	
計金參円八錢也	
昭和七年四月二日	
宿本 大西庫司	
川口正彦	
富士講費(下向日待)	
金參円四拾錢也 魚代	
一金壹円參拾錢也 御酒代	
計四円七拾錢也	
昭和七年七月廿九日	
宿本 西井幸之助	
西井隆	
昭和八年四月二日	
宿本 川面権衛	
川口弥一	
昭和十年四月二日	【二九】
宿本 橋本又司	
大西善志	
講員 西井幸之助	
西井 澄	
堀尾光太郎	

植村厳一	
小田楠彦	
西井小一	
堀尾郁朗	
正木留吉	
別當純吉	
大西楠寿	
講費肴料	
昭和十一年四月二日	【三〇】
宿本 堀尾光太郎	
講費肴料 四円十錢	
昭和拾三年四月二日	
宿本 植村厳一	
講員 西井幸之助	
西井澄	
堀尾光太郎	
小田楠彦	
堀尾郁郎	
西井小一	
別當純吉	
大西楠寿	
正木留吉	
講費肴料 一金二円拾錢也	
昭和拾三年四月二日	【三一】
宿本 堀尾郁朗	
魚代 二円四拾錢也	
酒代 八拾錢也	

昭和拾四年四月二日	
宿本 小田楠彦	
魚代 二円六拾錢也	
酒代 八拾錢也	
(三行墨消)	
昭和拾五年四月二日	
宿本 別當純吉	
魚代 三円十錢	
酒代 一円三〇錢	
昭和拾六年四月二日	【三二】
宿本 大西楠寿	
魚代 二円也	
酒代 一円二拾錢也	
合計三円二拾錢也	
昭和十七年四月二日	
宿本 正木留吉	
魚代 三円五十錢	
酒代 六十九錢	
昭和十七年七月廿九日	
下向ノ日待	
宿本 小田直	
同 山本一郎	
講員各拾名	
酒代 二円五十三錢(二軒分)	
魚代 四円三十四錢	
合計金 六円八十七錢也	
昭和十八年四月二日	【三三】
定式祭礼 宿本	
大西善郎	
川口甚一	

一	金壹円貳拾八錢
	右ハ酒四升代拂
一	金貳拾錢
	右ハ晦日日待ノ宿本へ席料トシテ
	鈴木茂平殿へ拂
	明治三拾壹年五月晦日改メ
	差引繰越金
一	金四錢五厘
	明治三拾壹年富士參詣ニ付下向日待
	之節右之金子酒代工使用ス
	卅一年旧六月廿一日
一	金六拾四錢
	酒貳升代
	政治郎殿へ拂
	右ハ下向山之迎ニ付古山社中ヨリ拂
	卅一年六月廿一日
一	金九拾六錢
	酒三升代
	右ハ下向日待ニ付新山ヨリ政吉殿ニ拂
	卅一年旧六月廿一日
一	金伍拾錢
	席料トシテ
	呈ス
	右ハ下津浦新山下向日待ニ付
	當講社ヨリ氣付並ニ席料トシテ
	宿本政吉殿工呈ス
一	金五厘
	右ハ參拾壹年度殘金先送ル
	卅壹年旧六月廿一日改メ
	請之部
	明治參拾壹年度繰越金及
	參拾貳年度五月廿八及晦日
	御幣料及賽錢受取
	計金壹円二拾壹錢三厘
	拂之部

【一〇】

一	金壹円九拾八錢
	右酒六升代會社拂
一	金四拾錢
	右ハ晦日日待ノ宿本へ席料トシテ
	大西善之輔殿小田彦市殿兩家へ拂
一	金壹錢也
	右ハ酒八寸代堀尾清六殿へ拂
	是ハ西井貞三ヨリ進呈ス
一	明治三拾二年度ハ繰越金一毛モ無シ
	請之部
	明治參拾參年度五月廿八日及
	晦日御幣料及賽錢金
	計金壹円五拾錢三厘
	拂之部
一	金貳円貳拾八錢
	右ハ廿八日晦日御酒代六升會社へ拂
	總合計金貳円參拾
	錢二厘五毛
	外ニ四拾錢
	右ハ晦日之宿本へ席料トシテ
	正木桶平山本典三郎
	両君へ拂
	二口メ二円七拾錢二厘五毛
	差引不足金一円二拾錢
	殘差引
	金二厘過剩金
	明治三十五年
	五月廿八日
	勘定書
一	貳円四十錢
	酒六升代

【一二】

一	四十錢
	席料
	晦日□二人分
一	十八錢
	紙四帳代
	メ貳円九十八錢
	岩田楠□
	西尾楠太郎
	中島楠藏
	西井楠二郎
	右之通り
	金六厘
	過剩金
	翌年へ繰越ス
	明治三十六年
	五月二十八日
	勘定書
一	金九十九錢
	酒二升二合代
	西井德平
	山本新太郎
	大西善松
	橋本初太郎
	右之通り
	昨年度ノ過剩金六厘翌
	年へ繰越ス
	明治三十七年五月廿八日
	勘定書
一	金壹円拾五錢參厘
	御幣料其他
	外ニ
	一金六厘
	前年繰越金
	合計金壹円十五錢九厘也
	右□過金
	宿本
	岩田市太郎
	□□藤次郎

【二三】

明治三十八年五月二十八日	
勘定書	
收入	
一	金伍拾錢
	内九厘切
	御幣料
一	金伍拾錢
	浜垢離日待地下酒代
一	金壹円十五錢九厘
	前年度繰越金
	合計貳円拾五錢九厘
	支出
一	金貳拾參錢
	十八日浜垢離日待酒代
一	金四拾六錢
	揚垢離酒代
一	金
	雜費
	合計六拾九錢
	差引壹円四拾六錢
	右正二過金
	宿本
	川面権右衛門
	大西善次郎
	右之過金
	翌年へ繰越ス
	明治廿九年三月七日
	富士講費
一	金壹円四拾六錢
	右ハ御造榮ニ付仕拂
	但シ卅八年度ヨリノ繰越金
一	金六錢

【二五】

【二四】

【翻刻】

(記載事項解説できず)

【表紙】

宿本当番はかならず

【一】

其の年の祭礼の件この帳簿
に記帳して下さい

係より

廿八年度受之部

【二】

一 金四拾八錢七厘

三十七年度精算繰越金

一 金壹円八拾六錢六厘

右ハ揚垢離御幣料及賽銭□□

計 金貳円三拾五錢三厘

同拂之部

一 金壹円六拾八錢

右酒八升代岩田□□拂

一 金貳錢

右ハ御幣用半紙廿枚代

中村勘□□拂

一 金四拾錢

【三】

右ハ五月晦日日待宿本席料

当番正木安吉、大西政吉両氏二拂

計金貳円拾錢

受拂当年残金

金貳拾五錢三厘

正繰越金

明治二十八年旧五月二十八日

一 金貳拾三錢六厘

右同年閏五月二十八日□日待極月

二付酒饌料前借ス

受拂計

残金壹錢七厘

過剰金

明治二十八年舊五月二十八日

同年旧六月十三日富士登詣下向二付

【四】

出迎御酒料受拂記

一 金拾八錢貳厘

右酒壹升代

出□古山總人口之廿四名

老名二付金七厘五毛宛報集

□□ス

同年同月十六日下向日待受拂

記

受之部

一 金八錢五厘

右同年五月廿八日過剰金及下向日待賽銭共

一 金壹円廿五錢四厘

右講社中四十四名老名二付

貳拾八厘五毛宛報集ス

計金壹円三拾三錢九厘

同拂之部

一 金八拾四錢

右酒四升代

一 金九錢五厘

右該□簿代

一 金四拾錢

右下向日待兩度席料

計金壹円參拾三錢五厘

差引

金四厘 過剰金

外二毫錢賽銭追加ス

一 金貳錢四厘

右ハ明治廿八年旧九月二十一日惡病除去折

講臨付日待之際各組ヨリ徵集ノ過剰金

明治貳拾九年受ノ分

【六】

一 金三錢一厘

右ハ廿八年度繰越金也

一 金壹円八拾錢

右ハ本年御幣料乃賽銭

一 金三拾八錢

右ハ社中ヨリ集メ金

但シ三十八名乃□一人前二付老錢宛ツメ

計金貳円拾八錢

同拂ノ部

一 金四拾錢

右ハ五月晦日兩宿席料二拂フ

一 金壹円七拾六錢

右ハ酒代二拂フ

計金貳円拾六錢

指引廿八年度繰越金者

金五錢壹厘過剰金

一 金參錢四厘五毛

右ハ明治廿九年六月廿八日當区惡

疫退散二付願杲之日待酒

肴料徵集金之過剰

明治三拾年受拂ノ記

受ノ部

一 金三錢四毛

右ハ廿九年六月ノ繰越金受取

一 金四拾貳錢

右ハ総目□割六金一人老錢四毛宛受取

一 老円拾六錢

右ハ三拾年度五月廿八日乃晦日

御幣料乃賽銭受取

計金壹円六拾

老錢四厘四毛

拂ノ部

一 金壹円拾六錢

右ハ五月廿八日晦日兩日二要スル

一 金五錢

御酒代拂

右ハ廿八日二要スル紙一丈代拂

一 金四拾錢

右ハ晦日日待宿本政吉 十郎

計金壹円

六拾老錢

差引繰越金

五厘也

明治參拾壹年受拂之記

受ノ部

一 金 五厘

明治三拾年五月三拾日ノ繰越金受取

計

一 金壹円五拾貳錢五厘

右ハ三十壹年度五月廿八乃晦日

御幣料乃賽銭受取

拂之部

【九】

資料「(南張富士講帳簿)」(一四五頁・表紙および裏表紙除く)が含まれていた。その記載事項は多岐にわたるが、大きく分けると以下のような内容に分類することができる。

① 講行事(年に一度開催される日待(定式祭礼)および、不定期におこなわれる富士山への参詣とそれにもなう下向日待)の参加者、行事内容、歳入歳出に関する事。

② 講の規約に関する事。

③ 講のメンバーの加入・脱退に関する事。

まず、①についてであるが、南張富士講帳簿の大部分を占める記録である。明治四〇年(一九〇七)から昭和三年(一九二八)の記録は欠落しているものの、明治二八年から平成二〇年までの講の行事にかかわる収入の内訳、歳出の内訳が確認できる。特に、歳出の内訳とその内容を詳細に見てみると、どのような行事をおこなっていたのか、あるいは祭礼でどのような食事が供されていたのかということを知ることができる。

また、定式祭礼の開催場所が、講員の中から順番で選ばれた宿本宅から公会堂、宿泊施設へと変遷するとともに、集落内の大日如来を祀る「浅間さん」への参拝や水垢離の行事が昭和四年(一九二九)以降実施されないようになり、集落の氏神である楠宮八柱神社への参拝のみがおこなわれるようになる。また、平成一二年(二〇〇〇)以降には、氏神への参拝に加えて、伊勢神宮への参拝がおこなわれるようになるほか(九四頁)、平成一九年(二〇〇七)から祭礼への女性の参加者の名前が確認できるなど(一一四頁)、南張富士講の日常的な行事における富士山への信仰が次第に薄れていく様子がうかがえる。

次に、②であるが、明治期のものを中心に、講に関わる取り決めが記載されている。特に、水垢離をともなう日待の行事に関しては、厳しく身を清めることが求められていたようで、村山の修験者によって広められた富士山信仰の姿が残存していたことがわかる(一二三頁から一二九頁など)。また、日露戦争の引き金となる日本とロシアの国交断絶を受けて、定式祭礼の会食を簡素なものとする取り決めがなされているなど、講が当時の社会情勢に大きな影響を受

けていたということを知ることができる(一一八頁から一一九頁)。

最後に③であるが、南張富士講のメンバーの加入・脱退についての記録である(一三三頁から一四四頁)。南張富士講帳簿には一三年間の間に、明治二八年(一八九五/乙未)、明治三一年(一八九八/戊戌)、明治四三年(一九一〇/庚戌)、大正九年(一九二〇/庚申)、昭和七年(一九三二/壬申)、昭和一七年(一九四二/壬午)、昭和五二年(一九七七/丁巳)の計七回の富士山への参詣がおこなわれたことが記録されている。この加入・脱退の記録を見れば、富士山への参詣を終えた講員が新山と呼ばれる新しい集団となり、それまでの講員は古山として日待の宿元を行った後に講を抜けるというシステムをとっていたことがわかる。しかし、最後の富士山参詣がおこなわれた昭和五二年以降は、参詣を終えた新たなメンバーの加入がなく、この時の参詣者が新山として平成二三年(二〇一一)まで講を続けたのである。

ここまで述べてきたように、南張富士講帳簿には、当地の富士講に関わる様々な情報が記載されており、その変容の姿を知ることができる。今後さらなる分析を進めるとともに、南張富士講の変容の背景にあるものについて、聞き取り調査などから具体的に明らかにしていく必要がある。また、南張富士講帳簿が含まれていた資料群には、明治六年に南張の大日如来を祀る「浅間さん」を造営した際の記録や、江戸時代の年記を持つ各種記録類が含まれる。こうした記録もあわせて分析することにより、伊勢・志摩地方における富士山信仰の研究成果の蓄積の一助となるであろう。

最後に、突然の訪問にもかかわらず、聞き取り調査や写真撮影のみならず、本稿への掲載を快くお許しいただいた堀尾兵蔵氏、調査に御協力いただいた江崎満氏(鳥羽郷土史会)、崎川由美子氏(志摩市歴史民俗資料館)に厚く御礼申し上げます。

翻刻凡例

・【 】内の数字は、ページ数を示す。

・解読できない文字については、□で示した。

南張富士講帳簿の翻刻と解説

井上 卓哉

本稿は、三重県志摩市浜島町南張地区において組織されていた富士講（以下南張富士講と表記）について、元講員のお宅に残されていた南張富士講に關係する資料群「南張富士講書類」のうち、「（南張富士講帳簿）」を翻刻にて紹介し、簡単な解説をおこなうものである。

噴火を鎮めるための遥拝に端を発するとされる富士山に対する信仰は、登山道の拠点となる信仰施設と關係をもつ宗教者により異なる展開が見られる。その中でも、中世から江戸時代にかけて、表口（大宮・村山口）の村山興法寺では、大鏡坊・辻之坊・池西坊の村山三坊を中心とする修験者（村山修験）が活発に活動していた。

特に、江戸時代には、村山三坊から各地に先達が免許され、先達の免許を得た修験者たちは、先達所といわれる担当地域の人々を引導して富士参詣に訪れていた。また、村山の修験者は各地を檀廻して富士山に対する信仰を広め、富士参詣を勧めたとされる（富士宮市教育委員会、『村山浅間神社調査報告書』、二〇〇五・九三）。

その活動範囲は、遠く紀伊半島や関西まで広がっており、各地で参詣前に精進潔斎をおこなう垢離場や、富士山の本地仏である大日如来などを祀る「浅間さん」が設けられた。それとともに、先達を中心とする富士講が組織され、富士山への参詣や富士垢離（参詣前の精進潔斎であるとともに、地域によっては、地元での垢離のみで参詣と同様の利益を得ることができるとされた）の行事が盛んに行われた。その後、明治の神道化政策・修験道禁止等により、多くの場所では村山を拠点とする富士講は衰退することとなった。

しかしながら、三重県の伊勢・志摩地方では現在でも富士山への参詣や富士垢離を行っている場所や、行事自体は途絶えてしまったものの、富士講に関わ

る文書や資料が遺されている場所がある。ただし、こうした事例は江戸時代からの富士山に対する信仰をベースにしたものではあるが、富士山や村山とのつながりは希薄となり、さらに、行事の内容はそれぞれの場所により異なる展開を経て現在へと至っている。それゆえに、現在の伊勢・志摩地域の富士講を、従来から議論されてきた富士山信仰の一つの形として捉えるだけではなく、富士山や村山との関連性や、行事そのものがどのように変容してきたのかということを検討する必要がある。

このような問題意識のもとで、平成二十七年（二〇一五）三月に、伊勢・志摩地域における富士講に関わる調査を実施した。その一つが、三重県志摩市浜島町南張地区である。南張の人々による富士参詣の記録として、元禄二年（一六八九）における富士山への道者（参詣者）を記した「駿州富士大宮本宮道者帳」に、志州南針（張）の人物四人の名が確認できる（浅間神社社務所編、『浅間文書纂』、国書刊行会、一九七四・五二七）ことから、江戸時代の初期から当地で富士講が組織され、富士山への参詣がおこなわれていたようである。

さらに、現地での調査の結果、南張富士講では、昭和五二年まで富士参詣をおこなっていたことが明らかとなった。また、地元での行事である富士垢離（南張では日待ちと呼ぶ）については、平成二三年まで行われていたという。それとともに、講員の中で引継ぎされてきた南張富士講に關係する史料群「南張富士講書類」一三二点や、富士山を描いた掛軸（弘化二年（一八四五）に当地の徳林寺という寺院の住職から講のメンバーへ譲られたもの）が遺されていたことを確認した。

この「南張富士講書類」の中には、明治二八年（一八九五）から平成二〇年（二〇〇八）までの一三三年間におよぶ講にかかわる様々な事項を書き留めた

利用案内

<富士山かぐや姫ミュージアム（富士市立博物館）>

- ◇所在地 〒417-0061 静岡県富士市伝法 66 番地の2 TEL 0545-21-3380 FAX 0545-21-3398
- ◇開館時間 夏期（4月～10月）9:00～17:00 / 冬期（11月～3月）9:00～16:30
- ◇休館日 月曜日（祝日の場合は開館）、祝日の翌日、12月28日～翌年1月4日まで
- ◇観覧料 無料
- ◇交通 J R 線：J R 東海道本線富士駅・吉原駅、東海道新幹線新富士駅から車で 20 分
路線バス：吉原中央駅③番線で乗車、「広見団地入口」下車、徒歩 3 分
高速バス：富士 IC「東名富士」下車、徒歩 20 分
車：西富士道路「大淵・広見インター」降りて東へ 1 分、駐車場あり

<富士市立歴史民俗資料館（博物館分館）>

- ◇所在地 〒417-0061 静岡県富士市伝法 86 番地の7 TEL・FAX は博物館に同じ
博物館より北へ徒歩 3 分 *広見公園歴史ゾーン（博物館に隣接）に屋外展示

◇開館時間・休館日・お問い合わせ先は博物館に同じ

◇観覧料 無料

<富士市立富士川民俗資料館（博物館分館）>

- ◇所在地 〒421-3305 静岡県富士市岩淵 8-1 TEL・FAX は博物館に同じ

◇開館日 土・日・祝日（開館時間は博物館と同じ）

◇観覧料 無料（屋外からのみ御覧いただけます）

◇お問い合わせ先は博物館に同じ

◇交通 J R 線：J R 東海道本線富士川駅から徒歩 15 分

高速バス：東名富士川 SA「東名富士川」下車、徒歩 15 分

車：東名高速道路富士 IC 降りて南西へ約 30 分、または、東名富士川 SA スマート IC 降りて南西へ 2 分、駐車場あり

<小休本陣常盤家住宅主屋（国登録有形文化財）>

- ◇所在地 〒421-3305 静岡県富士市岩淵 455 TEL・FAX は博物館に同じ

◇開館日 土・日・祝日（開館時間は 9:00～16:00）

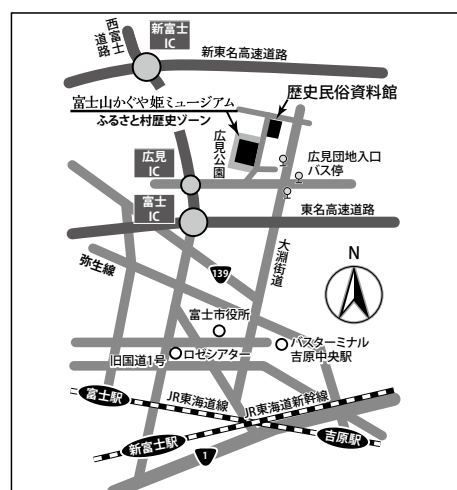
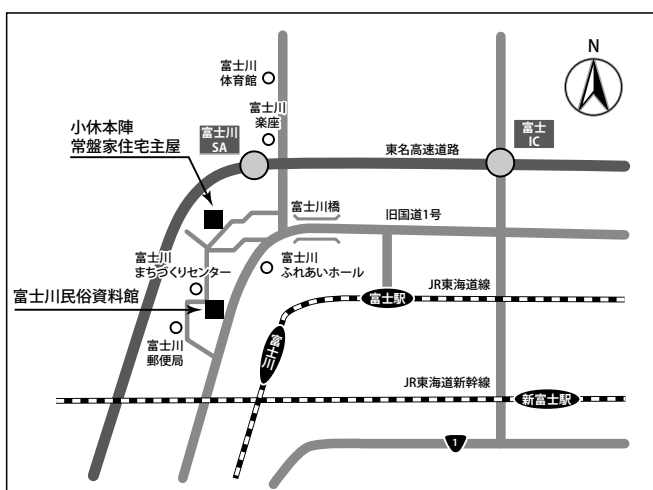
◇観覧料 無料

◇お問い合わせ先は博物館に同じ

◇交通 J R 線：J R 東海道本線富士川駅から徒歩 20 分

高速バス：東名富士川 SA「東名富士川」下車、徒歩 10 分

車：駐車場がございませんので車での御来場は御遠慮願います。



平成 27 年度 博物館職員

館 長	木ノ内 義 昭
主 幹	芦 澤 充 祥
主 査（学芸員）	高 林 晶 子
主 査（学芸員）	瀧 浪 和 美
主 査（学芸員）	井 上 卓 哉
上席主事（学芸員）	藤 村 翔
主 事（学芸員）	井 坂 武 男
臨時職員（指導員）	久 保 田 英 聖
臨時職員（管理員）	宇 佐 美 和 代
臨時職員（事務補助）	金 刺 才 己
臨時職員（事務補助）	土 屋 麻 由 美
臨時職員（調査員）	山 本 倫 弘

富士山かぐや姫ミュージアム 館報

第 31 号（平成 27 年度）

編集・発行 富士山かぐや姫ミュージアム（富士市立博物館）

〒 417-0061 静岡県富士市伝法 66-2

TEL 0545(21)3380

FAX 0545(21)3398

E-mail : museum@div.city.fuji.shizuoka.jp

URL:http://museum.city.fuji.shizuoka.jp

発 行 日 平成 28 年 9 月 30 日

印 刷 文光堂印刷株式会社

Annual Report

vol.31 / 2015

The Annual Report of The Mt.Fuji and Princess
Kaguya Museum in Fuji city,Shizuoka,Japan



September,2016

Mt.Fuji and Princess Kaguya Museum